

地と朝鮮は同じく大日本帝國臣民同志の一つ釜の飯を食ふ國民であることを忘れた者の不用意な言であらうと思ふ。總督當局など今更米はあまりつくるな今廬は内地人が嫌つてきたからと云はれる義理でもなからう。内地米價格維持は他の社會政策的手段を國家に於て講ず可く決して朝鮮産米の増殖と日本の食糧自給自足の大局からみて折角の朝鮮米の増殖目ざましきその鼻息を押へてはいけなないのだ。米を食ふ日本人が外米の世話にならずに濟めば結構ぢやないか。外米はどんどん入つてくる。一朝有事の際この米を買つて食ふつもりなのか。

最近總督府に於ては鮮米移出調節懇談會と謂ふものを京城に開いて居つた。それは農業倉庫や商業倉庫の制度によつて調節をはかると云ふのだ。昭和四年度に於ては、南鮮地方が旱魃のため前年度の移出額七百四十萬石に比し、五百六十萬石と云ふ激減であつたけれども、併し内地産米の出廻數一千二百萬石の半數に及びその販路も長年の努力によつて、内地の殆んど全國に牢乎たる鮮米の地盤を開いて居ることは内鮮の經濟的關係が密接なるものとして喜ぶ可き現象である。朝鮮農家の經濟は頗る貧弱であつて内地に移出する時期が偏倚して居るかも知れない、即ち總移出の大半は出來秋に一時に内地市場に出てゆくの、内地の米穀需給關係が攪亂され、従つて米價は下落するので内地の生産者が困ると云ふ勘定、朝鮮の生産者も又困つてくるだらう。總督府が近頃忠清南道、全羅南道等の米

の主産地に農業倉庫を設けて平均賣の助成をさせたそうだがそれが大變成績がよかつたらしい。私は鮮米が益々増殖されると共に、そこに適當の案が研究されて、内地米の都合ばかりでなしに、鮮米の價格も維持され、内鮮米が仲よく全日本人の口腹を満たして外米を根本的に輸入せぬよう經濟政策の樹立を願ふのであつた。

しかし、これまでに朝鮮の農業を盛況に導くには容易なことではなかつたらう、あの韓國時代の政治のために、歴年土地は疲憊して居つたし、地力の減耗、生産力劣小の難關を突破してゆくことは、爲政者として容易なことではなかつたらうと思ふ。最初は總督府當局に於て田の作り方、農地改良の苦心の結果を示して、こうしたらよいだらう、ああしたら收益が増さうと農業の保護獎勵につとめたけれども、從來田舎の地主は、大抵小作管理人たる舍音に任せつきり、自分は都邑にお蠶ぐるみで暢氣な生活をして居るものだから、『何も我々は先祖から金はずきこまなくとも收穫はあるのに、今更特別の出費をして迄水利組合などつくるには及ばぬぢやないか。』とブツブツ云ひ放ち、或は一般農家の副業に養蠶を普及させようと思つて、内地から桑苗を取り寄せ、これを無理にも分配してやつたことが多いが、何度督促しても植ゑつけない、時には農村金融機關の改良や、優良作物の表彰方法を講じた時なども、

お役人が損をして人民に無料で桑苗を呉れる理由がない。お金の補助をしてくれるわけがわからない。きつと後で何か言ひがかりをつけて我々の收穫物全部を横取りにするんぢやらう。』

と韓國往時の悪政と同視して中々信用しなかつた。朝鮮の水田が總面積百五十餘萬町歩の所灌漑の設備は僅に三十餘萬町歩、他の百二十萬町歩は全く灌漑の便と云ふことを念頭に置いて居らなかつたのである。それでただ天然の氣候ばかりをあてにして、若し七八月頃降雨が無ければ其年は全く不毛の凶作と云ふ土地柄が多くあつたに不拘、土地改良を喜ばなかつたのであつた。農民自身も無自覺のため敢て黙々と自然に一切を任せて居つたから益々土地が荒れたのである。それがとにかくも今日の如く非常なる改善の實を擧げて來たのは、結果からみれば朝鮮人は喜んで居るが、施政の當初はしきりと反對したものだ。桑苗なども文句を並べ乍ら遂に今日では朝鮮農家の副業として最も良好であり、土地柄や民度勞力の關係から、重要なものとされて居るではないか、その産額の如き始政の頃二萬石のものが昭和三年には三十八萬六千石に達し今後十年を待たずして百萬石の増收を期すると云ふ景況だ。大豆が三百八十一萬石の生産その中輸出額百四萬七千餘石、二千三百三十八萬五千圓これも七割の増産、麥が八石七十四萬六千餘石、二十年前は六百二十萬石に過ぎなかつたのである、又粟が五百一十三萬三千餘石の收穫、北鮮農民の常食で米を賣つて低廉な粟を常食とするのでこれだけは珍らしく

も滿洲から百九十七萬三千餘石の輸入を仰いで居る。猶棉が一億二千七百七十七萬斤で近く二億五千萬斤にしようと云ふ意氣ごみ流石農業國だけに農産物は皆豊富、製絲業なども生絲産額が二十三萬六千餘貫、價額一千七百四十七萬圓これは全部内地へ移出されるので、従來からの朝鮮式の製絲器の生産高がこの他七萬七千六百貫三百八十四萬七千餘圓、内地人が一等米ちやと自慢して召しあがつて居られる白米が、毎年朝鮮から五百萬石以上も送つて貰ひ將來は八百萬石から一千萬石までお臺所がお世話になる事を御存知ない、それで漸く外國米を驅逐することもできよう、京都の人が豆腐を食へ、名古屋の者がお味噌や醤油をなめ乍ら、その材料が遠く朝鮮始め滿洲から賄なつて貰つて居ることを忘れて居る。豐葦原の瑞穂の國と云ふのは大昔のこと、お株は農業國朝鮮に奪はれて居るので、それだけでも内鮮兩民族が一つ籠の家族ぢやないか。

△「この邊は大分若い木が多いようですね、なんだあれは松ですか、すつかり枯れてるぢやありませんか竹林が坊主になつたようですね。」

S「私共の經濟上、この附近ぢやハルの木、クヌギ、樺等が割合によいと思ひます。どうも松林は毛蟲の被害が多うございまして、生長した一本の松から毛蟲が三石も出ますので、害蟲驅除の費用だけで造林經營はむづかしいと思ひます。それでもAさんの方針で國家的見地から牧畜、水田、植林、治

水を始め農家の副業等一切算盤は弾けないんですが研究的にやつて居りますので………」

△『それは結構の事です。國家奉仕はよい事ですなあ、社會の表面にたつて居る男でね、よく手前勝手の奴がありますわ、ひどいものになると自分で儲けた金を自分が勝手に消費するのは當然ぢやと見得を切つて個人の誕生日に數百萬圓を使つた人もありましてね、その人が郷里に自分の銅像を建設させて、そのくせ郷黨の公益事業には一文も寄附もせず、その銅像建設の發意者も實はその老獪な富豪の犬だつたのでした。ために折角の銅像の表彰も郷黨後身の青年連中に糞尿を浴せられたなどありましてよ、それでも猶圖々しくも郷里發展のためだとして製絲工場をつくつたが、その裏を洗つてみれば當時女工の賃銀がその附近が全國で一番安かつたわけでした。日本の富豪なども少しはロツクフェラーやカーネギーの鼻くそでも煎じて飲ましてやるんですね。銅像の御本人はそれでも華族にもなり御用商人政商の巨頭として、人一倍世間様のお世話になつた男でしたが………、精神的に自己の生命を永遠にすると云ふ心もちが涌かないですなあ、石の鐘詰は私など戦地で食はされたか知れませんがAさんの道樂は内鮮融和のためにもよいことです。富豪の餘技は少くとも國家社會のためになる公共犠牲事業でなくつちやない。』

近來日本も情けない話だ。やれ賣動だ、收賄だ、疑獄だと國務大臣や威めしい將軍連が世の物笑ひと

なつて居る日本を悪化せしむることこれより大なるはない。そして口を開けば天下國家だ。今の墮落した政黨者流や政商連、あんな賣國奴的國體破壞の主義連中から説法される國民は一人もない。社會の改造よりも己が心の國民精神的改造に基け、國民思想の善導だ、誰人が斯の如き者から善導して貰ふものか。國民は彼等を手本にしない。國を亂る者先づそれ等の人々の白晝國民の面前、大衆の直前に無作法な振舞をなすことを慎しむのが第一だ。敢て石の鐘詰ばかりではあるまい。政黨と私慾のため祖國日本を賣つてはならぬぞ。

増嶋 たぎる 李朝時代

◎ 朝鮮青年の政治慾

就職難の怨みをどこにもつてゆく——學生の志望科目
傾向——何故彼等は官吏を唱望するか——

◎ 舊時代の悪政ぶりとその民心

兩班支配階級の搾取と墮落——兩班の特權朝鮮を亡す
——儒生——日本の官場は支那、朝鮮以上に腐つてゐる
——國民の魂をよぶ——

増嶋たぎる李朝時代

朝鮮青年の政治慾

羅「私は京城の法學專門學校を昨年卒業した者ですが、まだ就職がみつかりません。總督府當局は學校を建てたら當然職を與へる責任があります。」

△「君それはむつかしからう。成程趣旨はわかるけれども何も始めから當局者が就職を保證して諸君に入學させたわけでもあるまいがね。」

羅「總督當局の政治が悪くから半島に於ける朝鮮人の生活が益々困難になつてくるのです。内地へ折角留學しても歸郷して就職口がないので皆思想が悪化するんです。私は知識階級に就職させる事が朝鮮統治の第一に解決すべき問題だと思ひます。」

△「それもそうですね、併し内地の生活難を君は御存知でせうが内地でも毎年何萬人と云ふ知識階級の求業者が各學校を卒業しますが、その中何割就職されまじかなあ、全く情けないもんです。餘程手蔓と運と成績がよくなければ見込みがありません。今年など全體の七割八割が遊んで居るそうです。」

それでもどうかこうか卒業生の六割位はその年の年末までには何處かへ潛りこんで生活だけはして居ります。知識階級の就職難は時代の推移上止むを得ないでせうな。内地ですらこうですから朝鮮が景氣のよいわけはありません。そして又今日ちや專門學校や大學は昔の中學校、商業學校出の社會的取扱ひですから、半島の專門學校數も併合當時の一枚に對して七倍、の十校生徒數は三十人であつたのが昭和三年度には一九二七人とは六十四倍強の増加さ、それに大學豫科と本科で七八三人と云ふから半島でも二十年の變化で、これだけでせう。内地の專門學校にはこれ以上の朝鮮學生があるのだからその捌け口は容易でないさ、一般的に教育程度が向上し都會地に於ては益々その風潮が甚しいので學校出身と申しても決して珍らしいことありませんからねえ。高等專門學校を卒業すれば就職にありつけると思ふのがもう誤りですよ、常識學問と云ふのでせうか、殊に文科系統に屬する専門は全く高等普通常識化して居りまして社會が無限に需要してくれません。まあ専門教育を受けられる環境にあつただけ幸運兒なんですね、學校を出たら何とかなるだらうなんて暢氣は言はれなくなりましたわアハ、ハ、ハ、

羅「それでも先生、少くとも朝鮮の官公吏やこちらに事務所をもつて居る内地の銀行會社等は朝鮮人ばかりを採用するのが至當ぢやありませんか。」

△『そうですね、そうならば結構ですがね、併し何も全く官吏には朝鮮の方が採用されて居らぬ所か知事や郡守は反つて朝鮮人の數が多いですよ、總督府の重要地位である學務局長もあつたぢやありませんか、あれは内地なら文部省の最高官ですね、今當局の立場としましたなら半島全部の官吏を朝鮮人のみに限つて就任出来るようにしようとは考へて居りますまい。私はその事、その心持がすでに内鮮融和を信條として居ります當局の意志に反しますから、むしろ私は進んで内地の知事や本省の大官にどしどし朝鮮人の秀才を登用する方針の方が積極的だと考へて居ります。朝鮮は半島人だけでかためねばならぬと云ふ差別的觀念はつけまいと思ひますがねい。又内地人の銀行や會社が誰を用人として採用しようが營利會社の私的行爲ですからそれは自由でせうが、朝鮮原地の事情に明るい諸君も必要でせうし内地人經營者本人の都合で、内地人を使つた方が又種々調子のよい點もありませう。朝鮮に事業をやつて居る内地出身者は大抵内地人のみで經營をしようと思つても算盤ははぢけませう。皆朝鮮人を、人數の點から申したら朝鮮のかたを澤山採用してませう、適材適所は商賣人の方がよく考へてませうよ。』

羅『それでも總督府のやり方が悪いのですから我々朝鮮人ばかり困るんです。』
 △『總督府の役人だつて全部全部全能の人ばかりではなく随分へまをやる人も多いでせう。しかし就

職難と總督府とは直接その責任者だお前が學校をつつたからだとは申されますまい。そんな因果關係ぢやありませんまい。
 併合以來漸く廿年でとにかく見違へる程その教育文化が向上しましたのは私は朝鮮人が舊時代に比してどれ程か幸福だと思つて居ります。
 どなたにお伺ひしてもそれは昔よりはよいとおつしやいますよ。勿論總督府に對する諸君の若い青年としての要求は多いでせうけれども、今直ちに其理想を實現せよと云つても机上の空論でない限り爲政者の立場として輕卒のことも出来ませうまいからね、知識階級の救濟素より必要です。學校教育の弊害も涌いて居ります。教育方針に改善をせねばならぬ點も多いでせう。しかし私は少數有閑階級の知識階級者の失業よりも、大多數無産階級に對して、殊に朝鮮農民のために積極的な經濟政策、社會政策を營むことが即ち民衆に明日の糧を與へることになると思つて居りますわ、日本内地でもとかく少數の知識階級と都市生活者の利益にのみ偏倚し易くて大多數の一般國民生活者、田園生活者に對して文化の恩恵に浴せしめる機會が必然的に少ないやうな政策がとられがちですね。發言の方法の拙劣なそして意志發表の機關に恵まれない大多數の國民のための利益を考へてやるのが肝要ですよ。君は去年の卒業ならもう一年半になるぢやありませんか。遊んで生きて居られるだけ幸福な御身分ぢやあ

りませんか。私の友人で東京帝大を卒業した「おでん屋」の親父もあれば早稲田大學をしまつた「一膳飯屋」の番頭も居りますよ、その人間の處生觀が徹底してましてね印半天を着込んで煮込みの術を研究し、飯屋で本所、深川邊の兄哥のお給仕をし乍ら法學士、經濟學士、商學士などの肩書などおくびにも出しませんよ、高等教育をやつたからつて荷車がひけぬわけもなし法被が着れぬものでもありません。私もその方面ぢや中學の頃から經驗がありますね、一つどうです君も明日から擔車をかついでみる氣はありませんか、しかし一生擔車をかつぐつもりでも又その元締めをやるにしてもとにかくだね……」

羅「擔車をやる位なら法律は勉強しません。」

△「いやその點ですよ、此頃の世間ぢや學校出の使ひ途が塞がつてしまつたんです。誰でも間に合ひますし又使はれる人が過剩の割合に事務的の仕事は殖えてきませんからね、取不敢働いてごらん下さい。生産者でなければだめですわ。現代の經濟社會で經濟生活をして行かなければ死んでしまひますよ。自分の運命は自分が開拓してゆくのですね、總督府が焦つてみたつて全鮮の知識階級に事務的の仕事と與へることが出来るもんですか。」

東京の或大學でした。丁廣暑中休暇も間もない頃學生揭示場にて氷運搬人夫日給一圓五十錢の工夫募

集廣告が貼られてあつたのです。多くの學生の中には大學生を人夫と同じく取扱ふなんて人を見下けるにも程がある、そんな揭示は母校の體面になるからはぎとつてしまへといきりたつた者があります。その時私は便所掃除であらうが撒水夫であらうが大學生が暑中休暇に體驗して何故悪い、日給五十錢のどぶさらひの手傳だつて結構なことだ。そんな時代離のした偏狹なブチブルヂョア心理こそはず可き事だと叱りつけたことがありましたつけ。」

若き朝鮮青年羅君はすつかり黙りこんでしまつた。私は氣の毒になつたので、話題を轉じて京城高等法院の新しい判例の法律問題をもちかけてやつたのである。

朝鮮に於ては他にも原因があらうが、内地勉學の學生は大部分法律及政治、經濟を志望し、地味な農、理、工方面が甚だ少ない、それは朝鮮青年の第一志望が官吏になることであり、それが又過去十數世紀の間極端なる壓政の下にあつたから一入官尊民卑の習慣が烈しい。官吏は如何なる悪事も働くことが出來た。人民はそれに對して一言半句の發言もできぬ状態に置かれてあり、少數官憲の威力はますます強いものであつた。そのために向學熱の勃興と舊時代の階級制度打破によつて會て虐げられた一般人民からも自由に官吏に登用される平等公平な道が開かれたので、官吏となることを最も名譽とし社會的優越感を與へられたわけである。

羅青年は私に就職難を訴へた。そしてそれは總督府の責任であるとも云ふた。彼の希望は法律を學んで牧民官になる志であつた。官吏採用の人員に限りがある。彼の思ふ通りにゆかぬので總督政治の不平を猶も頻りと私に告げて居つたが、羅青年が折角朝鮮の専門學府を卒業して國語（日本語）も自由話せて猶も求むる立身出世の道がないと不平をかこつのは他に一つの理由があつたことは又見逃せぬ事情ではあるまいか。それは日韓併合前後、殊に統監府時代は日本語を相當に會話出來れば早速官途に就けたものであつた。それは悪政の改革草創の折柄日本顧問を多數聘して日本式に凡て改善を急いで居つた時機であるから、朝鮮人にして日本語を話せる人を求めたのは必然であつた。その後も普通學校（小學）程度を終へて一躍巡查部長から忽ち警部補位まで登用された時代もあつたわけだ。その頃の爲政當局は日本語を操る朝鮮人官吏がぜひ多數必要であつた。今でも昔のその情性があつて往々にして内地の法律學校等の卒業生が、直接府尹や知事を訪問してその修業免狀をふり廻し早速高等官にでも採用してくれと談判にくる圖々しいのさへあると云ふことだ。昔の必要であつた頃の學校程度の國語理解者程今日の朝鮮に於ては大學程度の出身者をふりむきもせぬ程すつかり秩序がたつてしまつたのである。この話などは某官吏の實話の一つである。實に朝鮮人は官吏希望を以て人生の華となしそれが或る流行となつて居るのは事實である。昔時半島の政治家が、恐ろしい程の權幕を以

て人民にのぞみ、地方の行政官、ごく下廻りの役所の書記であつても人民に對しては雲上人の如く偉大な見識と威力を以て當り散らしたのである。その政治家や官吏には何百年來人民から一切登用されぬ掟がにはかに、併合以來その柵が壞れて自由となり、何人も官吏となり得る資格を與へられたので我れも我れもとその偉大な特權をふり撒いた官吏の席を無上の榮冠と心得るのも無理はない。お役所の人、總督府の官吏と申せば、偉い資格のように人も思ひ我も感ずるのは内地の官尊民卑思想よりも如何にその色が濃厚であるかを知ることが出来るのである。墮落したる官僚政治家の暴壓的威政と惡政の極致は反對表現の方則を辿つて朝鮮青年をして政治家を望み官僚にあこがれ官吏たるを無上の榮譽と心得しむる結果を招いた。官僚とは偉い力のあるものであると云ふことが曾て自分等の受けた壓政の威力から感じたのであつた。朝鮮青年が政治を談ずることを好み、殊に官吏となることを望むの心底は併合後の階級制打破によつて自由の天地になつてからである。

舊時代の惡政ぶりとその民心

朝鮮に於ては近々二十年前迄は非常に嚴格なる社會階級制度があつた。そして最も特權を有する貴族階級たる兩班のみが凡ての官支となり得る資格を有し、支配者階級として一般大多數の他の階級に

臨んで居つたのである。兩班階級は一般人民に對しては封建諸侯の主従關係よりも甚しい上下の差異があつた。それを説明する事は往時の韓國に於ける政治状態を白日に曝すことになるのであつて、朝鮮の悪政、兩班の墮落は言語に絶するものが多くあつた。殊に李朝の中葉以後一層甚しい苛斂誅求となつて人民は塗炭の苦に泣き續けて居つたのである。例へば地方農民が年貢米をお上に納める時には、恰も支那の中飽の如く下級役人から上級役人まで順序にその頭を別ねられ、實際上役所に納米されるのは農民が最初に納めた米の何分の一に減少されて居つたのは普通の状態であつた。しかも年貢米をお上に納める努力は勿論農民の仕事であつて、ひとりそれが米とのみ限らぬ附近の山地や庭園に樹木でもあれば、早速官府のお達しによりこれを伐採して都城まで運搬して献上せねばならない。時には田舎の知事や郡守と云ふ役人は、何等修養のない者が買官して就任するものが多くなつて居つた。若しも郡守の地位が五千兩と云ふ相場であれば、その買官費だけはせひとも自分が就任在職中に損失を補填しなければならぬ。それで出来るだけ短期間に最大の利益を擧げ更に上級官吏の權利を買ふ資金を稼ぐ必要がある、それは良民の泣く程の苦しみ、壓政の嘆きとは自ら別問題であつた。その頃の郡守は行政權、司法權から良民の生殺與奪の特權を備へて居つたので、全く鬼に金棒、それが李朝の政策上一地方に長く駐在せしめず各地を轉々させたものだから、一入その弊害が多い。それで

若しも一般人民が所有土地の處分や穀物の賣買等に商談が濟んで居ると云ふ噂がたてば、早速役人は商談の相互當事者は勿論のこと、それに關聯した親族知己のめほしい者をすつかり不法監禁したものだ。そしてその罪名は勝手放題、無實の良民を拷問にかけ、又は笞刑などに處して苦痛を與へるのであつた、それ等の拘禁に附せられた良民の骨肉關係者等は、ただこれを不運とあきらめ、官吏に莫大な袖の下を使つて解放して戴くことになる。袖の下の手加減で青天白日となる譯だ。そこで人民は少しでも役人から彼奴近頃金廻りがよいようだとにらまれたら最後だ。拘禁だ。拷問の攻苦を受けねばならぬ必然の運命の手が待つて居る。餘計な貯蓄などは生命がけの仕事であつたのである。そのため外観から金廻りがよいと悟られぬために、家屋の如きも軒の大層低い土窟のような燕の巢ばかりだし、服装にしても簡略粗末を極め、家財道具もわざと揃へぬ生活ぶり、それが多年の習性となつて朝鮮人の審美觀が頗る單調無味になつてしまつた程だ、若し小金でもあれば地の底に埋めると云ふ騒ぎである。長い間のその習慣は遂に一般人民が卑屈に陥つてしまひ、ただ事なく生きてゆけば宜しいと云ふこと以外慾望もうすらぎ、貯蓄心も勤勞心も全くなくなつてしまつたのだらう。しかし都邑の商家や富裕の家にあつては爲政階級者と巧みに婚を通じて自己の資産を擁護し、官吏登用に應じ得る唯一の社會階級たる兩班と家族的關係を結び以て我が生命財産の保持をはかつた者もあつた。

朝鮮の虐政は兩班と云ふ特權社會階級が餘りに偉大なる權限をもつて居ることに起因したのであつて、兩班が如何に一般人に比して重要な地位を獲得して居つたかを再吟味する必要があるのではないか。

兩班の威力は登科、代刑、免役、科刑等で先づこの横暴公許の官吏となる資格を生れ乍らに有し、又科擧に應じて進士(文官)先達(武官)となるのは彼等ばかりであつた。常民はどんな秀才でも最初から受験資格がない、若しも常民階級から官吏になつた者でもあれば、それは兩班の系圖を買収し表面兩班と稱したためであり要するに家柄としての資格を買つたからである。刑罰に於ても答を以て尻をなぐられる答刑の場合、自己の所有物權視されて居つた下男に代理として受刑せしめることも出來た。其上地方的の課税や夫役は一切免除、甚だしいのは自己の部落民に裁判權をさへ所持して居つた程の豪勢ぶり、權威横暴、放恣散逸そのもので兩班でなければ人でなかつたのである。この兩班と云ふ特權者の前にひれ伏して慘鼻を極めて居つた常民以下の一般民衆は全く哀れな狀況であつたのだ。

又この兩班に似た者に儒生と云ふのがあつた。儒學は由來朝鮮學問の根本となされたものでもあつた。儒生とは儒教が爲政者の方便によつて極端に尊敬を受けたその時、常民の中にも京城の最高學府

たる成均館、又は各道の首都にあつた樂育齊及び各郡の郷校に入學して、孔子の學を研究し、儒生となつて孔子廟の祭祀を掌つたわけであるが、その儒生となるものも實は常民中からと云ふよりも、傳統的に兩班と儒生の子弟が相繼ぐのが主であつた。そして儒生中の學識優秀なる者はその儒生團體たる儒林から選まれて一躍官吏に登用される制度があつたから、苟も往時に於てかくも偉大な特權を有する官僚となるにはどうしても、この儒林の門を出ることが先決要件。それで先づ儒生となる事が人生唯一の登龍門として争ふて志望したものだ、そして科擧に應ずる資格を備へたものである。我が日本に於ける高等文官採用試験に血眼になるの比ではなく、人間か奴隸かの境界線パスの瀬戸際であつたのだ。階級制度の著しかつた時代には、その偉いお役人様になる事は、男子最高の理想であつたのは自然の勢であらう。しかしこの多數の儒生中にも萬年科擧受験生で、一生浮ばれぬ者が大多數なので、僅に孔子廟附屬の土地や書堂の經營などによりて命をつなぐ程度の者がむしろ多かつたらう。けれども世は遷つた、舊韓國の稅政は去つて今日は公明なる新朝鮮が生れてすでに二十年になつた。いくら昔の兩班でも時世の變化には勝つことが出來ない、四民平等科擧の制もなければ答刑もなくなつた。兩班の横暴も郡守の私刑と掠奪も蒙らなくなつて貯金はしても生命に別條はない世の中と變つたのである。

兩班全部が必ずしも悪逆無道であつたのではない。それは人望があり良政を施した名家も多い。今日猶資産隆々たる昔以來の兩班の家もあるがそれも昨今は醜い相續問題や、資産の保管方法に關しての紛争或は本夫又は妾腹等の御家争ひが増加してきたらしい。

第五十六議會に朝鮮貴族救済法が定められたようだが、あれ等は甚だ少數貴族の蟲のよい言ひ分であつて、彼等は先に日韓併合の折に聖旨に依り臨時恩賜公債を下附され、貴族、舊官吏、兩班、儒生中の耆老にして、その功勞者には各々厚く報ひられた筈であるが。彼等の如く不生産的に安逸のみをむさほる階級にのみ此上とも救済資金の便宜など全く可笑しい話だ。田中内閣に定まり濱口内閣でその實行豫算のとき繰り延べになつたが何も兩班だ、貴族だと申して此上特別に温室の花でも勞はるような保護方法は表面治鮮上必要のことのように思はれて其實無用の保護である。——今朝鮮貴族と稱されるものは侯爵七人、伯爵三人、子爵十八人、男爵三十三人計六十一人でこれは主として李王家の懿親及其の邦家に大勞ありたる者又は李家の血族關係者或は門地あるものに對し我が皇室より寵光を示し給ふたのである。——

從來の朝鮮に於ける兩班階級は多年必ずしも一般人民から尊崇は受けて居らなかつた。そして人民は併合によりて人材登用の道が拓かれ始めて、生命財産の不安を除き去られその極端なる社會階級制度

の廢止によつて寧ろ兩班の地位が自分等と同一標準になつた事に對して一種の痛快と感激を以て日本の新政を迎へたのであつた。しかるに日本の總督府當局者は日韓併合後に於ても、舊來の兩班が重ねて重要な地位に就きその名譽も手厚く優遇されたことに對しては實に意想外であつたと折角日本の治政を喜んだ一般人民は不平を放つたのも一理はあらう。あんな悪い長年俺等を虐めた兩班を又々日本が優待するよりも、地方儒生中の名望家又は徳望普き地方の模範者孝子節婦の家柄にどうして兩班以上の名譽を與へて呉れぬのだらうかと云ふことは私も時々朝鮮古老から伺つた話であつた。私は舊兩班や貴族社會の少數者に對する優遇よりも、本當の民衆的功勞者、曾て常民又は賤民階級であつた地方的名望家、田舎の高徳なる老儒者等は一入その榮譽を表彰し、日本帝國の統治範圍になつてからは一般人民の社會的地位が斯くも向上した、我々の仇敵である兩班の天下でなくて四民平等の國民であるわいと新統治方針をこの方面からも贊美す可く民意暢達の方法をとつて欲しかつたのである。即ち日韓併合により何百年埋もれた地の底から這ひ出した一般人民は、今や悉く天恩の無窮に浴して半島の平靜を喜ばぬ者はない、殊に昔時の韓國の政情を知る古老は今の政治がどれ程よいか知れないと云つて居るので、若い昔の韓土の混沌たる惡政を知らぬ青年が如何にも昔の韓國が人民にとつて自由な幸福な天地であつたように申すのは自らの明白なる歴史に目を掩ふものである。一般朝鮮人民は決し

て今日の朝鮮兩班階級を必ずしも尊敬して居らぬのであるから、總督府當局は意を深く此點に留意して多衆新附同胞の畏敬す可き心底の人物をかどある際に表彰し、尠も少數貴族階級のみを好遇するが如き劣策は慎んで欲しい、墮落したる官僚政治その當事者たる兩班は遂に半島を自滅の境地に導いた。儒生は又儒學の形式的餘弊のみを擯けて民心をぎこちないものにしてしまった。遂に朝鮮民族の魂をも天外に奪ひ去つてしまつたのは何百年歴代惡政の結果であつて、爲政者の立場にあつた一部階級者流のみでなく全民衆がただ天然自然の山河の推移と思潮の交流時代の變化をすべて黙遇し來たつたため民衆自らの發奮力も泡の如く消えてしまつたのではあるまいか。

併合當時の兩班の戸數は五四、二一七で儒生の戸數が一九、〇七五であるから計二、八九四、七七七が所謂兩班階級の總戸數である。

あの李朝時代に於ける全鮮に及ぶ兩班の弊たる士禍の亂の如き又は中央政治も地方行政も混亂と詭計と諂訴と陰謀の廻り燈籠であつた官場の腐敗、この兩班と云ふ貴族階級の墮落が無自覺にして努力を嫌忌し、勤勞を賤視する歴史的因襲となり、これが長年月に及んだため惡政による不遇は半島民族の第二の天性となつたと極言するに到つたのではあるまいか、翻つて我日本帝國立憲政治の現狀に眼を注ぐ時、朝鮮兩班の轍を踏まざれば幸也。

朝鮮官場の腐敗を眞似せざらんかと思へば嗚然たる哉、その醜惡なる職業政治家、社會運動家輩の國を亂る行爲の甚しき。右傾派と稱し左傾派と申すも唯一途の方便、國家の前途を深慮すれば彼等が輩の角逐と鬭争は凡てが日本帝國臣民たる覺悟の前の出發點を誤れるもの誠に多い。貴族及金權者流の人も無きが如き横暴の振舞ひを見よ、國土を賣物にする人々によつて決して我が日本はその危きを脱するものではない。レーニズム若しくはアメリカニズムの奴隸渡世等によつて、民衆の福利を増進出来るものでもない。日本には日本獨自がもつ日本改造の精神がある。この日本精神の儼然として存在する所にのみ母國は安泰を期す可きだ、曾て内閣の首班に列した人々が公的生活に疑を受け、閣僚、次官等は頻りと獄舎の月を眺め、國家の重臣相ついで貪官汚吏となるに及んでは國民の風教に與ふる影響は一體どうなるのか、日本の土豪劣紳は職業政治家と結んで私利私腹をはかり、畏くも皇室の藩屏として自重す可き國民の儀表たる可き華族階級、貴族社會の道徳的墮落生活又國民の風上におけぬ者が多いぢやないか。敢てこれのみとは申さぬ。混沌たる社會相は學匪、土匪、政匪、共匪等々の有象無象が如何に善良なる良兵、良民である一般國民に惡果を投げつけて居るか、はかり知れない、私は朝鮮に於ける李朝末期の兩班と官場の墮落を嘆き、隣邦支那人が常に内亂に禍され一日の安心が國土にない今日を思ふとき、我日本の現狀果して彼を批評し、彼を笑ふ資格ある者日本の官界

に何人あるか、己を捨てて公に殉じ、國家民生のために犠牲になる決心の政治家、教育者が何人あるのか、日本國民はこの官紀の頹廢は國本を亂るの第一歩なるを憂ひ、一入國民的輿論と國民的正義の力によつて東方の君子國たる面目を更に向上せしむることに痛心したくないものではないか。國民の魂の底にある傳統の日本精神を今一度呼び起してもつと立派な日本を次の時代の日本國民に渡して死なうぢやないか。それが一日早く生れた國民としての當然の責任だ。それに關する具體的方法是又別問題だ。先づ再び日本人の心に凡ての人々を返してやらねばなるまい。

京城とところどころ

◎南山の靈域に佇みて

朝鮮通は大局を知らず——旅のねらひ所——爆彈の洗靈——南大門——圓立壇趾——朝鮮神宮に額づく——京城史——清涼里の陵墓——朝鮮子守りの負んぶ奇習

◎理氣說學派と日本魂

内鮮は同一祖先だ——佐藤信洲の説——元曉上人と李舜臣と正音文字——李退溪——李叔猷——朱子學派の李氏の學説は日本に著しく反響した——教育勅語は内鮮人ともに奉讀せよ——東西文明の行方を見ろ——日本を失ふ勿れ

◎白衣か色服か

龍山——漢江——神仙爐は名物だ——白衣を廢して色服を着用したい——味覺の國粹保存——高麗雉

◎古蹟めぐり

昌德宮——昌愛苑——文廟に心なし——朝鮮の老舗——バコダ公園——鐘路の名——朝鮮歩兵隊——總督府廳舎——朝鮮の羽衣——景福宮——民俗美術を生め——慶會樓——朝鮮みやげの趣味

京城とところどころ

南山の靈域に佇みて

朝鮮見物も、釜山上陸の初日は殊の外萬象悉く奇異の感に打たれてしまふが、それが三日たち一週間と過ぎれば、觀察眼が大分變つてくるようだ。そして眼も心も朝鮮の山河に馴染されてしまつて感じがにぶくなる。丁度アメリカ通、支那通と云ふ人達が二十年、三十年と長期間外國生活を營んで居れば、自然にその氣分に同化されてしまつて、第三者的の支那も米國もわからなくなつてしまふ。若干宛アメリカ式、支那風に人間が變つてくる。それと同様に朝鮮通と云ふ人々、何十年朝鮮の土地に生活した經驗を有する人、必ずしも現代朝鮮の眞髓を握つて居らぬ。とに角長年の事だから一見識はもつて居るが、局部的に且つその人達の經驗範圍だけに朝鮮常識が限られ、時には冷靜白紙の上に朝鮮問題を考察す可き態度を失つて往々偏見的の論も涌くわけだ。長く朝鮮に住んだと云ふ事だけで朝鮮通と云ふことは出来ない。又私どもも朝鮮の土地を踏んで旅し乍らほんやりして居れば、單に珍らしい、可笑しいと云ふ小供がお祭りでも見るような氣持、流行の早廻り競走の進行そのもの、日曜

に追つたてられて居つては、いざ旅を了へて再び内地の空氣に觸れた時は後の祭、けろりと朝鮮のこととを忘れてしまふ。私は腕を組んで考へた。折角の事だから、ぢいさん、ばあさんの京都見物よりも少しは若者の視察らしい印象を得て歸らねばならぬ。それが部分的にしる道途常に物の表裏を考へ、その據つて來りし原因を探求するの興趣を味ひ度いと、それは又旅行案内記の示してくれる名所の順序のみに限らず朝鮮地方色の特質を目ざして一木一草と雖もおろそかにせず行脚するこそ、その目的の一部分は達せらるるものであると思つた。何もこの地にきて内地人四十六萬九千四十三人(昭和三年末)そこそこの生活情況を承はつたつて土産話には不足だ。それより少しでも一千八百六十六萬七千三百三十四人の原住朝鮮人の心の琴線にふれたいものだ。こう云ふ慾望を起すのは私許りではあるまい。それが實は旅の目的なんだ。朝鮮視察のねらひ所なんだ。

成歡を午前十時にたつて三時間後の午後一時には愈々半島の政治及經濟の中樞首都京城に迎着く。

△『この前参りました時は普請中でしたが、停車場は大分奇麗になりましたなあ。』

N『はあこの他總督府も府廳も皆竣工しました。』

ルネッサン式と云ふ石造二階建、間口七十七間、建坪千七百五十坪、大京城の表立關としては立派なもんだ。これに比べて大連市の埠頭は東洋一の豪氣さであつたが大連驛ときた日にや滿洲の立關

にしては頗る貧弱であつた。此京城驛は略大京城市の中央に位し、驛前から東に進めば昔時の城内で舊市街、右に折れてしまへば、新市街の龍山方面。

△「S 總督が爆弾を投げつけられたのはこの附近ですか」

N「ああそうでした。あの時は驚きましたよ。總督の馬車の窓硝子も壊れましたし、隨行者の中に怪我人もできますし見物人も斃れました。總督の洋服にも傷ついた馬の血しぶきが、ごつとりついて居りましたがSさんは平然たるもんです。流石奥さんは女ですから眞青な顔をして震へて居られました。その泰然自若たる海軍大將のSさんは既に東京出發の時國家のために覺悟をきめて居られましたのですね。唯至誠を以て鮮人に臨めばよいと膽ツ玉を坐らして居られたんですなあ。所がああM新總監閣下です。爆弾に驚いて京城驛の憲兵隊へ逃げこみ、やがてSさんが悠々と騎兵小隊に護られ乍ら倭城臺の官舎へのりこまれて暫く群衆が四散してから自分だけSさんに隨行もせず自動車で一目散に官舎にもぐりこまれたんですよ。武官と文官はいざと云ふ場合にこれだけ違つたもんですねえ。」

△「どうですYさんは評判がよかつたですか」

N「赴任前あれ程受けの悪い人はなかつたもんですから、着任後は寛大過ぎる程のやりくりでした。自分の人氣を馬鹿に氣にして居つたようです。私共はもつと武人驕でどしどし所信を實行する男だ」と

思つて居りましたが案外女性的の軍人でしたなあ。やはり返り映きのSさんですな。……。私共の自動車は驛前の電車通りを左に沿ひ南大門通りを數町にして、名にし負ふ古雅の南大門の偉容に接した。この門の本名は崇禮門と云ふが下部は花崗岩でかため中央に虹門が開かれ更に其上には重層樓がのつかつて居る。創建が李太祖の七年と申せば五百二十年前、世宗の三十年に改築したと云ふ説もあるがそれでも四百七十年の星霜を閱したその苔蘚と共に民族文化を深く俾はせるものがある。あの儼然とした石門に蔦蘿が一面に這ひからんで居る所など東洋的と申すか大陸的と叫ばうか何度振り返つても見飽きぬ姿だ。京城に於ける八城門中、東大門と共に最も宏大なる結構であるが、氣の毒にも周圍がすつかり近代的高層樓と俗悪なるベンキの看板が立ち並ぶ市街となつて折角の雅味と不調和を來たして居るらしく感ぜられた。丁度東京千代田城お濠端の櫻田門への通路にコンクリートの橋がかけられたような筆法だ。南大門を通り抜けてその大通りを眞直に突きあたれば太平通角の郵便局が赤煉瓦建で聳え大廣場になつて居る。

ここから更に左折、白亜の朝鮮銀行横から長谷川町に踏みこんで右に朝鮮ホテルといふ順序。舗道は全部アスファルト街路樹も兩側に行儀よく植ゑつけられ此處から宏壯なる新築の京城府廳がすぐ近くに見える。ホテルの殿めしい朱塗の門。ホテルの敷地は昔からの由緒を含み高麗朝肅宗時代に不覓

壤宮闕のあつた跡、文祿の役には浮田秀家の陣地であり、あの南大門から加藤清正、東大門から小西行長が各々漢城一番乗りを争つたことも當時の思ひ出の一つであらう。明の李如松もこのホテルの場所に日本軍退去の後本陣を定めたこともあつたのだ。又圓丘壇として明治三十年韓の李太王が皇帝の儀式を挙げられたのも此處であり庭園にある八角堂はその一部であると云ふ。全體としての地形をしらべてみれば北京に残存して居るあの巨大なる大理石の圓丘壇とは規模に於て甚だ小さいと思つた。

N 『さて今日は後半日しかありませんから何處を見物されますかね。』

△ 『神宮を参拝しませう。』

N 『そらあそうですね、そしてあの山の上から大京城のアウトラインを見て戴いた方が一番雄大にお感じになるでせう。』

私はNさんに連れられて市街をきよきよ見廻し乍ら倭城臺の坂道から總督府官舎街を横切り裏山道をぐんぐん自動車はのほつてゆく。この附近は山を切り開いたように左側は赤土の屏風、右は斷崖絶壁であるが、古松老柏の翠蓋トンネルは内地の東海道筋尾崎のような氣がする。

蓋し南山一帯は櫻あり、紅葉あり市民逍遙の好適地ともなつて居るのである。

朝鮮神宮は、天照大神、明治天皇の御二柱を祭神に仰ぐ。大正十四年十月十五日

田であつた。畏くも平島鎮守の主神におはします。今私の来た道は東参道で恰も神社の後にある木見山の中腹を廣く貫いたのであるが、表参道は南大門の右袖を廻つて十間の傾斜道路が南山の足もとまで走つて居る。

城壁に沿ふ三百八十一の大石段を昇りつめれば矢張りこの場所に來られるわけだ。そして先づ社前を見晴臺から一望して市街の大半を指呼の間に展望した方がよろしい。相不變朝鮮の暢氣男二三十人休憩所の腰かけを全部占領して居眠りと長煙管の姿をみせて呉れた。私は其姿を悲しむ。

△ 『朝鮮の子守りは違ひますね、あれでおんぶして居る小供は苦しくありませんか。』

N 『日本流の胸を壓迫する負ひ方よりは親も子も衛生的です。あの通り小供の上半身は自由に動けますから。』

△ 『あれはどうして縛つて居るのですか。』

N 『あれは小供の下體を自分の腰の上に密着させまして、小供は上體を垂直に立たせてあるんです。そして負ひ紐を腋の下から腹部にとつて結ぶことになりなす。私共の家庭では經驗上負ひ帯を肩

から胸にとる内地式よりは餘程よいと家の家内も申して居ります。』

京城は約三里離れて峨々たる北漢山を外廓とし、東西、南に漢江を繞らして所謂山河の險要と

云ふ直感だ。城壁は蜿蜒として長蛇の如く高さ二十八尺餘、全長四里二十六町もあつたと云ふが最近市街の擴張と共に、城門も南大、東大の二門の他は取り除き、且つ南大門附近の城壁も一部分撤去されたが、猶その全體としての偉觀は優に偲び得る。それに漢江の水は白布を敷いたように城外東南をめぐり、右手の方遙かに清涼里李王家陵墓の森が、霞に消えてほのぐらく伺はれるのもなつかしい。あそこには大正十一年五月 李王同妃方子兩殿下が京城に於て李王同妃殿下に接見觀見並に王家宗廟參拜に參られし折御同伴遊ばされし第一子晉殿下御二歳に遊ばされし御幼少の御身に急性肺炎をお患ひ給ひて突如この地に薨去せられた涙の御陵である。その森も見える。

△『落ち著いた街です。』

これが私の最初に發した感嘆の言、次には、

△『中々どうして大都市なんです。』と。

それもその筈、人口三十一萬五千六百人（内地方八萬四千七百七十六人、朝鮮人二十二萬五千八百三十三人、外國人四千九百九十七人）朝鮮第一の都たるや申すまでもない。

京城はもと馬韓の地、今から約千九百五十年前（皇紀垂仁天皇十二年）高句麗朱蒙王の二王子たる温祚と沸流が、相携りて南へ遷り、漢山に登り地を相して此附近に都城を築いたの地と云はれる。

れて居る。其後百濟治政の基礎は定まり、更に新羅時代には漢陽郡、高麗時代には陽州、李朝は漢城府と稱し又李都ともいひ鮮人はソウルと謂ふ。明治四十三年から今の京城と名のつたのである。

京城史を案ずれば王朝興亡易姓革命の歴史を講ずるに等しく、或は百濟百二十年の都城からそれが高句麗に追つ拂はれ、更に新羅の半島統一から高麗に變つたと思ふと、その高麗は李成桂に亡ぼされたと云ふ次第、それでも李朝が都を定めてからのみでも五百年間の舊都であつただけ古典的な面影が感ぜられぬことはない。併しこの都も李朝の中葉以後は事端が繁しかつた。豊臣秀吉の遠征を受け、清の太祖から侵略され、更に士禍朋黨の内亂的詐謀と陰險による政權の争奪、極端なるその國力の疲弊、明治初年大院君が現はれたのも瞬く間で、内憂外患遂に自ら救ふ術を失つた李朝、最近五十年間の半島は東洋のバルカンで波瀾の中心地、今や李都は京城と變りこの昔物語を胸に秘めて近代都市と生れ出て居る因縁又面白い。見晴臺から大京城を眺め且つその歴史的變遷に思ひ到つたのである。かくて南山の頂、その清楚なる神明造の社殿に額づいた私は、この皇國精神の靈域に對して朝鮮人の凡てが何時になつたら眞に心からの畏敬の念を以て參拜するであらうかと考へた。それから私は社務所に出頭した。

△『どうです朝鮮人は今日も大分神社の境内に居りますが參詣と云ふよりも散歩のためにきて居る

者があるんでせうねえ。」

『それは、どうかわかりませんが、丁寧に朝鮮式に玉砂利に跪座して参拜して行く者もありますが、一般的にはまだ何だか勝手がわからんようです。ぶらぶら拜殿の前を歩く者もありますが、中には内地式に脱帽して軽く敬意を表して行く人もあります。』

昭和三年十二月末迄其一年間の神宮参拜者の統計をみるとやつぱり少数人口の内地人が非常にその率が多い。今日の朝鮮ではそれが自然の勢なんだらう。そして日本内地に住む人々よりも、この地の内地人は敬神思想が深い。敬神と云ふよりも自分の先祖に對する懐かしみと云ふのか、海外にある一つの寂寞の心がこの神宮によつて非常に心強い精神的の何物かが與へられるように思つて居る者もあるだらう。私は再び考へた。このお宮は半島の鎮護であるから朝鮮人が私共と同じやうに眞に参拜する心地を涌かして呉れるのは何時であらうかと。そのためには……。

總數四三六、〇四三

内地人	三一七、〇三二
(1) 朝鮮人	一一、六七五
支那人	二一、〇六五
歐米人	八七一

一日平均三一七、〇三二

團體参拜	六六、一七五
(2) 軍學	二二、一七五
一般人生	三二、四〇五
個人参拜	三二、四〇五
	三二、四〇五

理氣說學派と日本魂

△「日本と朝鮮との神話は非常に關係が深いぢやありませんかねえNさん、日本書記や古事記と朝鮮の東國通鑑との傳説は大層似て居るそうですね、古事記の夜見の國は朝鮮方面であると謂ふ學者はありますね又素盞男尊の御子五十猛命か、朝鮮建國の檀君だと云ふ史家もあり、神功皇后が新羅の王族に在らせられると云ふ話や、ああそれからまだありましたね、神武天皇様が新羅朝と姻戚關係の御事のように朝鮮神話に出て居ると云ふことは單なる神話や傳説としても面白いことぢやありませんか。人類學、言語學、又は土俗學等からそれぞれ研究されて居る學者達は大抵日鮮同祖論に賛成して居るぢやありませんか。殊に我國上代文化は印度や支那の文明を輸入する時百濟、新羅、高麗の諸國を経て日本に渡來したと云ふから、確に文化の先輩ですよ。我國の美術工藝や佛教や儒學も朝鮮の技師や先生が日本に歸化して傳へてくれたんでしたなあ。古來民族的にも日鮮間には相當大きな移住があつたのぢやありませんか。私などどうです朝鮮系の骨相だつて朝鮮人からいつもいはれて居りますよ。私の先祖は南鮮から日本海岸を傳つて北陸方面に落ち著いて大いに大陸文化の優越權を携へてきた者の一部分かも知れません。もうすつかり大和民族に同化してしまつて區別がつかなくなつた者がどれ

程あるか知れんと思ふのですよ。又朝鮮の王様の書いた石碑にすら新羅と百濟は日本臣民であると明言したものがあつてね。』

△『どうして昔は朝鮮人が日本に同化したんでせう。日本人で朝鮮に同化された者も朝鮮史には大分あるように書いてありますかねえ。』

N『何、それは今時の内地人が悪いのです、今時の朝鮮人もひがみ心が多くこぢれて居るんです、そのためにどちらもしつくり心から同化しないんですね。昔の日本人は相互に絶対差別を設けず温い抱擁をやつたんですね、四海同胞は日本建國五千年來の精神ぢやありませんか。佐藤信淵の宇宙混同秘策にもそんなことが書いてあるそうですね、一體近頃の日本人は小さい島國根性にこぢれてしまつたんでせうか、朝鮮人ばかりけなす内地人は、餘程自分自身を考へ直してみなければいけませんまい。』
N『そうですね、朝鮮を一枚下手に見たがるのが内地人の悪いくせなんでせう。朝鮮人も昔は偉い人が居つたものと見えますよ。あの元曉上人は親鸞上人にも負けぬ男でせうし李舜臣つて豪傑も居りましたなあ、あの正音文字は日本の假名よりどれ程調法であり、どんな發音でも簡單なる符號に記述出来るのですから堂々たる文化的結晶ですよ。日本上代文化のお師匠さんであつた昔の朝鮮は誇るべきものでしたよ。いやまるで今日は朝鮮人の肩もちになりましたわいハ、ハ、ハ、』

△『いやいや私共お互ひは日本帝國臣民ですから内鮮人、悉く日本人には變りありません。朝鮮文化の誇りは即ち大日本の文化として世界に私共の事として自慢してもよいわけぢやありませんか。』

「わしが國さ」で至極結構ですよ。』

N『これは一本参りましたアハ、ハ、ハ、』
△『それあの李退溪ですね、東方の朱子と呼ばれその哲學的思索は朱子以上だと思はれますね、四百二十年前に慶北禮安の陶山書院で自省録と云ふものを彼が書いて居りますが、それが我が教育勅語と符節を合する點が非常に多いと云ふことです。李退溪は朱子學の大家で其頃の日本の學界は又朱子學萬能でしたから、その思想や學説がお互ひに似て居るのは當然のこととせうと思ひます。教育勅語の原案は官中顧問官の元田東野がつくつて井上梧蔭が文辭を修飾し、それからお上にお目にかけてのだと申しますが、徳川から明治時代の漢學の泰斗は皆朱子學派の系統を引いて居たようぢやありませんか。殊に李の學説が元田や井上に非常な影響を與へて居つたそうですね。それで徳目などは使用文字が共通なものですから、符節を合する點が多いのでせうが、それこそ内鮮融和のために立派な根源の一つぢやありませんか。』

N『たしかに退溪は李栗谷ですな、あの白川の文會書院の李叔猷のことですよ。この二人は朝鮮人

から萬世の賢人として又該博深遠の學者として今日も尊敬されてるんです。』

△『我が教育勅語の尊い思召は、人類福祉増進の御理想をば、皇祖皇宗の遺詔を御繼承、御紹述遊ばされたのでありますから、それが日本國民道德の規範として教育勅語となり、今又朝鮮新附同胞もいつしよに奉讀し得ると云ふことは、それこそ内鮮融和の大道を退溪が四百年前にこれと符節を合する自省録を書いて居つたと云ふ事は、益々兩民族の精神的結合の上に重大な意義があるぢやありませんか。我が教育勅語はこれを中外に施してもとらず且つ古今に通じて誤らざる人倫の最高目標をお示し下されたのですなあ。その意味がよくわかりましたよ。』

N 『そうですね、我明治、大正の國民教育の根幹を培養したのは、たしかに李の傳へた理氣說學派の朱子學ですね、勿論これのみではありません、日本傳統古來の精神があり、日本人の魂にそれらの學說が適宜に解釋し體顯せられたものでせうが、理氣說は徳川時代の學風として盛んなようでしたねえ。』
内地人の島國根性はそのよつて來る所事大思想にある。西歐文化によつて新しい文明の組織を教へられそれを利用して明治維新から今日迄の日本の進運を導いて來たのであるから、凡て西歐を以て先進國と稱し、東洋は野蠻未開の國と自らも天に唾して居るのではないか。そして何時までも西洋人が優越して居る文明を獨占し、その人種は我よりも秀れたる者なるかの如く思惟するのではある。

支那のこと、朝鮮のこと、印度のこととし申せば凡て陳腐にして弊履となし、歐米のこととし云へばその善悪長短の見境も無分別に輸入して、西歐の思想的屬國たるかの風あるは、頗る遺憾としなければならぬ。この歐米恐怖病と歐米崇拜の事大思想を捨てなければ、日支親善も内鮮融和も正直な心から生れて來ない。

東洋が世界人類の靈の故郷であり、西歐文明に悶える西歐人自身が心のふるさとを今東洋文明によつて求め救はれんと願ふ事を知らぬ日本人は、何時迄も白人世界にひれ伏するつもりなのか。

東洋文化を誇りとし、我等が東洋人であることに自負をもたなければ到底白人世界征服の現状から東洋人は永劫に脱却することはできまい。もとより西洋文化とはその文明系統の根本を異にし、東洋文明は現代世界の生活環境には不向きかも知れない。しかしその文明には又独自の輝きをもつ。殊に限られたる西洋文明が今や没落の傾向にある時、猶も自らが東洋人であり乍ら東洋の思想、東洋の文化を罵つて泰西の風潮にのみ渴望する足もと輕き現代日本人の姿をみると、私はこの心を捨てずして朝鮮を愛敬する心が涌かない。支那人と相談する氣もちが起るわけがないと思ふ。それは東洋に於て日本人が最も優秀であると信じ自分よりも劣等の地位にある支那人、朝鮮人の文化などどうでもよ

ろしいと早合點する日本の大衆を、その歐米崇拜事大思想をどの場所から改革してゆかねばならぬか。朝鮮の文化、支那及印度文明が日本固有の文明と渾然融和して、今日の日本文明を築いたことを知る由もない哀れむ可き歐米心醉の日本人の魂は果して何處にさ迷ふのか。深く戒心す可きものではないか。自らを失ふ所、凡てを失ふ日あるを知らない。その文明の道に迷ふて妄信し、取捨選擇の方法を知らざる日本人よ。今西洋文明を靜視せよ。あの希臘羅馬の文明がオーガステン時代に至つて幻滅しアラビア文化が之に代つて興つたが、十一世紀頃にはもうアリアン文明に驅逐されて了つたのだ。十一世紀以降はアリアン文明の專横時代であつたがそれが十九世紀の極盛時代を過ぎた今日その文明は最早老衰しつつかあるではないか。

アリアンでなければ、クリスト教徒でなければ文明を語れんと云ふ事があるものか。今西洋文明の鐘の聲を聞きつつ新日本の文明が如何なる方向に進展するかによつて全東洋の民族と其文化は非常なる岐路にたたねばならぬ場合である。しかし今眼のあたりに日本精神を忘れ、東洋文明を侮る歐化崇拜と白人恐怖の日本官民の姿をばまざまと見定めて置く必要に迫られてきた。そしてそれを打開し東洋に還ること、即ち西歐事大思想の破棄によつて、我が朝鮮を理解し、我が東洋を心から愛敬する日本内地人のより多く出現することを希ふのである。それは即ち失はれつつある日本魂を再び日本人

の凡ての人々に返してやることであるのだ。

△「内地ではね、今はやれ耶蘇が生れた、やれ、釋迦の命日ちやと大騒ぎのお祭りをやります。その事も時節的催しものとして好いことですが、流行的になつてクリスマスをやらなければお正月の門松がないより物足りぬと云ふ位都會地では豪氣なもんです。レーニンが死んだ日だ、孫文がどうした。やれ西歐文豪の何百年祭ちや、音楽家の何十年祭だと一年中外國人のお祭り續きですよ。そのくせ靖國神社祭日でも、紀元節のお祝ひ日でも日本の家庭、日本の社會ではあつさりしたもんです。ユダヤ人、印度人、ドイツ人、フランス人等が死んだ、生きたと云ふ祭りよりも甚だ淋しくてそれが社會的にも反響が起きぬと云ふ事はおかしいですなあ。」

N「そうですね、日本人は二言目には國家、國家と言ひ乍ら、其辭日本固有の式典や儀式や習慣でも重んじたら早速彼奴は頭が古いと嘲笑する人種ですね、新しいとか新人とか言はれなければ気がすまぬらしいです。だからボツブヘーアが輸入されモダンボーイが蛆のように殖えてくるわけですなあ、舶來なら何でもよろしい。西洋人なら皆偉いと云ふ思想です。支那人や朝鮮人をば事大思想だと罵り乍ら自分こそ外國文化崇拜萬能を通り越して外國人の足下にひれ伏す状態ぢやありませんか。」

△「そうですね、そう云ふ點が大いにあります。教育の缺陷もありますなあ、西洋歴史と西洋の學問

を知つて日本歴史と東洋事情を知らないのです。私の友達にも社會問題研究のためドイツに留學した官吏がありました。そして有名なドイツの先生から指導を仰ぎ度いと期待して出かけたのですが、さてその先生にお會ひして、日本本國の失業状況、農村問題の特質など尋ねられて日本人官吏の御當人が日本事情の返答がうまく出来ないのですね、それよりも事實は日本の特殊の勞働問題の事情など研究がしてなかつたのです。そのためにドイツの先生から、先づあなたのお國の社會問題を研究してから歐洲の問題を研究しなさい。自國の事情を知らずに外國の事がわかるもんですか、官吏であれば猶更のことです。と一言のもとにはねつけられて赤恥を搔いた男がありましたつけ、大抵今日の日本の學者や教授だ、何々通だと云ふ連中はこの外國文の翻譯係、通譯係、翻譯案の範圍を一步も出ませんのが多いようです。外國の學問もとより参考には必要、外國文書を讀破し得る能力も常識、上肝要です。しかしこれを我日本の國狀と環境にあてはめて再考察する見識が欲しいですなあ。よく噛みくだいて味つてみるだけの研讀が入りますよ、丸呑み、鵝呑みぢや下痢症を起すのも最もの次第です。日本もこれぢや西洋の精神的屬國です。小學校の教育から先づ日本人的で、日本國民的に根本改造を肝要としますよ。日本人たるの力強き自覺を喚び起すことが西歐人に阿附し模倣する前に必要のことでありませんか。日本を忘れて日本人の存在なく日本なくして東洋も世界もない事實を知悉せしめる

ことですね、日本文化の淵源と獨特の精神文化の教育が不足ですよ。』
 N 『私共はこれでも日本人の傳統の幾分かがまだ體の中に通つて居りますが、この後二十年三十年後の日本青年の國體觀念などを想像してみますと、實際どうなる事かと思ひますね。今の間に日本の改造を精神的にも物質的にも斷行して、將來の日本を愈々富士ヶ嶺の安泰に置かねばなりません。』

△『全くです、今度の旅行にも私は京都に途中下車し伏見桃山御陵を參拜して參りましたが、その時もね、社務所に怒鳴りこんできましたよ。何でもその時には田舎の青年團や在郷軍人の何百人かの團體が澤山整列して、その御陵に面して居る時でした。大阪か神戸あたりの洋裝美人五六人、勿論まがひもない日本人です。その連中が整列して居る團體の前面にたちはだかり、高慢そうにじろじろと流し眼でみやり乍ら參拜もせずに煙草を燻ゆらして高笑ひして居ります。そのときは整列の幾百名は最敬礼と默禱の瞬間でした。はては御陵墓の形體が何に似て居るとか、御殿の奥を指さし乍ら猶も得意然に不敬とさへ感ぜらるる言を弄して居りました。』

N 『それは生意氣な奴ですね、取締の係りは居らないんですか。』
 △『私は見るに見兼ねて、あなた方は日本の貴婦人でいらつしやるようですが、貴方方の後には今

御覽の通り眞摯な國民が何百人も整列しましてあなた方の不遜な態度に驚いて居るのです。お氣つきになりませんか。洋装の御婦人方はどんな無作法なドレスを召して居られても西洋式に脱帽しなくつてもよろしいものでせうか、御陵でも日本人としては常識的に敬意を表さなくてもよいものでせうか。いや貴方方の後に幾百人の純良な國民が森嚴の感激に充ちて玉砂利に涙を流して居る瞬間、あのようにな郷軍人が喇叭を吹奏して最敬禮をして居る瞬間煙草を吹かして馬鹿笑ひし乍ら拜殿の奥を指さして居つてよろしいものでせうか、貴方方の今のお態度がどんなにか田舎の青年團員の心に悪い影響を與へたこととせう。私は一つの不敬に互る行爲であると信じます。日本貴婦人の名譽のために、洋装はされても日本人らしい態度をとつて下さい。」

N 『うんそれからその女連中はどうしました。』

△ 『私は監督員の溜り場に參りましたが、話のわからぬ男ばかりでせう、それから詰襟で金モール帽子をかむつた役人連の詰所みたいな所に刺を通じて今の事情を逐一告げてやりました。そして更に日本人の日本服装のみに厳格な取締りをやつて田舎のばあさんが花簪に赤襟手拭までかれこれ注意し乍ら、ちいさん連中のインバネスでもうつつかり着用したら不敬呼ばりをし乍ら、日本婦人の洋装姿なら何でも黙過して居るのはどう云ふ譯かをただしました。婦人服装はどの程度まで許してあるのか

日本婦人はどんな婦人帽をかむつて居つても、それを洋装と見なして敬禮もせず高笑ひし煙草を燻らしてよろしいのか、日本人でなくとも、それがよし外國の男であり女であつても、日本の國土に於て日本の最も嚴肅なる靈域の御陵に於て日本式の習慣で取締りができぬのか、日本の風俗、日本人の和服姿のみを取締つて日本人の洋服、洋装はどんな不體裁でも放つて置くのかと種々質問してきましたが、御本人等が明確なる回答が出来ないのでした。私は、その係りの者に充分その方面のことについて内務省や宮内省等の規定もあらうからもつと徹底した研究をして置いて下さいと所望してきましたよ。』

△ 『それからね或大學で明治教育文化展覽會が開かれた時でした。御物が陳列品の中にあります。その特別室には脱帽の規則を設け掲示もし猶それとなく忘れてる人には注意したものです。所が或る洋装の日本婦人が、私にね、洋装は帽子をかむつてよいのですと説明らしく申しましたので私は、この展覽會は日本の大學で日本人が主催して居るのです。御眞影も奉掲してあります、あなたもお見かけした所日本の貴婦人とお察し申します。それなら日本の習慣によつて、日本人としての敬意を拂ふのが普通でせう。どうですあの室の隅によく日本の習慣を知つて居られるドイツの婦人が自發的に帽子をぬいで參觀して居られるぢやありませんか、私はあの方がお氣がつかれぬならあの方にも御注意申

すつもりでした。日本人で日本式にしかも事皇室に關する事柄で御不満なら退場して下さいとその女を突き出してやりましたよ。それがその女と云ふのが、ほらあの例の婦人參政權一派の連中さ。』
これ等の誤つた自己没徳の思想、日本人であることを忘れ、日本人である誇りを失ひ、日本文化の價値を知らざる多數日本の官民はどうして朝鮮を愛することができよう。
西洋を偉いと思つてる、西洋人の眞似をして我事足れりとなしその形式のみを學んで西洋文明を生んだその精神を汲まない。西洋人の精神的屬邦思想を投げ棄てぬ限り、朝鮮に對する誤つた優越感永久に拭ひ去る可くもあるまい。

白衣か色服か

朝鮮神宮を參拜し、大京城を俯瞰し種々の感懐に耽つた私は氣が非常に沈んでしまつた。

N 『これから一つ龍山方面をみまして、お疲れでせうから又夕食後京城の銀座と云ふ所を御案内しませうかね。』

南大門通りに下り左折して京城驛を右に眺め、舊龍山街の電車通りに沿ふて車を走らせた。
△『龍山つて町は、ごみつほいそして工場だの倉庫ばかりなんですね。朝鮮家屋が少くないようですね』

N 『舊龍山はこれで昔の船附場である龍山津が繁昌しましたので、印刷や電氣や瓦斯の會社がありますし、新龍山は明治三十七年京義鐵道の出發點となりましたから、鐵道の機關庫や驛員の住宅で發展しました。それこそ全く日本人がつくつたので、今ちや舊龍山にまけません。朝鮮軍司令部と歩兵七十八、七十九兩聯隊や特科隊の兵營と官舎、鐵道關係の工場や高級住宅地の一劃もあります。』
△『これですかな漢江は、大した大きい川でもないちやありませんか。しかし河原がばかに廣いんですね。鐵橋など水の所はいくらもないですね。』

それでもこの漢江は朝鮮五大江（鴨綠江、大同江）の一つ、下流仁川や上流忠州邊とは荷たり船が通つて居るので、釣舟や遊覽ボートも泛べることが出来る。冬は全部結氷するからスケーティングの好滑走場だ。

N 『冬になりますとナンバウイ（冬季防寒具）で毛皮の中から顔を出したような帽子をかむり結氷した川へ空氣穴をあけて糸を垂れる魚釣人が行列しますよ。吹雪もかまはず板の踏臺に腰を下ろし長煙管をくわへて太公望を氣どるなども一寸朝鮮的ですね。』

朝鮮ホテルでは私の特別注文で神仙爐の御馳走をしてくれた。銀杏の實、松の實、くるみ、肉野菜、

△「近頃慶尚北道の府尹や郡守の聯合會議の席上に、色服用を満場一致で可決し、昭和四年の十一月一日から官公吏は率先實行することにきめたと先日朝鮮の諺文新聞に記事が出て居りましたが。」

N「そうでしたか、それは朝鮮のためにどれ程民力を涵養するか知れませぬね、よいことです。」

△「しかし色服用運動は、家庭染色技術の講習をやつて普及したり、色服用の合理的であることとを宣傳しましても、又當局から染料を配布した位ちや舊慣にとらはれる朝鮮人のことですから中々成績が擧がりますまい。全鮮の官公吏と學校で採用實行してみらなすねえ。そして各戸二三枚づつは無料で染めてやることですよ。着實にして事宜を得た社會政策ですがなあ。」

N「白衣民族が、其白服を廢止すると云ふのは朝鮮家庭内の一大革新ですよ。色服用について、總督府あたりで民力涵養の意味から積極的の一つ助長する時期ともなれば申し分はないのでせうが……」

白衣問答をし乍らNさんと私は浴衣がけで微風に吹かれ乍ら京城 郵便局 横手の路幅極めて狭い本町通りへと出た。

N「これが朝鮮の銀座通りですね。京城で一番賑やかな町です。大阪なら心齋橋筋と云ふ所でせう。」
京城 本町は一丁目から五丁目迄あるが、もとより東京銀座に比しては體裁に於ても比較にはならぬ

程小さいが、銀座尾張町から京橋迄に該當する所は本町三丁目から五丁目までだ。
内地各銀行大會社の支店や三越や其他本屋、繪葉書屋、洋品店、レストラン、毛皮屋等々が兩側に櫛比しそれも大抵内地人經營の商店ばかりである。道がせまいので大層な混雑、この道を一回往復すると内鮮人の人いきれで汗がびつしより、私はそつとNさんを誘惑して赤暖簾も懐かしい三好野の汁粉に惚れこんで、遙かにお江戸は神田の學生街を聯想したのであつた。みつ豆は江戸ツ子の飲みもの、油ぎつた御内儀さんが、

『東京の蜜豆とは味が如何でございますか。』

蜜豆の味は關東に限る。それも逞ましい鬚むぢやらの私共が匙も使はずにがぶがぶすすり込んで何杯もお代りするよりも、湯上り姿の粹な東京下町の桃割れ娘が、白いうなじを襟足にくつきりと残し乍ら、はにかみつつ豆粒を一つづつ掬ふ風情でなくては相應はしくない。そしてほつくりでも穿いて居れば猶更よろしい。日本人は何處迄も味覺の範圍だけは日本趣味を忘れない。日本人の住む所必ずしる粉やあり、蜜豆もできる。大根漬も戀しい。敢てハルピンや上海や京城のいる粉ではなく、シシガボール、ロスアンゼルス、パリ、ロンドンにあつても、すき焼と澤庵漬と味噌汁と醤油の味は國粹保存だ。それも中々日本人の面白い性格の他の半面ではあるまいかと私はその時考へついたのであ

附近の毛皮屋からは内地の小學校の標本にもと高麗雉、朝鮮烏の剝製を數羽求めたが、土地名物として至極安値、小包に依頼すれば朝鮮、滿洲から内地行の小包は全部書留の價格表記を明記する必要があるんだと云ふ。同じく日本遞信省の管理にあり乍ら、内地と朝鮮の郵便物まで取扱の差別を設ける規則など、關稅關係もあらうが速に撤廢し、こう云ふ小さい方面からも内鮮共通を心がけたいと感じた。

毛皮屋の親父が云ふ。「朝鮮の山野には、到る所この雉が多い。」と、それは内地の鶏肉のように肉屋の店頭には雉肉が陳列されて居る。標本剝製の方はどうも不成績、折角内地に送つてやつたが、後日すつかり羽毛までが剝製になつて脱毛してしまつた。これは標本製造人が不注意ぢやつたので、しかし高麗雉は内地雉よりその羽毛が大變美しく且つその肉もしつかり味が好いと云ふ經驗を打ち消す理由とはならない。

狩獵家の好適地は又全鮮到る所多く、雉や猪を撃つのも面白い。獲物は内地とくらべては甚だ豊富で瑞香、遂安、肅川附近にでかけたこともあつたが、それは内地の好射手には垂涎三千丈の場所柄が全鮮に散在すると云ふ事實の經驗の一部分を附言して置くにとどめよう。

○京城

詩興高兼秋色飛。

舉頭試向青天間。

南山漢水帶晴暉。

昨日陰雲何處歸。

(德富蘇峰)

○漢江

十里平湖細雨過。

直將金鼎調羹手。

一聲長笛隔蘆花。

還把漁竿下晚沙。

(李朝韓宗愈)

古蹟めぐり

○昌德宮——朝鮮町の大通りたる鐘路を左に折れて授恩洞の奥に進めば、昌德宮正門たる敦化門にぶつつかる。これは李朝太祖の創建にかかるのだが再度の火災に焼失し、今の建物は我が慶長十四年の頃重修されたもの、前の李王殿下は最初德壽宮に御住ひなされたのであるがあの閔妃事變以後李王殿下の居邸としてあつたのである。門を入れば右に李王職、左に二層樓の仁政殿が見える。宣政殿、

興福軒、觀理閣、迎春亭などが幽邃なる森の中から伺はれるがこれは一般人には解放されてない。敦化門から仁政殿に至る一廓の建物は李朝後期の代表的藝術として繊細なる寶蓋や、その彩色裝飾美の名建築が、青や赤や緑の配合よろしき壯麗さは又格別であらう。

旅行者は先づ總督府醫院側の入口から同じく昌慶宮の一部である昌慶苑をみるがよい。

○昌慶苑——正門である弘化門を潜ればその正面が明政宮だ。これは漢城最古の建物として高麗末期の考古學的興味を充分に満足させて呉れるだらう。しかもその道専門家の言に據れば、この御殿が東面して建ててあることも珍らしいのである。猶苑内には通明殿、景春殿、着和殿、觀慶殿等の古典的建物が今は李王家博物館となつて、廣い廣い森と林との間に點綴し、新羅朝以來の書畫、武器、佛像、陶磁器等が陳列されて此處だけでも優に一日の觀賞は容易ではあるまい。入口の弘化門から左が動物園、右が植物園、東京や京都の動物園より人工を加へぬだけ、又自然的背景と史的に由緒深い故宮の御苑のあとだけあつて、悠悠自適の氣分にひたつて格別爽快である。そのため京城府民があつた南山一帯の倭城臺、南山公園、京城神社附近の花吹雪と夏のそよ風に行樂の雅人多いと共にこの昌慶苑は又落着いた文人墨客が杖を曳くに春秋を問はずよい所だ。殊に櫻花爛漫と滿山紅葉の頃が詩情をそそるによい。夜櫻も又美しくしからうと思ふ。昌慶苑秘苑は公開されてないが李王職の許しあ

る者に限られてある。これは東洋第一と誇る植物園の温室を見てその積りの庭園を遙かに伺へば山紫水明、泉あれば山あり、溪流のある所奇岩怪石あり、しかも雅趣に富める翠寒亭、大極亭、逍遙亭などの朱殿碧閣が老松の間に見え又隠れするあたり、深山幽谷の境地にあつて苔むす燈籠、白布を投げかけたような瀑布、鬱然たる木立にふくろの鳴くなど天下の名苑であり秘苑であり一大詩境だ。

○經學院——それから私は經學院と謂ふ舊時の最高學府を偲ばうと云ふので、昌慶苑から北口約十町老樹に圍まれた文廟をみた。

これは李朝太祖が高麗の制に倣つて成均館と云ふ大學を建てたのがその始りだ。大成殿には孔子を始め子思、曾子、孟子、顔回等の聖哲が祭つてある。東西の兩壁には支那の名儒九十四人と朝鮮の名儒十八名が合祀され、又孔門の十哲宋朝六賢等もあつたようだ。又學生の講堂が明倫堂と稱されてあつたが、ここに半島五百年の學府が置かれ、それが朝鮮文教に重大な關係があつたことを思ふと感慨誠に深いものがある。今はさびれて見る影もない、東京本郷湯島の聖堂を思ひ浮べるのであつた。

文廟とは孔子廟のことで朝鮮の學問も道德も儒學を基幹としてあるから歴朝は痛くこれを尊敬し、二度も焼失したことがあるが、悉く復舊し今の建物は宣祖三十九年の修築だと云ふ。儒教は實に朝鮮文教を支配して居つたのであるが、朝鮮は如何にして儒學の精神をどう消化したか、曾て我が山崎

蘭齊がその弟子の間に答へた時『孔孟が若し日本を攻めて來たらば、我等は孔孟の軍を撃滅せねばならぬ。これが即ち孔孟の教だ。』と日本は儒學を受け容れ孔孟の道を學んだが、その根底には決して日本固有の魂を失はなかつた。しかるに朝鮮は儒教の形式を最も忠實に受け繼いだが、それは朝鮮の民族性によつて醇化されて居らない。單なる支那外藩の一儒教信奉國として其處に半島独自の創造性をぶちこまなかつた。孔子廟は立派に建てられてもそこに朝鮮人のもつ魂をふくんだ朝鮮式の文廟でない。たとひ文廟は支那の制度に則つたにしても又單に支那の形式を模したる案山子に過ぎないと云ふのではつまらない話だ。けれども、古來全鮮に普及せられたる儒教は地方の各府郡の郷校内に文廟を設け地方の兩班儒生等相會して、春秋の祭祀を執行し、郷内の善事の表彰孔孟の道徳を説き且つ學校すら經營して居つたけれども、その形式に拘泥して山崎蘭齊の氣魄は求められなかつたではないか。しかし今日も朝鮮の道徳的中心は儒教であつてその基礎は嚴たるものと云ふてよろしいが、各地方に散在する三百五十を數へると云ふ文廟は併合後育英事業は新教育法によることとなつたので、その維持法と社會教化の方面には當局より若干の豫算を計上して儒林團體の美はしい半面を助長するにつとめて居るのである。

を仰いでその制度を改め、經學の講究や文廟の釋典が今日に續けられて經學院は中央にあつて約二百三十の郷校を地方に散在せしめ、儒林團體も三十六萬人を算して居る。最近は總督府にて明倫學院と云ふ經學の最高學府を再興せしめ、大いに古來の美風を發揮する事になつたのは嬉しい。學府はなくなつた。春秋二回行はれるこの釋典が最もクラシックの朝鮮古樂と舞踊が行はれるので、總督も列席し、壯嚴にして悠雅古典的にして、美妙なる禮樂を聞くときは大陸文化の深幽さに恍惚と我を忘れしむるものあるは無理はない。私はいつも思ふ、朝鮮民族のみがもつ古典藝術の粹は、永遠に保存したい。そして優秀なる大陸文化が半島に植えつけられた中には、世界に誇る可き幾多の至寶あり。珠玉あり藝術的作品がある。これを過去にのみ阿らず、朝鮮の民族性に合致す可き改善とその發揚とをばかり、あの荒み切つた半島人の胸に、温い朝鮮民族の創造文化として洗練されたる何物かが現代にふさはしく捧げらるる日、その日の近きことを渴望するのであつた。

○鐘路通りの朝鮮老舗

N 『どうですこの般盛な通りが鐘路でして古來からの代表的朝鮮風の老舗もありますぞ。』

△ 『朝鮮では從來常設店舗がなかつたと云ふ話ぢやありませんか。』

N 『朝鮮では物々交換時代の遺物であつた市場取引が中心となつて居りましたから、商業と申しまし

ても小規模の自給自足の経済範囲を出ないんでしたね。』

△『それは又どう云ふ原因からきたんでせうか。』

N『さあ交通は不便でせう、法律は不備、産業の幼稚ときちや取引の物資がありますまい。それに御存じの通り朝鮮が壓政の兩班政治時代にあの社會階級制度が極端にやかましかつた頃、商人は忽ち苛税誅求の目的物になり易すかつたためもあつたと思ひますね。』

△『國民の経済力が貧弱で生活程度は低いから一般に貨物消費力が少ないと云ふこともあつたでせうか。』

朝鮮半島は今日に於ても常設店舗が非常に少ない。市場制度の發達や又裸負商のような行商制度の普遍、そして、朝鮮人相互間に於て比較的經濟上孤立の立場を保つて居るさまがありみえる。そのために朝鮮内の大資本や、貿易の方は内地人、支那人の専有に歸し、朝鮮商人は主として朝鮮人相手の小賣商人が多く要すれば半島内に於ける朝鮮人の商業的活動と勢力は非常に少ないものではないかと想像を逞しうしたのであつた。朝鮮の商事慣習など大層面白い點もあるようだ。

△『Nさん朝鮮人の店の看板は一寸讀めませんか、支那の町を歩いて居るようです。典當局か、はあ支那の當舗によく似た看板です。』

N『そうですね、あれは朝鮮の質屋です。沙器塵が瀬戸物屋で藏塵つてのが室内家具屋です。またわがり悪いのに乾劑局が藥屋、冊肆が本屋だなど随分勝手は違ひますが、近頃は漸次内地と同じ名稱を用ひる傾向にはなつて来たんですがね。』

○バゴダ公園——

△『バゴダなんてバタクさい名をつけたもんですね。』

N『何か韓國時代に英國の財政顧問かなんかやつてた人が、京城市街圖を作つたとき有名な塔があるんだからバゴダガーデンとつけたのが今に用ひられて居るんだそうです。しかし塔筒公園と云ふのが本名ですが……』

この公園は境内頗る小さく公園と稱するには物足らぬ氣がしたが、高麗の忠順王の金童公主と云ふ奇麗なお姫さんが、明の皇太子に人質にとられた頃の物語りを包む興福寺、次いで圓覺寺がその趾に建てられたと云ふ六百六十年も前から因縁深いその舊趾である。その園内には「大園覺寺之碑」と云ふのがあるが高さはかれこれ一丈もあろうか、その碑が李朝の名儒徐居正の撰、鄭蘭宗と云ふその頃一流の名家の筆だと云ふが、春風秋雨に曝されて、四百五十年碑文は不鮮明であつた。最も著明な塔は高さ三丈餘りはあろう、十三層の寒水石塔だ。六百年を経た珍品、周圍一面に隙間もなく精微な佛

像や鳥獸、草花などが浮彫されその形と共に彫刻や意匠の美妙なことで有名だ。この塔はかの忠順王の姫君が故里戀しさの餘り、自分の身代りとして支那から父王へ送つてきたものとも云ふし、李朝世祖の頃、明から渡來した開城にある敬天寺の多數塔を模してつくつたのだとも申されて居る。加藤清正がこの十三層の上の三層を不粹にも日本へ土産にもち歸らうとして重くて中止したとの説があるが、成程上三層が傍に置かれてあるが、實は李朝の中頃佛教排斥の熱高く燕山王、中宗等が當時の圓覺寺を廢止したり、この由緒深い塔まで他地方に移送しようとしたが、上の三層を下ろした時天變俄に來つたのに驚いて佛の怒りを恐れその儘にしてあるのだと云ふ話も聞いた。この方がどうも本當らしい。園内の亭に長煙管連中が煙草を吹かし乍ら天下泰平に空を眺めて居る、五六十人の白衣の大男。此處を出て右に折れ電車通に沿ふて數町すれば、鐘路一丁目の十字路に出る路の左角に普信閣——があると云へばさも大業に聞えるが、實は樓閣と云ふよりも古びた鐘つき堂だ、又相不變泰平をきめこんだ一群の白衣男が鐘つき堂の下石垣にうようよ日向ほこりをして居る。血氣のみなり宜しい若者も所在なげに通行人を眺めて居るばかりだ。ここには高さ一丈二尺五寸、厚さ一尺、周圍二丈二尺餘の巨鐘がある。この鐘は今から四百年前李朝世祖の十三年に鑄造され、昔は南大門の樓上に吊され朝夕各城門を開閉の時刻を知らしめたもので、更に明軍が此地を占領して居つた頃は、この鐘を明禮洞の峴上に移し三二

度目に現在の場所に移されたものだといふ。鐘路通は朝鮮の銀座街で一番賑やかな朝鮮色濃厚の街だ。その町を鐘路と云ふはこの鐘つき堂の由來から涌いて居るのである。朝鮮の民衆運動はいつもこの廣場が集合地であつたと云ふが、日比谷の松本樓前と云ふ格式、萬歳事件の時ここに白衣の群衆はどよめいたであらう、この樓にのほつて『諸君ッ』と叫びそうな男は今この石垣の下で又々居眠りを續けて居る。朝鮮にはよくもこう暢氣者がそろつて居るだらうとは、内地からの旅人が全鮮到る所に感ずる點である。そこが大陸的なのかも知れないが……。

○光化門と總督府——、普信閣から光化門通りに出で道の兩側には古風な山門構への法學專門學校、警察講習所、朝鮮歩兵隊、近代建築の京畿道廳と遞信局が並んで居つた。昔は李朝の内閣諸官省が、この道の兩側にあつて昔の王宮への本道であつたそうなる。朝鮮歩兵隊は純然たる傭兵、朝鮮宮殿の護衛である。官衛の守衛が軍服に着替へたと同様、朝鮮人中から志願者を募つて今兵員が三四百名あると云ふ話だ。それでも營門には歩哨が立つてその敬禮の動作は帝國軍人と變りがない、服装も兵器も現役兵卒そっくり丁度衛兵の交代だらう。劉曉たる喇叭が吹奏される。

△『朝鮮も早く内地人と同様に、兵役の義務を果せる迄に完全に内鮮融和の實が擧がらなくつちや駄目ですね。同じく國民である以上國防はその國家の構成分子が平等に責任を負擔するのが當然ですが、

しかし爲政者としては朝鮮の實狀がその域に進む迄に相當な長い年月を経なければならぬと考へて
でせうね、しかしこれは重大問題でせうからな。』

△『ははあ、これが光化門ですね、總督廳舎の白堊館とは對照があまりに拙いぢやありませんか、し
かしこの景福宮の正門が光化門になつて居るんですね、宮殿の位置としては白岳の麓にあつて申し分
はありませんが。』

總督府廳舎は工費六百三十四萬圓、復興式五階建、花崗岩張鐵筋コンクリート造で總建坪九千六百
餘坪、十箇年を以て竣工した。威容と落着きの點に於て流石に半島政治の中心官廳たる對面に耻ぢな
いものがある。内地の何處を尋ねてもあれだけの結構を完備したお役所は見つかるまい。六百何十萬
圓と云ふもこちらの安價なる勞働賃銀を以て、又總督府當局と云ふ種々有利な立場にあつて氣長に建
築されたものでこれをさしすめ内地でつくれば二倍以上の經費は請合と噂して居る人もあつた程だ。

正門の大ホールや廊下まで朝鮮産の大理石づくめ、外觀よりも内部の模様は驚かされて宮殿のような
感じがした。大ホールの天井には内地帝展洋畫の大家が揮毫した大壁畫、それも朝鮮の傳説神話など
に題材を利用したものらしく、一枚はたしかに裸婦群像と天女の圖であるから朝鮮羽衣の神話だ。内
地の羽衣とは少々違つて三保の松原よりこのロマンスが複雑で面白そうだ。

昔朝鮮金剛山中のとある池畔に花魁しい天の乙女遊が身に一糸をまとはず水浴の群像をそのままであつ
た。日本の羽衣は海國だから漁師であるが、朝鮮は陸地であるから樵夫が主人公だ。

或時樵夫が獵師に追はれた獐(朝鮮に住む獸)の生命を助けてやつた。所かその獐は樵夫に恩を返
すため美婦をめとる法を授けた。山中の某池に水浴みする天女達の衣を一枚かくしてしまへば、天女
はその通力を失つて天に昇れぬからその婦を妻にめとるべしと告げて獐は逃げ去つた。

それで樵夫は教へられた山奥の清冽な水をたたへた池畔に於て、水浴みする一人の天女の衣を隠して
遂にその婦を女房にしたのである。二人の仲に子供が何人も出來たので、もう安心と樵夫は天女の妻
に心を許してその衣の隠してある場所を話した所が、妻は再び、その衣を奪ひ返し天女となつて消え
てしまふ。樵夫は子供を抱いて悲痛して居つた。しかし天から下界の池水を汲む釣瓶の中に忍び込め

ば自らも天に上れると獐の夢じらせがあつたので、喜び勇み樵夫とその子供等は釣瓶に忍んで天上
界に上り再び別れた天女と邂逅し、圓滿な天國の家庭を營むと云ふ略筋であつたと思ふ。その天女裸
婦群像の畫が上品な藝術味を帯びて掲げてあつた。貴賓室も覗いてみたが中々大したもの。又朝鮮の
土器、發掘物や特産品が廊下に飾り陳列棚の中にすらりとあつた。内地學生の視察旅行團などは、ぜ

ひこの豪壯な廳舎内部はみて置く價值がある。形の上からも朝鮮統治の重大性が意識されると思ふ。

同行のNさんが聲を低めて

「この殿堂に参りますごとく自分に一度は總督の椅子に座つてみたいと思ひますよ。英雄的野心がむらむら起りますね、年甲斐もなく。」

△「大いにNさんは地位ある政治家なんですから早く總督になつて下さい。私など朝鮮總督に對しては國家のために改善して貰ひ度い希望條件が澤山あるんですからね。」

私はNさんの氣もちがよく汲めた。曾て北京の紫禁城の黄金の墓が、朝日に照り添ふて燦然たる輝を放つとき、そして森の中から雄大にして壯嚴を極むるあの大規模の宮殿の全景をみた時、深刻にして言ひ知れぬ東洋的の感懐が胸に迫つたのであつた。毎朝北海の喇嘛塔から朝もやに包まれて居る紫禁城の偉觀を飽くことなく眺めに行つたものだ、それは封建的思想かも知れない。英雄主義と云ふのかも知れないが、袁世凱や張作霖が皇帝又は大元帥を稱したのも、北京が王城としての偉大さを今にありありと残して居るから一層その英雄主義を満足させたのもあらうか、國民政府が南京に都を遷した一つの理由の中にも、北京ぢやどうも野心が起きると云ふような意味の言葉もあつたように記憶して居る。總督府廳もこれだけ提灯をもつてやれば十二分だ。

○景福宮——、總督府廳の二階、窓硝子越しに後を覗くと勤政殿の高い葺がわかる。此頃では當局の

許可證がなければ、景福宮は開放せぬ方針だそうなる。役所のBさんを案内役にしてNと私の三人は裏に廻つて舊宮殿を拜觀するの便宜を興へられた。敷地が十三萬坪あつて李朝太祖の創建、文錄役に小西、加藤の旗指物が乗りこむ前に、亂徒のため灰燼に歸し、其後二百數十年所謂狐狸の住むに任せてあつたのが、今から約六十年前大院君が攝政時代七年の歲月を費し我が明治三年に竣成した新しい建築物である。當時の半島は民力殆んど盡き果てて居つたに不拘、この大工事に一世の力を傾けたため、一入李朝末期の租政が民意を失つたのである。大院君が人民から怨まれたのはこれから一層甚しかつた。

興禮門をくぐれば景福宮正殿の勤政殿だ。これが往時文武百官朝見の儀が行はれた場所と思へばその宮殿を繞る石の勾欄や、朱の圓柱、精巧なる寶蓋と美しく彫刻と色彩。みな昔を物語るが如くこの後に思政殿、左右に千秋殿、萬春殿、その奥には康寧殿、文泰殿等の朱殿玉樓が聳えて居つた。思政殿は國王の國務を處理する所、康寧殿は國王、文泰殿は王妃の居室であつたと云ふ。昔は大奥に更に健順殿と云ふ王妃の寢殿があつたそうだが今は荒涼たるものでその形も見えない。

慶會樓は實に素的な御殿であつて誰人も最も深い印象が與へらるる所だ。東西十九間、東北十五間高さ十五尺の大花崗岩の柱が四十八本、これに支へられた大樓臺であつて背後は松林を越えて白岳の

山麓がせまり、清い蓮池の中に屹立して、美はしい白鳥が石柱に小波を寄せる圖など一幅の山水畫だ。これこそ李朝末期の代表的建築物と稱され、韓國時代はこの階上と階下に文武三千の官吏が饗宴を給はり美装の妓生も舞つたことだらう。私はこの景色に嘆賞の聲を放ちつつ暫し立ち去ることが出来なかつたのである。

○總督府博物館——慶會樓の東部にあるが、これは大正四年總督府始政五年を記念する朝鮮物産共進會の折、景福宮構内に美術館を建設したので其後これを中心に同構内の舊宮殿の一部をも併用して、内地、支那、印度等の参考品をも加へて一萬三千九十四點、主として朝鮮の制度、風俗、文學、宗教、美術、工藝、其他歴史上の参考憑徴となる可き資料が集められてある。見逃せぬ逸物だ。南鮮地方の史實に關するものは慶州の博物館にあるが、ここにも樂浪の發掘物や三國時代の遺物、新羅時代の佛像、それに高麗燒などが李朝時代の墨蹟や繪畫と共に陳列されて朝鮮藝術の精華を偲ぶには至極重寶だ。博物館階下の内壁は慶州佛國寺石窟庵に模してあると云ふ凝り方だ。

朝鮮にも總督府主催で大正十一年以來毎年朝鮮美術展覽會が京城で開かれて居るが、東洋畫、西洋畫、彫刻、書及四君子(竹、梅、蘭、菊)等が二部に分け出品點數など第八回の昭和四年には千三百點、會期中の觀覽者が三萬五千人に及んで居るので、漸次朝鮮民族文化のため又は社會文化の發展に寄與

する所が多からう。この朝鮮人のみの特質によつて世界の誰人でも眞似の出来ぬ美術品藝術的大作がどしどし發表される時代が來ねばならぬ、往時の四君子の名匠たる竹の李雲や申潛、梅の洪受嘯と魚夢龍、蘭の金應元、人物、花鳥山水と名人を思ひ出して駄目だ。現代朝鮮人が徒らに過去を夢みるよりも先づ昭和時代の大藝術家、大美術家を今日の朝鮮民族中から文化の選手を送り出さねばならぬ。私は速に朝鮮美術展覽會が朝鮮の特長を充分にもつて、その作品の陳列が内地にも開催される日の近からんことを願ふたのであつた。民族の感激性はいづれの學問と藝術を問はず活潑に發揚される可きものであつて殊に大なる美術、大なる藝術を創造する氣力なき民族は元氣の消滅を意味すると思ふ。若い朝鮮の美術家が朝鮮展覽會の權威を内地の帝展、院展と同格に引き上げることの努力は平凡な進み方では遠いことだ。私は博物館をみ、その陳列されたる古朝鮮の汲めどもつきぬ遺物品に接して坐るに現在の朝鮮美術を嘆きその前途を思ふたのであつた。

○美術品製作所——景福宮拜觀の歸途Bさんに導かれるまま鐘路と太平通の交叉點にある朝鮮美術品製作所をみた。もと李王職の管掌に屬して居つたものなそうだが、その建物も木造平屋建の貧弱さ加減、京城案内記に少し誇張過た、名所紹介が記されてあるので、聊か憤慨した私は、それでも腹の虫を耐へて隈なくみた。内地の一寸大きな貴金屬商位の品物しかなかつたが矢張り朝鮮色と云ふのに

若干の興味をつないだわけさ。石刷類、法帳類、金銀の床飾りが硝子棚に收つてあつた、かまほこ形になつた斑指や指環と名づける女子の指輪、七寶花模様の簪類、耳子等々。

○朝鮮みやげ——朝鮮名物は何がよからうと考へてみれば、さしずめ朝鮮特色を備へて手輕な値段と民族的風雅が肝要。

鐘路通りの玉房（玉細工屋）銀房（銀細工屋）貝物塵（玉製装身具を賣る店）等を覗いても飛びつきたい程のものもないが、私は古錢模造の文鎖、腰袋の刺繡縫取あるもの、萍草製の手提籠、朝鮮煙管（タンペータイ）刻煙草入（サムヂ）それから折り疊んだ時でも幅より厚さのふくらみがうんと大きいと思はれる油の塗つた扇子、雨傘のように竹骨が三十本もあつてギラギラと油が浮んでそこへ山水の南畫等が書いたのは内地人には中々珍らしいお土産だ。

いづれも四五十錢から一圓どまり、白衣の周衣これは内地の羽織であるが、夏ものなら木綿で三四圓洋服の上にひつかけても體裁がよく忽ち朝鮮兩班となつて本ブラ（銀アラに眞似て本町通の散）朝鮮モボともなれる。甘黨は松の實入りの不老館や人蔘入の高麗やき、白魚の筏やき、蜂蜜でかためた薬果なども面白からう。石鍋や神仙爐は内地の寄鍋代用にはもつて來いの品物だ。少し嵩ばるものでは螺鈿漆器がある。これは雅趣あるを以て古來から鮮人上流家庭に愛用せられ近年

は内地や外國にも朝鮮獨特の美術工藝品として輸出される程有名になつた。主として慶尙南道の統營や京城に出來るのであるが、其他鮮人經營の工場からもでるので土産物として年額二十萬圓の產出だ。又莞草製品は朝鮮特產物の莞草を原料とし、その表皮を剥いでこれを細く裂き、そのまま又は染色を施した後編織としたもので、その製品は疊表、蓆蓆や靴、スリッパ等で外觀は高尚優美、しかも強靱な素質だから年額七十萬圓の產出である。これらも朝鮮趣味の上から好適の土産だ。内地には濃厚なる支那趣味は一つの流行をなして高貴なる朝鮮趣味は、こう云ふ日常の手近い置物や器物から馴染みたいと思ふ。趣味を理解して始めて朝鮮半島に親しみを覺えるのだ。

○南山の麓——南山公園、漢陽公園も一見してから朝鮮神宮東參道の上にある郷社天満宮に日清戦役の記念碑をみるもよからう。しかし南山の麓、もとの總督府廳舎跡にある朝鮮總督府經營の商品陳列館をみるのが有意義である。産業の大系を伺ひ手つとり早く經濟上の大綱をつかむことができるから便宜だ。恩賜記念科學館もある。この廳舎の奥は京城神社でその境内は誠に幽邃を極め春の花見は勿論のこと、ここから京城市街や故宮の蔓などが眼下に手にとるようなられたのである。この神社が京城の氏神様だと云ふ。

この附近一帯は倭城臺とも稱し文祿の役に大谷吉繼や、増田長盛、浮田秀家の大軍が往來し且つ陣地

を構築したので倭城の名が生まれたのである。南山は市街の中央地点から近接して居るから散策には好都合、旅の疲れを軽く憩ふにも手頃の場所、京城神社は風致と眺望の上から簡単に目的を達して呉れるから私は滞在中夕食後でも時々杖を曳いたものであつた。

○京城

南山松樹見崇祠。
只恨檀篋無享祀。

皇德從茲萬世垂。
夕陽人弔古高麗。

(坂本蘋園)

○北漢山

三峰亭々削寒王。
古木怪巖樓閣重。
我昔尋僧一歸去。
曉鐘一聲發深省。

前朝古寺多八百。
鳴川激々山石裂。
夜闌山月供軟語。
白雲滿地不知處。

(李朝徐居正)

半島駐屯の國軍を思ふ

○國防第一線にたつ者

軍隊駐屯地——國民のすべては軍人なんだ——内地の
兵隊よりは辛からう——朝鮮の道路は五千里に及ぶ

○兵隊さんの朝鮮生活

内地と半島を往復する除隊兵に正しい朝鮮觀をあたへ
よ——軍人精神は魂の力だ、肉體でない

半島駐屯の國軍を思ふ

國防第一線にたつ者

私は案内のYさんを無理に辭退して、一人で自動車に飛び乗り京城郊外の程遠い龍山の或る陸軍兵舎を訪れた。折角朝鮮まで旅行にきて忙しいのにわざわざ時間つぶしの兵隊屋敷見物でもあるまいにと考へられそうぢやが、どうしてどうして私はちやんと始めから、大邱か龍山の兵營を、一度は心ばかりであるが慰問してみたいと云ふ豫定の念願を持つてゐた。毎年日本内地から滿鮮旅行に出かけるものは甚だ多からう、しかも誰でもが南滿州鐵道に揺られ乍ら、匪賊の襲來を警備し、列車妨害を防ぎつゝ、夜蔭の線路巡察や潛伏斥候に従つて居る日本軍人のことに氣がつかない。私は屢々研究の旅杖を滿鮮地方に運ぶが、其都度滿洲鐵道守備隊、駐屯師團、及び朝鮮に於ける第十九、第二十兩師團の將卒が、(第十九師團—龍山、平壤、太田、大邱に駐屯す) 悉く私共同胞の代表者として、重い國防の任務で黙々と働いて居る事に深い敬意を表さなければならぬと思ふのである。國防は申すまでもなく國民の國防であり、國軍とは國家の軍隊の意義であつて、少數陸海軍人のみに任せて置けぬのはわか

りきつた話の、それにも不拘兵役の實際に服勞しなかつた連中は、運がよかつた位にあつさり片づけて、自分自身が日本の國民であり、國防責任者の一人であることを忘れて居る。飛んでもない話だ。私はその時考へた。今こうして安心して大陸の旅に出られるのも、又日本國民が安泰に海外に活動してゆけるのも、居常國の鎮めの猛者達が第一線にたつて居るからだ、自らの一兵士としての苦惱なる實戰の體驗を偲び乍ら、一入涙ぐましく感じさせられた。

正直な話、會寧や羅南と云へば咸鏡北道で、白頭山の山脈と圖們江や鴨綠江を境界として、露支兩國境に接して居る。それに氣候風土も内地とは違ふ。又内地人の居住者も甚だ少ないので、何かと淋しく又不便もあたりまへだ。京城、平壤、大邱だつて内地兵營とは特別に違つた苦勞が多い。しかも一步營門を出づればすぐに

『あれは内地の兵隊さんだ。』

と多數の新附同胞たる朝鮮人から注目されるので、一層軍紀、風紀が嚴重になつてくる。それでもよくしたもので、自然に朝鮮人の中に知り人が出來てきて、滿期除隊で愈々内地歸還となる際は、朝鮮人の本性である純朴で正直なお百姓さんから、涙を以てその別れを惜しまれる者さへある。しかし一般的には娛樂機關はなく、遠い内地の父兄がわざわざ面會に來てくれることもない。そして同じく日

本國內とは申し乍らも、朝鮮軍は内地軍隊より一層軍律が嚴重でなければならぬ理由もあるし、又兵隊さんの緊張の度も深いわけ。その重大なる任務の達成には實に容易ならぬ苦心が潜んで居ることもあらう。

△「どうです、秋季演習の時など、内地とは特別に違つた苦心もいるでせう。人情、風俗の大分異なつた土地柄ですからね。」

S「ハア：：何大した事はありません。」

△「舎營の時などは何が一番お困りですか。」

S「南京虫であります。朝鮮家は御存知の通り南京虫が多いので、兵隊は雨でも降つて居らなければ、反つて露營の方がよいと申す位であります。それに又家で便所の設備が全くない所が多いものでありますから、これには閉口致します。」

△「水はどうでせう。少ないらしいですなあ。」

S「ハツア、井戸が部落に一つか、二つしかないものでありますから、兵隊が氣の毒であります。秋季演習など二十日以上も入浴出来ないものでありますから、それに褌袴も、袴下も洗濯出来ません。運よく滞在日などで川で洗濯ができましたも、ほし物場がありませんから、河原の石の上や草の原の上

上にひろげてはします。」

△「しかし道路は、それでも割合によいやうですなあ、大部隊が行進しましても……。」

朝鮮の道路は、總督府開設の始めから理想的の道路網を定め、今では一、二等道路は九千六百十一軒、三等道路が三萬七千七百七十七軒に及び、更に國境方面にも産業並に警備上から新道路を設ける政

策らしい。總延長五千里に及ぶのも遠くはあるまい。朝鮮の舊時代の政治が頗る悪かつたために、山に木なく川に堤防なく民心も萎微してしまつた。それは自然の推移に任せて居つたのであつた。ために河川の橋梁等も從來植林事業の全くないため、折角架設しても大雨一度沛然と到れば、忽ち橋脚を押し流す程であつたが、近頃は日韓併合以來廿年に及んで、段々山に縁を増し、洪水の慘害の程度も少なくなつてきたやうだ。その頃とかくに批評されたこの道路網が、今となつては斷行した故寺内總督の事蹟を喜ばぬ者はない。

兵隊さんの朝鮮生活

△「軍隊では特別に朝鮮に關する學科を兵隊に教育されて居りますか。」

S「それにつきまして特別に研究して居る將校もありますが、兵隊には初年兵の外出の時など、朝

鮮人の習慣がわかつて居りませんから、充分の注意をして居ります。そして朝鮮人に對して不遜の態度であるなど誤解を受け易い點は特に教育して居ります。』

△『……』
S 『又各隊によつて種々違ひませうが、日課豫定表には講話の時間がありますから、其時にも朝鮮事情を時々教育して居ります。』

△『それは結構な事ですなあ、兵隊は在隊期間中充分に教育されて居りますから、除隊後はすつかり朝鮮通ですね。軍司令部あたりではどう云ふお考へか知りませんが、しかし特別に朝鮮についての少し詳しい一般常識や、人情風俗、歴史、地理などの讀本式な小冊子でも除隊兵に配布されて、二三週間學課をやられることも面白いかも知れませんね。時間の餘裕もありますまいがね。殊に近衛とこちらの師團は入營期が一年二回宛ですから忙しいでせうが、始終大多數内地からくる兵隊の入れ代りごとに、従来内地人が誤解して居ります朝鮮事情や、わかりやすい朝鮮趣味を教育されて、兵隊全部に正しい朝鮮觀のお土産をもたせて歸郷させましたら、内鮮融和の上に大層よからうと私はいつも思つて居ります。そして除隊後、村々の青年團や在郷軍人會で機會あるごとに、最も正しい朝鮮常識を宣傳することもできましたならば効果が著しいと考へますかね。朝鮮總督府當局が兵隊の除隊土産に、

小綺麗な朝鮮讀本のパンフレットの二袋宛位は寄贈してもよさそうなもんですが……』

△『どうでせうこちらの在郷軍人會は』
S 『はあ……それは内地より盛んであります。同じ日本でも海外に来て居ると云ふような感じですが、又内地人の數は少ないものですから、やつぱりまとまり易く團結力があり、それに内容も充實して居ります。滿洲もそうだつて話してあります。』

△『さうでせうね、緊張味が違つてますあね。やつぱり私どもも、こちらの田舎の内地人が少ない所へゆきますと、心細く思ふこともありますわい。皆日本國民の同胞なんですけれど、人情や風俗が一寸内地とは勝手が違つてますから。』

『お久しぶりで兵隊の酒保でも御案内しませうか、内地とは別に變つて居りませんが炊事場なども……』

その時青年將校F君が突然この副官室をノックした。偶然にもこのF君は日本内地の學校で俄鬼大將時代の友達、頗る貧弱なる私が學校時代の先輩として敬禮されすつかり嬉しくなつた。

F 『先程總督府から本部へ電話がありましたしてお名前を承はりました。では營内は私が御案内申し上げます。』

△『二十年ぶりですなあ、お互ひに變りましたねい。』
F『ハッア』

營庭に出ると今しも營門の方からくる駈歩の一隊、砂煙りに包まれて動いてくる。今日は九十八度と云ふ暑熱の炎天下だ。濡れねずみのように汗びつしよりした上衣。重く肩に食ひこんだ軍装の背囊しかも一絲亂れざる整々確實の一團。

あの兵隊の顔、あの姿、あれは普通の人間の力ではない。肉體の働きぢやあの我慢ができぬ筈だ。さうだ。あれは魂の塊りが走つて居るのだ。軍人精神——日本精神の塊りだ。國民のためだ。國家のためだ。國家の軍隊は一切の私情私事のからくりつくかなぐりを捨てて、あの兵士達は尊い軍務に従つて居るのだ。國民の選手達だ。苟もお互ひが日本國民の一人であるならば、内鮮兩民族の老若男女を論ぜず悉く健氣な兵隊さんには、

『御苦勞さまです。』

と御禮を申すのが人情の自然なんだ。それと共に親しく自分の骨肉子弟を入營せしめた内地人の人々。その家庭と周囲の人々に對しても、國民の凡ては厚く感謝の意を表さねばならぬ。
△『おいF君、お互ひに仕事は違ふがこれもお國のためだ。内鮮融和のためだ、東洋平和のためだ』

しつかり頼むぞツ』

F『はッしつかりやりますッ』

と私は二十年前の昔に返つて、遙か海と山を隔つる何百里程、その頃の内地の遠い家郷の寒村をFと共に偲び乍ら、將校酒保に時の過ぐるを知らなかつた。そして旅を急ぐ私と營門で別れる時、私とFの相注目するその眼四つには、各々熱い露が充ちて居つた。』

朝鮮婦人觀縮圖

◎長衣に纏はるゝ女

婦人の貞操觀念——男子禁制の婦人室——排佛主義は儒教尊重となつて婦人の地位もそれにしぼられた

◎婚姻奇習と婦人の地位

朝鮮婦人の社會的地位——早婚の弊——同族結婚はやらぬ——掠奪婚——婦人は財物にあらず——目醒めゆく白衣婦人

朝鮮婦人觀縮圖

長衣に纏はるる女

長衣とは内地の被衣に似たもので絹又は木綿製で婦人が顔面を覆ふのであるが、朝鮮婦人の古來の習慣は、外出にあたり必ず長衣を以て顔をかくし、異性に對しては極端な障壁を設けて居つた。もしも田舎の一本道で先方遙かに男性の姿をみれば、道路を背面にして立ちとどまり顔を衣に埋め、暫くして男の通り過ぎたる様を察して再び歩をつづけると云ふわけだ。男女七歳にして席を同じうせずとは朝鮮社會に於ては長年月確守せられ、女子は十二三歳からは全く家庭に封鎖されて戸外からは容易にその姿を伺ふことができぬ。そして女子の貞操觀念の堅固とその社會的美風は世界一の折紙をつけた程であつた。それが上流家庭程嚴格、下層社會の婦女子は男子と共に野外の耕作に従事するも、その處女の如きは充分の家庭的及び社會的監視のもとに絶對に他人の異性と言葉をかはす事はない。もとより外出にしても男性とその行を共にすると云ふような事はないのである。アメリカに處女なしと云ふが朝鮮の處女、婦人に對しては内地出稼にも貞操帶の心配は無用だ。そ

の反面にはあまりの窮屈さから弊害も生れる程であるのは止むを得まい。しかし内地の私製フラツツバ一等が等しくその良習を學ばねばならぬ程婦人の貞操に對しては誇る可き傳統がある。そしてそれを犯し又は破壊する人に對しては村にも住めぬ程郷村の道德的制裁が現に行はれて居る。けれども時代の流れは長衣を脱ぎ捨てた、都會地に於ては間々見受けらるゝ程少なくなつてきた。長衣に代るに洋傘がこれは日除けや雨をしのぐのではなく、男性に對して顔をそむけて歩くために使用されて居るとは面白いではないか、朝鮮婦人はトラビストの修道者のようだ、内地化した新朝鮮の家庭中には、堂々と内地人同様に家庭を開放する者もありそんな話だが、どうしてどうして主人とどんな懇意の間柄な友人が訪ねてきても、主婦は決してお客さまに面會はしない。勿論絶對に食卓を共にして歡待することを潔しとしない。主人も又敢て主婦を紹介せぬのが普通である。私が多年の友人に鄭さんと云ふ京城の紳士が居るが、旅行滞在數ヶ月の折前後十數回訪ねたり飯を食つたりして居つたけれども、一度もその主婦は顔を出さない、接待は皆下男、男性に限られて居つた。又私を遠來の珍客だからとて無理にもホテルから引越させて自宅に宿泊の便を供與した朝鮮の名望家もあつたが、その時の二週間滞在在中一度も、その奥さんは挨拶所か垣根越しの後姿さえ見出せなかつた。

私は主人と共に舎郎(客間)に、婦人部屋は煉瓦の塀に眼を遮られた奥の内房に、そして下男等は行

廊、庭下間は温突がしつけられてあつて劃然と一家の内部でも男女別家屋に住む状態だ。それだから仲のよい朝鮮人の友達に對して内地式に奥様によるしくなんてお世辭をふりまいたら返つて先方の習慣からみれば下品な失禮の奴とみなされるので、御家内様にもよろしく御鳳聲願上候など寒中見舞に書き添へたらそれこそ朝鮮事情にうといと云ふ譏りを免れぬわけだ。内房と云ふ文字通りの深窓に閉ぢこもつて一生涯他人の男性には絶對に顔をみせない。女の方からは來客でもあれば屋内からは障子の隙間からは覗けるけれども、男の方からは全く内房は鬼門だ。家族の者ですらみだりに内房に立ち入ることのできぬどちらかと云へば女尊男卑式の見識さへ保たれて居る。そんな風習も知らずに、併合前後には日本の官憲が戸口の調査や何かの取調べに遠慮もなくつかつかと内房の方まで入つて行く。どれ程朝鮮家庭では驚いたか知れない。

この朝鮮に於ける婦人貞操の尊重は何が原因をなして居るのであらうか。それは申す迄もなく儒教の思想が根本的に社會風教の全體を支配して居るからであつて、これが他の反面には結婚因襲に婦人の社會的地位の奇風に影響を與へて居るのである。事實朝鮮半島の文明は儒教文明であり儒學は治者の方便からも被治者に要求するには好都合のものであつたからだ。朝鮮の冠婚葬祭が甚だしくその儒教的繁文辱禮の形式に墮ち後年はその弊害に苦しめられたけれども、その始め朝鮮在來の佛敎が高句

麗小獸林王の二年今から約千五百五十七年前に渡鮮してから爾來百濟、新羅を経て高麗の末期まで麗朝の保護に因り頗る盛大を極めたが、その弊害宗教と政治の混肴が又著しかつたので李朝に至つて反動的に佛敎を嚴禁した。そして寺院の新設を禁じ、良民が僧尼となる事も封じた程壓迫し専ら儒敎を以て國學、國教倫理道德の根本としたのである。それは、又會て新羅が半島を統一したのは隣邦唐の武力的援助を受けたから迎合的政策的に朝鮮は儒敎を容れたと同様に李朝の排佛主義は支那側に對する甘心を買ふ必要にも當時の外交關係はなつて居つたのでもある。

朝鮮婦人社會の風習も佛敎を排斥して儒敎を以て民衆の指導原理と致したことから長衣もきびしく守られたので、それは時には如實に一般社會に徹底し良果を結ぶと共に惡果も又生じてきたのである。長衣の女性は今や解放された。朝鮮民族のみがもつその美風良俗たる貞操尊重觀は、敬老思想や隣保協同、祖先崇拜等の良俗と共にこれを弊履の如く棄て去らうとする形勢が濃厚だ。私は最近の旅に於ては朝鮮の社會的慣習に對する新舊思想の衝突がその變革過程をば最も急角度のテンポを綴つてしかも非常なスピードで頽廢してゆく傾向を發見する點が多くなつてきたことを憂ひた。朝鮮婦人が長衣を捨てそれに變る洋傘で顔を掩ふのも束の間、青年子女の間に芽ぐんできたロシアニズムとアメリカニズムがこの誇る可き婦人貞操の社會秩序を紊さんとする現象を示してきたではないか。日本内

地も今友愛結婚が公然と青年子女の間に談笑されるようになってきた。日本社會の道德的秩序も又變つて行く。

婚姻奇習と婦人の地位

婦人の社會的地位をみるにはその國家又は社會の婚姻制度がどうなつて居るか云ふ事柄を見究めるのも着眼點の重要項目ではあるまいか。そして今朝鮮に於てはその傳統の家族制度と種々の社會慣習が何千年の夢から急激に現代の資本主義的國際社會の來襲を受けて混沌たる半面を生み、一方には温順柔和にして質素朴訥そのもの、如き竹冠木屐の村人と他方には突飛極まる内地人ですら驚くモボ、モガの跳梁するあり、それは往時我が日本が封建時代から明治——大正——昭和の三代を貫いて長い準備期間を経漸次革新され且つ大勢に順應してきた家族制度の改善が、朝鮮に於ては我が平安朝時代の昔時の人情風俗そのまゝが、突發的に瞬間的に泰西思想の矢面に衝突し、内地人の社會に於ても相當極端視さるる異様狂態が特に日本との併合前後からどしどし輸入されてきた。内地の短所のみが素早く流行し、朝鮮独自の社會にその新文化は適應すべく醇化される餘裕が全くなかつた。私は昔の朝鮮婦人の社會的地位を考慮しつつ今やその彼女等の平和なる内房の奥まで、家族制度の挽きまでが大嵐の襲撃を蒙つた、非常なセンセーションを播き起した過程の一端に思ひ及ばねばならなくなつたのだ。

誠や郷に入つては郷に從へと云ふが、現今日本内地の婚姻、職業婦人にあらざる一般子女は兩親の見たてて呉れた相手と結婚するのが普通の慣例である。貞淑を尊ぶ日本子女が自由戀愛の美名をかりて男女の非公式同棲が都會地の自稱新人輩によつて行はれて居る。若い燕と私通した歌人も出で、亭主と子供を捨てて平氣で男を食へこむ社會運動家も現はれ、娼婦的生活を以て女流文士の地位を買ふ者が涌く世の中と變つた。自由放埒と淫風滔々は敢てローマ滅亡の例をひく必要もない。實に日本婦人社會全體のために、その不名譽を道德的に制裁せねばなるまい。男性社會に於ける亂倫時代はその最も甚しい害毒を流布して居るけれども、全般的にみれば日本婦人はよき家庭の女でありその處女は貞操破棄を當然の結果と導く男女自由交際の限度までは社會の方が許さない。そして又心ある婦女の自覺は結婚を前提とせざれば異性と交際することを避けて居る。男女交際の場合その青年子女が歐米人程その方面に訓練もされて居らず、又日本の風習からしても敢てそれを模倣する必要はないと云ふ社會慣習だ。良家の子女が結婚する場合は兩親の後見により一切の準備を完了し最後の結婚するか否かの斷定だけは本人がする位だ。これが現在の日本子女の婚姻問題に代表するその姿は、丁度子女が首を

うなだれて顔に紅葉を散らしつつはにかむ風情とみてよからう。日本全體の子女の文化的傾向は桃割れと七三髪の間を今歩いて居る乙女が多いので、妾の理想とする男性はと叫ぶ斷髮連は少し圖々しい氣分を憶面もなく表はす先走りの部類、全體からみれば猶甚だ蓼々たる少數だ。朝鮮に於ては一體どんな慣例があつたらうか、婚姻制度に弊害が著しかつたと云ふのは何れの點であつたらうか。

朝鮮の婚姻は全く兩家父母の約束によつて成立し婚姻當事者の意志は絶対に認められなかつた。そして一旦夫婦關係が成立すれば、それに背くのは親不孝の最大なるものとして泣き寝入りするのが常であり、實は内地ですら近年までは此困難が深かつたではないか。

朝鮮は印度人と共に早婚の弊著しく十二三歳の夫と二十歳の妻とが夫婦關係を結ぶと云ふ状態甚だしきは我が夫をおんぶして育て、それが子守役は年長の妻であるなど一寸内地では想像ができぬことが先年までの遺習だ。本當の子供同志が夫婦になるのだから兩親等が適宜に妻を定め夫を決めてやることも實際問題として無理はなかつた。大抵の場合女が男より七つ八つ歳が多い。甚しい早婚になれば一方が妊娠中の親相互がお前の生れる子供が異性であつたら俺の所にも生れる子供と夫婦にしようじやないかと出生前に確定してしまふ。それで生れ乍らにして夫婦と云ふわけ、赤ん坊の夫婦契約が

三歳、四歳で妻となり夫と定められた者は深山あつた。そして又一賦定められた夫がたとひ五歳や六歳で死んでも十歳の處女である妻は一生涯未亡人として孤閨に泣かねばならぬ掟があつた。何と慘酷極まる話ではあるまいかと思ふ。そのためにたとひ十一二歳の男と二十歳の女が夫婦の儀式を行つても、妻は既に發達したる女性であり夫は性的に眼醒めて居らぬために、年充ちた妻は十四五歳の夫をして生理的に早熟ならしめ朝鮮男子が長じて心身朦朧に至る所以もこの邊から出發して居るとも申さねばならぬ。それと共に夫が二十歳に達すれば妻はすでに三十の姥櫻、男盛りともなれば婦の容色既に衰へて夫の愛情をつなぐ事が出来ない結果茲に又家庭の平和を害する禍因を醸すわけとなるのだ。夫は公然蓄妾をなすも年寄れる婦は泣寝入り、一旦夫婦關係が成立すれば男女とも婚姻者同志は離婚と云ふことが絶対に認められぬ社會習慣であつたので、破婚の如きは親不孝の最大なるものと取扱はれた。朝鮮や支那で何故蓄妾が公許されて居つたであらうか。それは家長中心主義の家族制度に於ては、男系の子孫を残すことが必要であつた。殊に朝鮮では養子は甚だ輕視されて一人前の男子として又は戸主としての權利さへ少ない状況だつたので、妻に子なければ妾腹に子孫を生むことは夫たる者の一つの任務とすら心得られたので、蓄妾は天下御免になつて居つた。今日の日本内地の上流富豪はもとより少しく小金のある者は好んで蓄妾行爲を營む、總理大臣にして孫の如き妾宅に通ひ、文

教の府にある閣僚が法廷の裁きを受け且つ又待合の亭主であつたり、世に云ふ人格者識者等々が公式
 又は非公式の第二、第三夫人を所有して得々たる偽善とは少しくその意義を異にして居る場合が多い。
 勿論この偽論語讀みと野狐禪者流もあるにはあるが、早婚の弊は反つてその家を素しその社會を毒し
 た。今日に於ては漸次改善されてきたものの十年前迄は東京勉學中の若い朝鮮學生の大半は、皆家郷
 に年老いた妻子を残してきたので、中には若い學生帽の書生さんと朝鮮服を着た女、それが母親にし
 ては若過ぎる姉にしては少し態度が變だと思はれるような二人連れの散歩姿、電車にのりこんで居
 るそれらの姿を時々内地でもみるが、あれは大抵例の早婚夫婦で七つ八つから十も年長の妻と同行し
 て居る理由なので、甚しいのは廿七八歳の男で既に初孫の顔をみたなどはさまで珍らしいことでもな
 かつた。かくて朝鮮の若いおぢいさまは三十以下の小僧であつたのだ。早婚素より民族のために慎し
 むべき事ではあるが、他の一つの朝鮮婚姻の特質は優性學上からみても相當範圍に於ては尊重さるる
 美點を備へて居つた。それは血族結婚の絶對禁止である。若しも内地のように從兄妹同志や兄の死後
 嫂と婚してもすれば禽獸扱ひだ。そして忽ち村民から獸として追放された事實は上流下流を問はず
 甚だ多い。從兄妹の婚姻は内地では中々多く田舎では嫂と次男坊が再婚するなど間々あることだ。
 此等のことは人倫關係からみて決して喜ばしい方法ではない。朝鮮は嚴重にそれが擧大されて同本の

同姓とは何百年又は十數代を経た遠い關係でも決して縁組はしない。同本と云ふは祖先が同じいと云
 ふのだ。例へば朴さん同志が全く福岡縣と青森縣と云ふ離れた朴さんであつても、同じ姓ぢやいけな
 いと云ふ掟であつて、李王家は今の全州即ち完山の李氏であり先年物故した李完用侯爵は牛山の李
 氏で地方的出身は全く異なつて居り乍ら、李姓同志であるから決して縁組は許されないと云ふ理窟に
 なる。同族結婚の排斥は、須く内地人は朝鮮に學んで從兄妹と云ふが如き比較的近い肉身關係者の婚
 姻は人倫的觀念からも、優生學的にみても斷然止めて欲しいと希望する者は敢て私ばかりでもあるま
 い。そうかと申して朝鮮婦人の社會的地位は必ずしも好遇せられて居らなかつた。いづれの國でもそ
 うであつたが朝鮮に於ても純然たる財物の一として女が取扱はれた時代が頗る長年月の間、つい日韓
 併合前迄あつたことは敢て不思議の事でもあるまいが、今試みに朝鮮犯罪の趨勢をみて其處に特殊
 なる略取誘拐罪の多きをみる時、其原因が奈邊にあるかに想致らねばならぬ。それは即ち朝鮮古來の
 陋習である寡婦奪去の弊風が原始的掠奪婚の形式が現代にそのまま行はれて居る事、それが一時は嚴
 重に取締られて減少したにしろ公然の秘密として今猶存しつつあるのである。其他近來婦人の虛榮心
 の急激な發達から、その心理を悪用して誘拐し醜業に就かしむる惡徒又増加したる事も共に過渡期
 朝鮮婦人社會の傾向の一端を示すものではないか。

何故文明の一奇蹟の如き婦女奪去の弊風が朝鮮にのみ現存するか、それはかの早婚の餘弊が及ぼしたる一反映であつて、極端なる儒教主義の信奉から婦人の自由を拘束した結果、法律によつて婦女の再婚を禁止し、貞婦は二夫に見えずと稱し、再婚を一つの罪惡視し、その再婚者の子弟は官吏に一切任用もされぬ程區別をつけて居つた。早婚の弊により十歳以下の未亡人があり、處女にしてただ幼年の頃その父母が婚約したる男が乳兒にして死すとも、生涯その娘は人間自然の本性に反するその獨りを慎しまねばならぬ境遇に置かれた。單なる早婚と云ふに止まらず乳兒の夫婦者と云ふ名義が一生崇つて未亡人となり、或は又夫死して一旦寡婦となつたならばどんなに若後家でも再婚は夢にも考へられない。この多數の處女の未亡人、若干の若後家等は處女にして年長じて再婚不能の鐵鎖から逃れるために種々の方法も考究されて來た。それは情を知り乍ら婦女奪去の形式を世間に對してとりつつ再婚する風が生じた事だ。そして如何にも亂暴者に疎薄女(出戻り女)が誘拐されたと云ふ變な形式を踏むように墮落したのは儒教の弊が生んだその一つ。しかし非文明なる婦女奪去が行はれたのはこれのみではない。舊韓國時代に於ては、兩班階級が横暴を極め地方官憲と連絡を通じては、平和なる常民の家庭を脅かしその婦女に婚姻を強ひたがこれは勤婚と稱された。この勤婚はまだしも官廷又は官憲に對して各地方から多數の美女を献上せしめられ、或は官妓、奴婢、蓄妾等の人身賣買と云ふが少數

の特權階級者が多數の婦女を財物とし又は亂倫のために要求して來たので、全體社會に於ける婦女の需給關係に不均衡を生じて來た。そのために下層階級に於ては婦女をめとる事は容易でない。しかも婦女が市場的價値を生み出し婚姻には相當の金額をば婦女の兩親に提供するの風をも生み、その結婚儀式が冠婚葬祭を尊ぶ儒教の形式により更により多大の出費を要すると云ふので斷然先方には理解も與へずに突如として隣村の婦女を奪ふ風が生れてきたわけである。或は社會制度の上から再婚は許されざるため、兼て若き寡婦は契約濟みの男の家から風呂敷包みで迎ひに來てくれるのを待ちわびてそれが形式的には奪去されて止むを得ないから再婚してしまつたと公稱の口實を發見する智者もあり、結婚費用の過大から最も簡單なる婦女掠奪の方法を選ぶ利口者も出た。或は又家門の相異や家族制度上の行きがかりから到底正妻として招くことの出來ぬ階級をば妻に定めたとき、ここに又重寶なる社會慣習の女の掠奪の形を用ひて疎薄女や妓生を家に入れる事もあつたと云ふ。朝鮮に於ける儒教の形骸のみを過信したる早婚と再婚を罪惡視せる結果と兩班の横暴は以上の如き種々雜多なる亂脈を生じ、儒教の良俗と稱する裏の裏を潜つて社會の秩序を破りつつあつた婦女奪去の惡風は誠に恐ろしい次第ではないか。

婦人の人格を無視し又は無視されることを平然と自覺もせぬ社會に於ては清淨なる家庭は生れな

い。堅固なる國家も秩序ある良俗も求め得可くもない。婦女を財物視した事は我日本に於ても甚し
 かつた。朝鮮に於ては妻を抵當にして金銭の貸借關係を生じ、もし抵當流れとなれば他人に譲渡し
 てしまふ、或は其妻に不倫行爲のあつた時、相手の男からその夫に若干の金を拂ふことによつて完全
 に妻の賣買が行はれた例が多い。ロシアの下層農民中では或る特定の期間だけ妻を他人に貸與しその
 一定期日充ちて後金銭又は穀物の若干を添へて妻を返却に來ると云ふ奇風のあつた幾多の事實は私の
 曾て旅行中に實見した事柄でもある。

支那に於ける賣買婚は今日も常住の茶飯事たる形式があるから、苦力階級の稼ぎ貯めた金は妻を購
 ひ且つ死亡の際の棺桶を用意する目的が存して居る事は誰でも知つて居る話だ。北部朝鮮の貧民では
 財禮として女をめとるときは二三百圓でその兩親と金銭の直接授受が結婚の形式を生んで居る程であ
 る。

こう婦人も品物扱ひにされちや人間の價値も少ないわけだが、これを敢て苦痛とも感ぜずに古來か
 らの習慣として人も許し我れも許して居る多數階級があることは見逃してはならぬ。日本は如何。

朝鮮に於ける往昔の婦女が、高麗の頃元の侵入を受けたとき多數の娘を強制徴發し且つ貢物として
 支那に獻じ、又は朝鮮の法律中に負債償却不能の時、その子女を奴婢として金銭の代用に提供する
 ことを認めたり、或は又牛馬一頭と奴婢五人の物々交換が行はれたことなどは、其等の政策上又は金
 錢上物貨の一として賣買贈與されたる婦女は、生殺與奪の權をその所有男子に握られ、買得奴婢、祖
 傳奴婢、官奴婢等の一つの社會階級を生じて居つた程哀れなる婦女が多數あつたのである。

内地人はこれを以て朝鮮を野蠻視する前に現に内地に於てはその形式こそ差異あれ、奴隸として取
 扱はるる婦人、一つの財物、金銭取引と同様に交換價値を附與されて居る多數の日本婦人が如何なる
 社會に沈淪せしめられ又は如何なる方面にそのしらふを切りつつあるか。内地の貧乏華族と平民成金
 との結婚のように、それが朝鮮に於ける落婚と仰婚とは各々その種類を異にはするが要するに資産あ
 る常民と門地高き貧乏兩班が相結婚して金銭の授受を營むと等しいことは昭和時代白晝公然の出來事
 誰怪しみもせず持參金附と稱するもその婦女と持參する金額の二つとによつて婚姻の對照物となつて
 居る例の如きも、婦女買賣思想の歴然たるものではあるまいか。今日新潟縣某地方に於ては兩親が子
 女出生の折それが、男性であれば乳兒保育の方法を怠り、女性であれば子寶として非常な喜悅の狀を
 示すのを屢々見たが、これは婦女は長じて藝妓の教育を施し高價に賣却出來得るからで、その大切に
 する取扱ひぶりは子供を愛する心からではなく、他日金銭と交換し得る貴重なる生きた財物であるか
 らだ。子供こそ生れて迷惑の話だ。それがしかも私の娘は二人とも何所其所で藝者をつとめて居りま

すと云ふことが本當に近所界限への自慢であり、一つの出世として美服を纏ふて歸宅でもしたときは大變な譽れの評判すら涌くと云ふ淺ましい鬼の如き又獸の如き自覺なき親子すら中々多數現存して居るのだ。男子專制の社會に於ては婦人の社會的地位は、その形式と美醜遠近こそあれ世界の津々浦々には、婦女を奴隸として財物としての對照たる人肉の市場を見出し得ぬことはない。丁度從來の公娼が東京に於ては吉原、品川、新宿等の特殊區域に限定せられてあつたが、資本主義的社會當然の結果として社會環境に著しい變化を及ぼしその刺激とその目的を達成するためには時間と經濟と土地の便否等の要求から、公娼が存在し乍ら猶全部とは申さぬが相當數のカフェーと云ふ私娼的賣笑婦的存在が公々然と全市の良家と軒を並べて淫風滔々たるではないか。心ある婦女はこれを婦人社會全體の不名譽としてしかも現在の資本主義社會の爛熟は一層この奴隸的財物的婦人を増加す可き必然性を有する中に於て如何にして弊害を少くするかに悩みを抱いて居ることでもあらうと思ふ。或る學者は婦人には最後の資本ありと申したが、そして婦人の男子と異なる生理的相異を以て、現在の資本主義社會に對して、男子に比して優越的地位を保持し得る條件に恵まれて居ると説明はしてあつたが、この思想なども婦人を男子の對照として財物とみなしたる言ではあらうが、或一つの時代的見方ではあるまいかとも思ふ。

朝鮮の婦人は斯の如き窮屈なる社會制度に縛られて居つた。財物として奴婢として取扱はれた。殊に早婚の如き、未婚處女の再婚の罪惡視の如きは最も婦人は痛ましくも哀れなる姿であつた。當然新時代と共にこれに對する反動が著しくなつてくるのは當然の結果ではないか。婚姻の傳統と習慣に對しては、近代的教養ある若者が盲目的に服従する理由がない。曾て幼少の頃父母のみが定めた早婚の我が妻我が夫に對して満足し切れぬ者が漸次増加して來た。内地學校又は都會地に於て内地式の新教育を受けた青年男女の群は、人形の家庭から情熱の逆りへと解放を叫ぶのは無理ではなかつた。ここに於て曾て京城に離婚同盟が組織され、少數では到底嚴格なる社會的制裁とその傳統の力にうち勝つ事が出来ぬので、離婚希望の男女會員が多數同志の賛成と協力によつてこの何百年來の因襲の殻を壊して自由の妻たり自由の夫たりを要求したことがあつた。中には若い離婚同盟男女會員が自由戀愛の形式を弄び正しい理解ある新らしき結婚方法を要求したのではなく、單に青年男女の野合的同棲が行はるるの弊害もあつたけれど、これらが一つの社會的衝動となり導火線となつて、鮮の若い者共は盛んに婚約破棄を執行したのである。男女七歳にして席を同じうせず式の儒教的考へ方から急激なる婚姻制度の慣習打破に飛び込んだその勢は、一家庭の中に婚姻を中心とする新舊思想の衝突は必然の招きであつた。或る村の年寄は私に怨言を放つて『全く日本を怨みます。學問をしな

ければならぬと憚が家を放棄して町だ、町では足りぬ内地の學校迄もと學問ばかりに走らせてしまひました。それが内地の學校を出ても職業はなし、親を親とも思はぬ新らしぶり、折角子供まである妻を嫌ひだと吐かしました。日本なんて餘計なものが憚共を瞞して新思想とやらに氣を觸れさせるからですわい。」と、これと全く立場を異にする若者は又告げた。……私に……

「何もあなた長幼序ありと云ふ朝鮮の美風に反對して居るのではありませんが、親だからと申しましたも何も知らぬ子供の時に年寄りの女をあてがつてそれが私の妻だなんてきめる權利はありませんよ。又親の前では眼鏡もはめちやならぬ、煙草も吸ふな、膝もくすすな、そんな必要が何處にありません。それだから儒教の封建思想にのみ凝り固つて居りますから私共も家庭に落ち著くのがうるさくなりすわ。」

併し時代は移つてゆく、最近京城の淑明、貞信、中央保育の三女子高等普通學校生徒が殺人罪未遂の裁判を見學に行つた。それも十五歳の女が自分の夫を殺したと云ふ問題だ、朝鮮特有の嫁の亭主殺し婚姻制度の缺陷が招いた結果だ、これを先生と生徒が夫婦關係の融合に關するデリケートな問題を傍聴にゆくと云ふ程近頃は變つてきたのだ。朝鮮はこの渦巻の中にあの長衣を纏ふた女が解放されて婦人の自由を叫ぶ時、その舊來の弊風著しい婚姻制度の改革に、儒教思想の形式的弊害排除に最も關

心事として居る事は自然の情勢だ。それをしても日本の新式教育が朝鮮家族制度を破るが如く邪推する老人連の方が反つて干愚の極みだ。朝鮮の離婚同盟があつたその頃は大多數は實際的には未婚の婦女が多かつた。ただ形式的の幼少婚約を破棄することを望む者が大多數であつた。内地にも會て離婚同盟と稱する自稱社會運動、女子解放運動に従事すると云ふ女群によつて叫ばれた事があつたが、當時それらの多數の拒婚會員は敢て同盟の團體的力をからずとも當然個々の婦人としては、その骨相と變態的性格は結婚落伍者であつたと思ふ。その頃の内地拒婚同盟諸女史が家庭經濟の總和的運動としての消費經濟合理化問題に、或は婦人特有の立場と環境から家庭の道德的向上を目標として自らを誠しめ且つ男子に對して家庭の淨化を求むるが如き今少しく實際的問題としては、現代が生産中心の經濟であり、収入の増加と分配の公平を争ふ社會であることに力強い自覺をもち、日本社會に日本家庭に相應はしいものと道德的、經濟的實際問題に精進す可きであつた。今の日本の婦人社會運動がどの方向に進みつつあるか、又進まねばならぬかを私は叫ばうとするのではない。丁度朝鮮に於て離婚同盟の生れた頃、東京の一部婦人社會運動者と云ふ遊閑階級が拒婚同盟を結んだが同じく婚姻の事に關聯し乍ら相互に何等の共通的条件、共通的心理をみい出さぬと云ふ一つの例證としてあげたのであつて、日本の一部拒婚同盟者が物笑ひになつたその轍は、若き心ある朝鮮婦女が重ねぬように、そして

それはただ大きなアウトライン許りに馳せ廻つてその内容の空虚なる社會運動の形のみ眞似た内地の婦人運動を學ばずして、朝鮮婦人文化の向上のために、朝鮮婦人が家庭經濟の實際的合理化問題の上に、又朝鮮婦人の美風である貞操尊重觀念を家庭に淨化運動として押しひろめ、しかも朝鮮の男子に對して道徳的家庭擁護運動等に協力を求むる主張等に着眼して欲しいと思ふまでだ。

朝鮮の婦人よ！ 心の長衣をぬけ！ しかし正しく強き東洋の婦人として又美しくあれ！

仁川府を訪ねて

◎ 外交史蹟を孕む開門港

開港の由來——佛、米兩國と争ふ——警擲の大事件——
 濟物浦條約——漢城條約——日清日露役——全鮮貿易額

◎ 支那人街は榮ゆ

全鮮外人の九割は支那人——偉大なる支那人の生活力
 内鮮人ともに支那人にはまけてしまふ——民族的生存力の強靱に學ぶ

仁川府を訪ねて

外交史蹟を孕む開門港

京城から仁川迄二十四哩だから約一時間京仁線の汽車にのれば直ちに着く。ここは海路からの京城の支關であり、恰も東京と横濱の關係のよう。そして寧ろ京城人には潮干狩や海水浴や花見時の遊樂地視されて居る程だ。

仁川の名が顯著なる所以は、貿易港としてでなく全く舊韓國時代から度々外交的事端を滋くするの有名なんだ。仁川と云ふ古來からの地名は現在の仁川府よりはずつと廣い範圍を指したもので、高麗の買召縣、高麗の慶源郡などがあつた所、仁宗の代に仁州となり太宗の朝仁川と改稱され其後都護府が設置せられたのであるとは申すものの、それは今日の仁川ではない。濟物浦と云ふ淋しい漁師村が六十年後の昨今は人口六萬の貿易港と化して今の仁川府と變遷した。その過程悉く問題は國際紛争の焦點たる觀を示して來た。

度日本の慶應二年の頃だ。佛國は水師提督ローゼバが軍艦七隻を率ゐて問責に來り仁川沖の江華島を占領し更にラリフイエー中佐の陸戦隊が此地に上陸したが反つて韓兵のために敗れ島に放火して逃げたことがあつた。これが世界に紹介された仁川の第一回の序幕である。

明治四年には羊角島の一件から米國軍艦が二回來襲したがこれも韓軍の撃退に會つてすすこ逃けたと云ふ醜體を演じてしまつた。當時の韓國は所謂鎖國主義で一人の吉田松蔭、一人の井伊大老がなかつたため遂に佛米二國の軍艦を僥倖にも退けた事を以て傲慢となり依然としてその鎖國熱の夢から醒めず眠りを續けてしまつたのである。それは明治八年の事、その八月我が軍艦雲揚號が測量航海の途次淡水補給のため江華灣に立ち寄つた所、この島の砲臺から俄に砲撃を受けたので、艦長井上良馨は直ちにその第一、第二砲臺に應戦し陸戦隊は永宗城を占領すると共に大砲三十八門を奪ひ韓兵を縮みあがらしてしまつた。時の日本政府は非常に憤慨して參議黒田清隆を特命全權辦理大使に任じ副使として元老院議官井上馨を任じ江華島で韓國側の全權大使申愼副使尹溫承と會見しここに始めて日韓修交條約を締結したのでありこの條約は韓國が獨立王國としての最初に締結した外交條文であつたのである。この事件は韓國にあつては劃時代的の迷夢を破る曉鐘であつて韓國朝廷は修信使禮參議金綺秀を日本に派して砲撃事件を陳謝し我が國は明治八年九月外務太承花房義質が初代公使として京城

に赴任することとなりその結果元山港と共に仁川は開港場となつた。列國もその便利を得、仁川は貿易港として生れ變つたのである。仁川開港後六年壬午の變が起つた。韓廷の内紛は閔妃派と大院君派の争ひとなり、軍隊の不平黨も入り亂るる内亂が醸さるる狀況に陥つた。

かくて明治十五年七月二十三日、暴徒の一隊は宮廷を襲ひその一部は日本公使館に迫つてきた。花房公使及館員は重圍を破つて難を舊仁川に避け府使鄭志鎔の理解ある厚遇に憂を解いたが又々暴徒の追撃に遭ひ日本刀や竹槍の應戰武器を携へたまま今の仁川に走り更に月尾島に逃れた。

追手の物凄い群衆のざはめきは續いて花房一行廿五名は韓船に乗じ南陽灣に漕ぎ出て七月廿六日英國測量船フラインダライス號に救助を受け我が長崎港に送つて貰つたのである。

この事件が發端となつて外務卿井上馨が下關迄出張して指揮を命じ八月十二日花房公使は仁禮海軍少將 高島陸軍少將の陸海司令官以下海陸千餘名の將士と金剛以下四隻の軍艦に護られて仁川港に上陸した。そして遂に八月二十八日韓廷は李容元、金宏集等全權として金剛艦上に花房公使と見え翌二十九日は京城に於て更に折衝を重ね所謂五ヶ條の濟物浦條約と三ヶ條の條文條規を締結し其翌年たる明治十六年一月遂に開港場となつたのである。

十五年の變に我艦隊が仁川埠頭を壓すれば韓廷事大黨の策謀により日本の外交を牽制せんとして清

國の丁汝昌を提督とする威遠、揚武、超勇の三艦が我兵力の三倍を乗せて威武を示すなど一時は意外な緊張裡にあつたと云ふ。

明治十七年十二月七日、改進黨の金玉均一派が事大黨の大官を暗殺せんとして失敗した時、清國兵と韓兵が日本公使館に放火したが、公使竹添進一郎以下六十餘名が血路を求めて又仁川に難をさけた事もあつたがその時は井上馨が來て韓廷と漢城條約を結んだのである。

あの明治二十七年五月韓廷が東學黨の内亂に驚いて清國に應援を頼みしため、清の大兵は南下して韓國の獨立は危機に頻し、日本の受ける脅威は國家の存亡に關する重大事件となり、遂に仁川港外豊島沖の海戦に日清間の火蓋は切られた。折しも歸朝中の大島圭介公使は軍艦八重山に乗つて六月九日四百の陸戦隊に護られて京城にのりこみ大島少將の混成旅團、立見少將の第十師團、桂中將、山縣大將等の率ゆる王師堂々運送船の二十八隻も仁川に上陸地點を定め當時の仁川日本居留民が老若男女悉く涙ぐましくも從軍と後方勤務を志願したと云ふエピソードも生んだのではないか。

日露戦争にはその始めワリヤーク(二等巡洋艦)六千五百噸)コレーツ(裝甲砲艦)千三百噸)の二露艦が仁川港に示威的碇泊した時、我が國の千代田(二等巡洋艦)をしきりと威嚇したがあの二月五日の日露國交斷絶す可きの秘報は千代田をして夜蔭港外にその姿を没せしめ、流言匿語喧ましき折柄、當時の日本居留民等は韓廷に於

ける親露派の優勢による自己生命の危険と、又祖國の前途を憂ひつつ不安の極度と神佛の祈願を念じて居つたのだらう。

六月八日千代田を先頭に、高千穂、淺間、浪速、新高、明石の六隻に水雷艇隊と運送船の偉大なる姿を仁川沖に見出し出した居留民は相抱いて泣いたと云ふが、その夜陸兵一箇旅團上陸の時は仁川海岸には炬火を焚いて祖國の將士を迎へたのだ。仁川の松明は今も居留民が毎年この日の思ひ出に海邊に燃さるるそうだが……。我が爪生司令官は六月九日仁川碇船中の列國軍艦に錨地變更を依頼し遂に仁川沖に於て露國の二艦は撃沈され日本艦隊は一兵を損せずして最初の海戦に機先を制して凱歌を奏し更に旅順より露國東洋艦隊來襲の情報に備へたのであつた。こんな風變りの事件の突發から段々仁川は發達してきたので、明治八年の日本によつて開港を促された頃は僅かに三十八戸の漁村であつたが今はその人口五萬七千四百四十九人、(内地人一萬一千二百六人、朝鮮人四萬四)の盛況である。(統計年報)仁川の町は三方が海に面し一方の背面が山、それが直ちに急勾配で海岸まで迫ると云ふ形。

丘陵の斜面には點々とした外人の別荘や洋館の住宅、教會堂の尖塔も見えて殊に夜など港外からの眺めは甚だ美しくしい。香港沖の夜、青島沖からの晝これは共に香港、青島市街の形勝的觀察に於て珍らしくも美はしい眺めであるが、この仁川沖小月尾島あたりからの眺望又捨て難くよろしいと思ふ。

ふ。京城からの別天地行樂の港でもあり、總督や京城外人、紳士の別荘等が多く避暑地として利用されて居る所だ。

仁川公園は東公園又は日本公園とも稱せられ仁川神社がその境内に奉祀せられ大神宮、金刀比羅神社、天満宮もあつたようだ。園内をとり圍む全部の石垣一本一本に醜い無體裁の墨黒々の大文字が刻まれて風致と神聖をけがすこと夥しいと直感した。寄進者の名前もこう俗悪化して丁度内地に於ける千葉縣成田山新勝寺靈場の鳥居や石碑のように金額と氏名を柱に溢れる大文字の淺間しい自己宣傳、神佛の怒りも受けずに廣告の亡者共を思ひ出して仁川公園にはこの寄進者の麗々しき廣告汚名を塗りつぶして欲しかつた。ひとりこだけぢやあるまいが……。私は先づ神社に參拜してから靜かに汐風にうたれ乍ら眼下に浮ぶ月尾島や遠く外港の砦石をばらまいたような島々に見え又隠れする白帆を眺めた。月尾島はその圍りが僅に三十餘町だが今は埋立道路が市街から通じて仁川驛から一直線にバスが往復して居る便宜さがある。春には潮に映する櫻が咲いて賑々しく夏ともなれば松林の間に貸別荘、臨海學校、お茶屋まで出現し、潮湯の大プールとハイカラなその建物、遊園地化して大運動場も出來たらしい。その月尾島がはつきり見える。仁川の名稱はこの他もと各國居留民の經營であつた西公園もあるが大した所でなく何と申してもあの閘門式船渠にあらう。水位干満の差が三十三尺とて

東洋一だと云ふからそれだけ繫船荷役上極めて不便なので七百五十餘萬圓を費して従来の港灣附屬設備の他に閘門式船渠を築造し明治四十四年に起工し大正二年に竣功した。閘門の全長五百四十四尺、閘渠長四百二十六尺五寸、幅六十尺、側壁四十八尺、閘門扉は鐵製雙扉で二箇所あり船渠内の水面積三萬坪、水深三十尺、四千五百噸級の汽船が同時に三隻繫留される設備、更に繫船棧橋の架設埋立地の擴張工事などが行はれて居つたが長い突堤が二本角のように突き出て居つたものも目につつた。つまりこの港は滿潮の時門を開いて汽船を出入させ、干潮の時は門を閉めて船渠内に海水を保つ仕組み、土地の人はこの種の港灣では大いに東洋一だと誇つて居るらしい。

仁川は釜山や元山と共に古い貿易港でその貿易額は、釜山を第一として仁川は朝鮮第二の貿易港、實に海に於ける朝鮮の二大關門の一つ、釜山港は内地朝鮮間貿易の重點、仁川は支那其他歐米諸外國貿易の中心點である。

昭和三年末の全朝鮮移出總額が七億七千九百七十八萬八千圓であるが、その中釜山港が二億四千三百九十九萬四千圓仁川港が一億四千七十七萬六千圓殊に支那貿易ではこの港が全鮮第一位たるや申すまでもないのである。

だから仁川市街も海岸線に沿ふて貿易商が多く、本町通り、宮町附近はメインストリート、停車場

近くには純支那風の色彩ある南京町の一廓がある。

△『ねい君、支那人は偉いもんですね、何處へ行つてもお國の風俗習慣其儘で押し通すんでせう。そして外國に住んでもそのまま不自由も感ぜずにさ。ロンドンやニウヨークの真中でも蓮歩弱々たる支那婦人が危ない足どりで横行しますし、それに商人の内儀さんは例の無格構なズボンで平氣でピカデリー街を歩いてるぢやありませんか、そして支那料理は全世界を風靡して居るし、漢民族の生活力旺盛な事と經濟的發展の勢は世界で最も末恐ろしく發達しますね、支那の青年が漢民族の文化はやがて世界の平和的勞働市場に於て又經濟的戰略によつて全人類社會を征服するぞと自慢して居りますよ。』

D 『この仁川の支那人も中々働き者ばかりでしてみんな安心して働きたら金をうんと貯へて居ります。朝鮮人も内地人も全くかないませんや。』

支那人街は榮ゆ

D 『京城の支那町を御覽になりましたか。偉いもんですなあ。支那人の生活様式そのまま無遠慮に外國の京城府に押し廣げて、それが又新朝鮮の社會生活の中に入つても敢て矛盾を生じないのです

かなあ。たしか南大門の左側の方でございませぬね。

△「昭和三年末の全鮮に於ける外國人の數は五萬三千三百二十二人で此の中支那人が九割以上占めて居るとは豪氣なものさね。私も正月頃京城に泊つたことがあつたが、宿の近くが支那人街だつたもんで、あの爆竹を鳴らされるので夜眠れなくつて困つたことがありました。

しかしね支那の年中行事を公然と何處の果でも持參する押し強いの勇氣は、日本人に比べて頼もしいですな、まるで彼等の爆竹のすさまじい音が夜の京城市民の度膽を抜くとき、ひそかに彼等が支那の文化を誇つて居るかのようにも考へられてうらやましかつたですよ。やつぱり漢民族の文化的優越權かね、そらあすこの永和盛の隣りに支那料理屋が見えるぢやありませんか。」

D 「先生あそこで一つ老酒でも召しあがられますか……。」

私は今仁川の支那町の旺盛ぶりを見、京城の支那人街の榮ゆる生活ぶりを偲び且つ鎮南浦、新義州等々全鮮には約五萬の支那人が人數こそ小なけれ偉大なる經濟的發展の地盤を強固に、しかも着實に成功を収めてゆく事に對して深き考慮を拂はねばならぬ。それは即ち朝鮮人と内地人の生活力民族的生存力との比較にさる可き性質のものであつて、内地に於ては近頃支那人の屑屋まで生まれてきた。

今滿州奉天にその例をとつてみれば、我が滿鐵會社の鐵道附屬地内は日本の行政權が完全に施行されて居るから、近代文化的都市の美觀は素よりのこと鐵道守備隊駐劄師團等の日本軍人、關東廳の警察官等が居るから全滿の附屬地は支那人にとつては安全地帯、事件あるごとに争ふて難をこの他國官憲の保護充分なる區域に馳せてくるのだ。

私は奉天附屬地浪速通りを散歩してみた。その店舗は日支露三國人の混合であつて支那人が一番多い。一寸横町を回れば大抵支那商店だ。日本人の店は不親切で物價が高い。そして横柄である。支那商人はとても安價同一物品に二割以上の差がある。日本製のエビスビール一本買つても支那人は原價で販賣する。何處に利益を得るかと申せばビールの空箱一箇だけの利益なのだ。凡てがこの調子で全く日本人は競争が出来ない。大連でも奉天でも目貫きの場所の日本商店の權利は皆支那人の掌中にあつて日本商は漸次自滅の形だ。奉天にあつてはロシア人と稱するユダヤ人は支那人に負けぬ畜財の妙

味を心得ては居るが。しかし支那人はやつぱりユダヤにも勝つてしもう。文化の程度高い日本人の生活様式の一切をもつて、生活費に於ては五分の一、しかも勤勉努力の支那人とどう競争が出来るか。日本人の海外發展なんて大きな事を吐かすなら先づ支那人と共に黃梁の

粥をすすらねばならぬ。そして鮪のさし味を満蒙の奥で食べようと云ふ料見を除去せねばならぬ。少くとも支那人を顎で使ふことを誠しめ自ら支那の現地に於ては支那人になりきつて同等以上の努力を傾注しなければ始めからんで生存競争に於て問題になり得ない。

そうかと言つて日本人は散髪も月には一度、風呂は一週に二度は入り度、満洲くんだり迄働いて来て苦力と同格の生活や馬鹿々々しい。そうまでして金をためなくとも宜しいわいと云ふ日本人が多いのである。

その聲は即ち完全に支那人と生活第一線に角逐して劣敗者の地位に陥つたわけだ。

少数の日本商人は奉天では約三萬人の邦人が共食ひをしなければ支那人には勝てない。しかし支那人は日本人を顧客として着々生きてゆく。日本人とても満鐵や關東廳の職員は各々消費組合をもつて居るから三萬人の半數の邦人を顧客としてはどう逆立しても客種が知れたものだ。しかもいくら日本人同志だつて高い品物を無理に日本商人から買ふ必要もない。

雑貨屋の如き、豆腐屋、疊屋、甚だしくは足駄の齒入れ屋と云ふ日本人の生活にのみ必要であり日本人のみしかその事に従事して居らなかつた職業まで、皆働きの支那人に少し手際は拙いが安い工賃と努力をもつ支那人のために奪はれてしまつた。日支の政治的關係にもよるが何故奉天の日本商人

は三十萬人の支那人を相手に客をひきつける程の勉強ぶりができぬ。この點が所謂日本人に底力のない證據なんだ。滿鐵附屬地にある支那人の店は最初こそ陳列の商品は少ないが、それが三年たち五年過ぎれば立派な見違へる程商品の數が増して店頭を埋めてしまう。さりとて支那人の經濟生活は漸次向上はしてゆく。そしてハイカラになつてゴム靴を穿き始めて來たが最初は日本商店は大變の景氣で大ほくほくちやつたが何ぞ知らんこの商賣利益ありとみれば、忽ち研究して彼等の同僚及同業者は聯合してその代表出張員を大阪、神戸の製造元に派遣して直輸入をやる。それも現金で支拂ふから問屋も格安に競争の値引、日本人の店で長くひつぱられるより何程まだか知れない。今日では綿布でも雜貨でも仕入品は一切日本人の仲買人を頼まず直接日本内地の卸商との取引を開始し、しかも自己の利益を根底として出發したるすべての團體の團結力は非常に強く、もし同業者中に不正商人があればその者が一生食つてゆけぬような社會的・道徳的制裁がある。粗製濫造をなしとして商業道徳には頗る缺けた日本人、及び氣位ばかり高く、支那人と同様な生活形式の一端すらも行ふことの出來ぬ高踏生活や滿蒙の特殊地域とやらも結局は國家の保護は日本人の發展のためにあらず支那人の番犬に終るやもはかり難い現況なのだ。強い自己生存力と云ふ支那民族性の最大特質は、いくら天災があつても支那の政府は構はない。いくら人民が餓饑に迫つても救濟はしない。過般もアメリカの赤十字社が支那

饑民救済金の多額を米本國から募つて政府に贈つたが、それが何處に使はれたか、どれだけ人民の手に分配されたのか表面の數字では甚だしい疑點も生じ、貧乏を賣り物の支那人でも非常なブルジョアが澤山居るが、外國人が救済運動をやつても、路傍に饑民の群が斃れて居つても我獨り平氣で済まして居る社會だから今後は支那を救ふ必要はない。支那人は支那の多數の富豪が先づ救ふことに努力せねばならぬと云ふ聲明書すら發して居つた。このことは米國赤十字社と云ふ權威ある團體の聲明書、報告書であつたから相當に反響が涌いた。とにかくそれ程自己の生存のみは、徹底しなければならぬ何千年間の天災、人災に悩んで強い洗練された生存力の覇者許りが今支那人として残つて居るのだ。頼りない政府は當にならぬ。自分等は自分の力によつて生きて行かねばならぬ。そこに支那民族としては極端なる自己防衛のあらゆる策を講ずる、商人が金をためる、そして身の危険を防がねばならぬ。虐政と大自然の壓迫に對抗して幾千年ここに世界無二の偉大なる生活力を有する生存技術に卓越せる漢民族的特質を生じたのであつた。今や世界の到る所支那人のあらざるなく、排斥を受けつつ自然に洋の東西を問はずはみ出して發展して居る。南洋方面の如きは華僑が全く其經濟的實力を握りしめた。労働市場に於てはあの無限の苦力群は大舉して世界の労働者を實力に於て壓倒しつゝある。生存のための努力、その力強き民族性、國家の庇護を離れたる社會的自治體として完全なる相互扶助の理想、しかもこれが個人の利益保持といふ出發點からいとも堅く團結されて居る。會つて一支那人が私に告げて言ふには、

「お前の國民は我々から見れば法治國民の悲哀と云ふ感じがする。日本領事館の國旗が見えなければ海外發展はできぬぢやないか。法治國家だ、近代文明國家だと誇つて居るが、法律の保護と國家を背景とする偉力によらなければ何事も出来ない」と云ふ日本人は反つて氣の毒だよ。」

と、私はこの法治國民は哀れだぜと云ふ支那人の言をよく噛み砕いてみた。そして確に一つの眞理をふくむ。それは日本人が國家の光榮と愛撫にのみ馴れて箱庭育ちの坊つちやんになつてしまつたのかとも考へてみたのだ。

私は今仁川の支那町に老酒の盃を傾け乍ら内地人D君と支那人の生活力の強烈さを感じ嘆息したのである。そして日本人は生存競争には支那人と共同戦線にたつてゆかねばならぬことを思ふとき、日本人の民族性とその頽廢したる精神生活殊に日本人としては身分不相應に向上せしめたそのアメリカナイズの文化生活、アメリカ人はその廣大なる領域、無限の資源種々に恵まれた環境にあつてこそアメリカ式ジャズ氣分に酔はれるのであるが、この貧しい日本が一つもアメリカとは條件の伴はざるに不拘らずその遊戯的頽廢的氣分のみ旺盛なる今日の内地人の生活、こんな調子で果して何時まで我

民族が隣邦の支那人と云ふ偉大な生存的競争者を控へて食つてゆけるのか、うんとその収入上不相應にひろけられた國民の生活程度を切り下げぬ限り、又非常なる決斷力を以てアメリカナイズの亡國的情趣に對抗す可き力を涌かしめざる限りロシアナイズと共に我日本はその兩尖端の觸れ合ふ場所として犠牲に供されてしまふぢやないかと思つた。朝鮮人は到底支那人の敵ぢやない。多くの内地人は朝鮮人を滿蒙に押し出して其後に内地人を移住させると云ふ馬鹿な話をして居るが、それも實際問題としては價値なき机上の空理、内地人自身が朝鮮農民と同じ生活をする事ができるか、又朝鮮人がよし外交上の難點が支那との間に解決されても、到底滿蒙又は廣き東亞の生活舞臺では凡ての點からみて民族的能力に於て支那人の相手にはならぬ。その生きてゆく力を積極的に貫徹してゆく者と、消極的にただ饑をしのぐ者との差だ。民族の感傷性と云ふのか、個々の支那人、朝鮮人を對比しても支那人は遙かに全般的にみて生存競争の覇者だ。先程は例を奉天の内地人にとつてみたが御覽の通り充分に國家の背景を有する日本人と支那人との一奉天市に於ける商人の生きてゆく方法だけみてもんで相手にはならぬ。朝鮮半島は滿蒙と境を接して日夕支那人との交渉が内地よりは多い。支那人はほとんど朝鮮にも發展してくる。内地人は一丸となつて東洋の市場に生存競争を營むとき果して支那民族の生存力に對抗できるのか、私はこゝろ深慮し乍ら仁川に於ける印象は外交事端激き故に發展した開

門貿易港と云ふ意義と、この地が朝鮮に於ける對支貿易の第一位港灣たる且つこの支那町が斷然榮えゆく姿を眺め、全鮮にその思ひを擴大して支那街の榮ゆる所以を聯想したのであつた。朝鮮人と内地人は隣邦人五億八千萬の支那大衆、その民族的生存力に對して將來生きてゆける道は何れの點にあるのかと云ふことを、再び私は内鮮全體の同胞諸君と共に煩悶しなければなるまいと思つた。

童 心 爛 漫 的 人 類 愛 へ

◎ 内 鮮 童 心 に 民 族 の け じ め な し

京城の涙ぐましき幼稚園を見る——天真爛漫は人の本性だ——内鮮は小供心の純真に伸びよ————單原色まばゆき朝鮮小供服——

◎ 露 國 共 産 主 義 者 の 矛 盾

ハルビンムクデンスカヤ街の或る地下室に共産黨員と論戦す——ロシアもアメリカも生産資源と領域上のブルヂョアジード——内鮮人だけが人口食糧に苦しむ理由なし——萬國無産階級の團結は不能也——ロシア人民族的利己主義——宇宙を斯くの如く達観せよ——

◎ 世 界 の 小 供 を 抱 く

上海ゼスフェルドガーデンに小供と親しみて——世界の童心は一切の差別観なし——チヨコレートの人類愛——共存共榮は相互の差別観除去から——

童心爛漫の人類愛へ

内鮮童心に民族のけじめなし

小供は全く天真爛漫で邪念がない。恰も天使のようだ。私は海外へ旅すること、其土地の人情及風俗の機微に接するためには、割合に簡単に其機會も興へられ氣輕の間にその目的を達し得る方法の一として、必ずその地方の小供の集ひを見ることにつとめる。小學校や幼稚園の運動場に、又は路傍の悪太郎共や公園の遊戯場等も見逃し度く無いと思ふのである。

民族性の特質は、何のこだはりのない可憐の天使達、あどけない小供等によつてのみ、如實赤裸々に發揮されるので、稍長じては忽ち色氣を出したり、反感を涌かし、或は心にもないお世辭をふりまく、はては民族的の誇張や差別感が高まつてくると本當の心もちが濁つて暗くなるのだ。

私は朝鮮を訪れる時、又どうしても小供の集り場所を問はずには居られない。京城の或幼稚園は内鮮人混合でその園児も二百名近くあつたらうか。保母さんが四人、園長さんは内地人の初老婦人、今日の視察は總督府學務局Hさんの案内。

「先生どうぞ小供にお話をお聴ひします。」

△「そらあ困りますなあ、こんな小さいお子さん方の前ぢや私どもの話は駄目です。」

「いやぜひとも、こちらへ御見え下さると云ふので、私どもの方でもちやんと豫定して置きましたしみなさんのお願ひなんでしょうからどうぞ……」

私は實に弱つた。しかし遂に止むなく朝鮮人のお嬢ちやん内地人の坊つちやん方の情操的方面を察して適當にロシアのお伽話の一席だけはすましたものの、この道ちやん経験豊富の保母さんが兎のように一言半句もと聞き耳をそばだてられる事よりも、おとなしく並んで居るお子さん方の可愛い姿に年甲斐もなくはづかし味を覺えたのであつた。やがて休憩時刻となつたので私も屋外運動場に出てみた。そうすると僅に先程一度お話しを聞いたばかりの突然のお客さんであつた私をみつめた小供等は、大勢足にすがり附いてくる。そして「先生ッ先生ッ」と、何度も何度も私は押し倒されそうになつて若しや小供の足を踏みはしまいかと危なくよるめいた。私は朝鮮の坊ちやんや、嬢ちやんを交替交替に高く抱き上げてやつた。そして内鮮人の腕白者共に引きづられて「おすべりの仲間に入つたり、砂いぢりのお相手を仰せつかつたり群る小供は調子に乗つて攻めたので鬚武者大男の私も忽ち逃げ場を失ふて閉口する程。けれども私は非常に嬉しかつた。そして又大層悲しかつた。小供の時はこう

して毎日内鮮人がその差別を知らない、内地人の私如き突如の來訪者でも、一時間彼等と遊んでやればすぐに十年の知己だ。この通り仲善しの友達だ。けれども——けれども漸く物心がついてくると内鮮人相互のひがみと反目がどうして湧いてくるのだらう、何故この天使のような氣持ちを内鮮人御同様にすくすくと、杉の小立のごとく眞直に伸ばして内鮮融和の理想を歩むことができぬのかしら。ただ偶然にもその兩親が内地人であり朝鮮人であつたと云ふ區別だけが、又朝鮮に生れ内地に育つたと云ふ環境の相異だけが、こゝも窮窟な世の中の運命に弄ばれなければならぬのか。

私はこの童心爛熳の姿に惚れこんで。この小供の心もちに醜い大人同志は學ばなければならぬと思つた。邪念の湧く所、教へらるる所、育つ所みな小供の頃は人類相愛の純情さがあり乍ら自然にその心の鏡をお互ひに曇らしてしまうのだ。内鮮兩民族もとより歴史的に文化的に五千年の深い因縁ある戀人同志、愛人同志、人種的には同一祖先の分派であり、平和なりし東海の島國と半島は自由なる民族の轉住交錯した間柄、その子孫が今日お互ひの内鮮人なんだ。もつともつと他人行儀があつてはならぬ骨肉でもあり又夫婦であり我が愛する戀人ではないか。同じく陛下の赤子であり日本國民であるのだけれども、世の中はこゝろ單純にさばけてしまへば、今時わかりきつた内鮮融和の言葉など用ひる必要が涌かないのであつたがね。ままにならぬは浮世である。私は考へた。このように凡ての内鮮

人が小供の時から兄弟と同じく遊び戯れて居つたら、お互ひの氣心だけはよく察しが出来ようがと。これは獨り、幼稚園のみとは限らない。あらゆる内鮮人間の問題は、斯の如く差別心なくあつざりと無邪氣に暮らしてゆけぬものかしら。高遠な理想はもとよりだけれども、現實の一步、一步を力強く踏みしめて居るこの内鮮人子供の集りの如き美はしい光景。私は淺間しい人間の一人として自らも教へらるる所が多かつた。

私は更に望みをかけた。今日私と遊んだあの小供等だけは、せめて私が抱き上げた數十人の内鮮の天使達だけでも、いつまでも——そして青年から壯年となり半島の重要人物となつてもいつまでもこの幼稚園で内鮮人の區別も知らずに遊んだその純眞さが、世間の意地悪い荒風に吹きまくられずに、又誰人にもゆがめられずに生長して欲しいと願つたのだ。私はこの二百の内鮮童子が健かに育つことを敬虔の念から神に祈る。そしてその清らかな小供心に一入尊敬の心を捧げたのであつた。童心爛熳は小供には限らぬ。ひがみとけがれなき小供の純眞の氣心はすべての内鮮人相互の間に雅量と修養によつて自然に湧き出て欲しいと願ふのだ。

△「朝鮮のお子さんが遊んで居りますと、まるで玩具園をひつくり返したようですね。」
 H「朝鮮服は大抵單原色を使つて居りますから、そしてああ云ふように、上衣と袴とは色彩が違つて

居ります。赤、青、黄、白、黒などです。』

△『女の子の服装は全く可愛らしいのですなあ。』

『朝鮮服は、上衣と下衣になつて居りますから、上下とも白とか黒とかは附けません。殊に小供は大抵上下とも異なつた色物に限られて居るようです。この幼稚園は京城府内で一番上流家庭の小供が多いのですから、衣服の程度は小供服として代表的であります。』

『先生、どうかこれは朝鮮のお菓子ですから召しあがつて下さい。』

朝鮮人の保姆さんに薦められたその菓葉は、朝鮮園児の家庭に何かお目出度い事があつて、先生に届けてくれたものなさうな。中々色は柚子餅のようであるが風味はよかつた。この幼稚園は全般から見ても設備がよろしく又玩具や手工の材料、その指導ぶりなども面白い點があつたと云ふ平凡な感じ以外に、朝鮮人の保姆さんが仲よくしかも内鮮童児、童女を仲よく遊ばせてくれる趣旨は、情操方面から、内鮮相互の家庭に於ける子供の育て方が児童心理に及ぼして居る影響まで善く留意されて居つた事には感謝せねばならなかつた。

この幼稚園は朝鮮王族の御子様も見えられた程でこれらの可愛らしい内鮮人幼年幼女群が、片言混りの國語を以て、

「先生、さよなら、御機嫌よう」とお辭儀をし乍らお附の女中におんぶされてゆく姿。しかも私にお辭儀をしてゆく朝鮮の坊つちやんと嬢ちゃん、私はその入口の門に佇立して振り返り挨拶する小供等の後姿を眺め、暫しは見送りつつ小供心に學ぶ可き内鮮融和の心理、どうすれば大人同志の心の中に我等の内鮮融合の極地が行はれてゆくのか、思はず眼に熱い涙が滲んで來たのだ。

露國共產主義者の矛盾

童心には民族意識はないのだからか。排他的思想が湧かないのであらうか。私は大陸の旅すがら時折、内鮮のマルクスボーイ達が喝望するボリシウイキの人々とも會見する機會が屢々あつた。これは滿洲での出來事である。帝政ロシアの極東侵略は、赤色帝國主義國家と代つても、そこにより以上の悪辣さを加へこそすれ内亂に悩む若き支那には一片の同情すら示してない。北滿の政治經濟的中心地たるハルビン市は共産ロシアにとつてはチタの出張所極東赤化の本城、シベリアと外蒙とをヒンターランドとする重要地點、支那の恐れる共匪の指導者はここを根城又は足場としてロシア本國と上海と更に某地とを連絡して居るのは誰もわかりきつた話。某年某月の夜、ハルビン、ムクデンスカヤ街の或るレストランの地下室に私は辻馬車を走らせた。豫て會見の約束をして置いた相手は勞農口

シア共産黨のバリバリ連中、序ぢやつたので共産黨極東宣傳部、職業同盟等の幹部も加へて都合五名が待つて居た。サモワールを圍み熱い紅茶に喉をしめし乍らほつほつ議論が始まる。話題は各方面に座談式に進められた。

△『日本は今人口及び食糧問題に困つて居ります。何とか日本多數の無産階級の人口捌け口が欲しいと思ふのですが、どうです人類相愛の幸福を求むると云ふ趣旨から、お國のシベリアを開放せられれば、人口が實に稀薄過ぎるぢやありませんか。』

R『いやロシアも今内政問題に忙殺されて居りますので、外國人の移民を迎へる餘裕はありません。』

△『あぶれて居りまする日本の智識階級、經濟的に見るならば洋服細民ですがね、それに又失業工場労働者や農業小作人等も生計に困つて居るものが澤山あります。何とかシベリアの原野に入れて貰へますまいか。ただ多數の日本人が生存しなければならぬと云ふ理由からだけです。』

R『日本の労働者ばかりでなく私共は世界の無産階級に同情します。けれども今直ちに日本の労働者を迎へましたならば、日本はきつと在郷軍人を澤山其中に混へて來るでせう。そしてシベリアに叛亂でも起させるでせうが。』

△『いやそう云ふ御心配は御無用です。けれども日本人の海外移住は、先天的にその民族性から頗る困難な人種でしてね、よくよく困つても先祖からの田畑を棄てて都會に集ると云ふ氣心さへ容易に起さぬ人間ですよ。しかし今日となりましては全く食つてゆくことがむづかしいことですからね、それでシベリアへでも本當に貴方々が入れて呉れば喜んで参ります。そして一生落著くつもりで村落的に移住してきます。そして全家族の移民ですね、そうでないと日本人てい奴は氣が小さい貧乏でせまくとも自分の國土が傳統的に一番よいと思つて居りますから單獨ですと中々淋しがります。まあ二三百名宛集團的に部落でもつくらして下さいませんか。丁度今南部ウスリー方面に朝鮮部落が點在して居りますように、そして移住日本人は全くロシアに歸化してしまふのですから、貴國の主權に服従するのは當然ですわ、それで日本人の壯年男子は皆不具者でない限り在郷軍人の一人ですが、一旦歸化してしまへば貴國の人民でせう。どんな風に取締らうが毫も御遠慮はありますまい。武装した軍人がやつてくるわけぢやなしみんな老百姓ですよ。』

R『資本主義的に又は帝國主義的に骨がらみ訓練されて居る日本の労働者と農民、そんな不安極まる人達か多數歸化されたら困ります。』

△『しからは若干の日本系の移民、それは勿論武器をもたない、しかもロシアに歸化する平和な農

民が入つてきた位で、直ちにシベリアの治安は維持が困難であり、貴國はそれ程内政的には不安なる状態なのですか。』

R 『いやそう云ふ意味ではありません。今ヨーロッパ方面は、革命前の産業状態に復歸せると云ふ目標が大部分完成しました。そしてレニンの電化政策も着々實行されてゆきます。従つて産業の國家管理は、漸次工場労働者や従業員の過剰を招いて居ります。産業の統制化、合理化ですね。この先又ドシドシそれらの歐露方面の過剰人口を處置し又職業の轉換をはかつてやらねばなりません。シベリア方面は、その移民、國內移住の好適地です。それで今さしずめ日本種の人々から開拓して貰はなくとも將來のつくりロシア労働群によつて開墾しますから……』

私は腹の虫がおさまらなくなつた。地聲を張りあげて五人の相手に問ひ質さなければならぬ。それはこの會合が單なる個人的のお茶のみ會のざつくらんの話にしても。

△『それでは人口密度からも、生産資源からも日本は全く行き詰つて居ります。今日のロシアの現状から人口比率を推定致しましたも、せまい日本と同じ環境迄さし迫つてくるのは何百年後になりましか、まだまだ前途遼遠なることは餘りにも明白です。ロシアの無産階級だけが廣大無邊の大陸に自由労働土地をもつて日本や支那の無産階級軍がいくらロシアへ歸化を多數願つても真ッ形だと云ふ

ことは、そして又まあ日本人の貧乏者は、何時迄も日本の土地で苦しめと云ふ理論的の根據は何所から涌くのですか』

卓を圍む五人のロシア人は私を注目して居る。給仕に來た花朧しいロシア娘は、その見暮からどうなるのかと思つたのだらう、恐れを抱いて室外に逃げて行つた。

△『萬國の労働者團結せよといふのは君等の口癖ではないか。自國の無産階級だけの擁護であつて他の民族が歸化してロシア人になりロシアのもつ優越な資源の一部分でその飢をしのぐと云ふことすら障壁を設けて拒否すると云ふのですか。あなたの言を以てするならば日本多數の無産者が搾取されて惨めだと申されますが、一つ日本にも澤山のロシア崇拜者が居りますからどうで日本ぢや土地もせまくて食へぬのですから引きとつてくれる雅量はありませんか。マルクスボーイなどどしどし輸出してあげますから、そしてあなたの同情する日本のメンシビキ、ボルシビキの連中を現在困つて居る状況を多數救ふつもりで、自由の歸化を廣範圍に許してくれたらどうです。支那の何百萬と云ふ饑民もね、朝鮮の火田民などもね、しかしあなたは自分の一飯を割いて萬國の無産者が明日食へぬ今年は生きてゆけぬかと云ふ貧乏者を赤色親分として抱いてやり、あなた流の教育でも施してやる人情味はありませんか。まるで空家のシベリアをそれらの世界の無産者どもに耕作させる心はないので

すか。やはり歐露の過剰人口の將來のために何十年も何百年も早く共産籍に入つたロシア人だけが暢氣にその特權をもち越すつもりですか。

「萬國の無産者のために自由博愛の天地としてシベリアが開放できぬならせめて極東各民族を何百萬人宛制限して歸化人として飲んでしまひませんか。若しも自國の領土狭く産物もないから他國に對して少しわけて呉れと云ふことが帝國主義であるならば、自分だけ優越な地位をもつ豊富な天産、廣大な領域を占有して居る、それを平等に使用させぬと云ふ我利我利も又帝國主義的思想ぢやありませんか。ロシアもアメリカも國家の形式こそ違ふがその意味からすれば領土的のブルジョアジ、生産資源無限豊庫の獨占的特權者達は人類全體の平等を生存權迫害の侵略主義者ぢやごはせんか。ロシアの現在は無産者と云ふものだけが暢氣な廣い土地に永住ができ、日本の無産者はあなた方の云ふ過渡期が何百年何千年つづくか、又永遠にあなた方の想像せらるる世界國家——超國家が來ないかも知れないがその間だけは何時迄も隣り近所の無産者は原住地で我慢して居れと云ふんですか。シベリアに多數移住させてくれるならロシアに歸化しようと云ふ連中と、現在事實上必ずしも共産黨の政權掌握に心から幸福と贊美をささけて居る者とも見られぬいや不平の多い大多數のロシア農民のその共産主義的素養の有無にどれだけの階級をつけるつもりですか。」

折角私に御馳走したザクースカにコンボルト其のロシア珍料理の如クテーブルを獻とばした。私は僞の共産主義者とその一食を共にせじとなしたまでだ。食器は壊れた。スタカンはぶつとんだ。短氣な私の權幕に五人の共産黨員は啞然として何の手も下さなかつたが、私の通譯をして呉れた。又彼等に紹介の勞をとつて呉れた某君は全くその立場に困りぬいて居つた。

△「いやどうも失禮しました。私も諸君も國際會議を開いて居るのではありません。個人的意見交換なんでしたな。濟みませんでしたワハ、」ウオツカーの乾盃は重ねられた。

R 「ニチヨ。(いやどう致しまして)」

△「どうしてもお互ひは民族意識がありますね、此料見があつちや第三インターナショナルの理想到達までは相當遠いですね。己を愛すると云ふのは生物殊に人類の本能ですなあ。己を愛するが如く他人を愛する。そして隣人を愛してゆくと云ふのが人類相愛の基調でせうがね。しかし先づ己の最も近きものを愛する。日本のマルクス黨よりロシア人のマルクス黨が可愛いでせうね。ワハ、、私は日本のマルクス黨によくこの傳言を致しませうよ。」

其夜遅く支那の巡警に誰何され乍ら護照と支那大官の證明を示しつつ東支鐵道の露支紛争の最中にキタイスカヤ街の宿所に戻つた。母國日本には今無批判の社會主義を入れようとする者がある。共産

主義を金科玉條としてロシア語一つ喋れずにルバーシカの長髪で氣どらねば一かどの労働運動者ではないかの如く心得て居る者がある。そして近頃明るみに出された共産的賣國奴は、外國の金を貰つて外國の指圖に従つて母國を賣りにかかつた馬鹿者もあつた。同志とやらから神の如く崇拜された首領は、無垢の婦女十數人を弄び自ら豪華な待合遊びに耽つて私慾の本能を發揮した。理由のわからぬ青年書生連中が彼等の踏臺となつてあたり有爲の人材を棒にふつてしまつて氣の毒であつた。よく日本人の主義者がロシアで國寶扱ひだ、大變なもて方だと宣傳されるが、その男は日本國と云ふ背景があるからこそ少しは道具に使はれて優待も受けた男もあつたようだが、何彼等が一流浪の民であるならば入國も出來ぬ。人間並に扱つてもくれぬ。主義者が偉いのでなく日本帝國が磐石のようであるからユダヤロシアの犬となる者を探し求めて居る、その犬の役目をつくすからなのだ。

國際平和よろしい、不戰條約よろしい。それは誠に結構な事だが、それはつまり白人どもが永久に自國の優越權を現状維持にして置く手段の一つ、平和主義は人類の幸福だ。けれども被壓迫者はこのまま單に沈黙して居ると云ふのも可笑しい話だ。それは何時も白色人種が有色人種に要求する言葉であり、歐米人が亞細亞人に向つて脅喝する合ひ言葉ではないか。ソビエトロシアの常用語、世界に國境がなくなつて見ろ、人口の移動が自由であり生産資源が平等に分配され得る天下になつて見ろ、

アメリカは滅びた。印度人の自由は英帝國を明日直ちに最劣小にしてしまふ。日本のひよろひよろしい青二歳どもは又明日から野垂死にだ。そしてロシア人もその特權を失つてしまふ。強がつて居る無産黨とやらも、飯の種がない。アメリカや日本に無数の支那苦力が押しかけて來たならば、労働能率があり、體力は頑健、生活費は日本人の五分の一、もしも賃銀問題とくれば日本人の平均三分の一、四分の一以下でも平氣のもんだ。日本の百姓も明日から食へなくなるのだ。アメリカ人がキヤリフォルニア農園から邦人労働者を驅逐したのもつまりこれと同じ理由。日本人は賃銀は安い、生計費はかからぬそれぢやアメリカ労働者が労働市場で競争できぬからだ。こんな關係を萬國労働者の間にどう云ふ協定をして満足させてゆかうと云ふのか。各人種の又各人間個々の體質と腦力民族性の種々の先天的差異の一切を平等に取扱つてゆける道理がない。又現在の英米佛等々の白人社會の高級なる文化生活は、到底今更有色人のレベルに引き下けることはでき難い。それこそ白色人、文化人は有色人種に食はれてしまふ。白色文化人の自滅となる。ロシア共産主義者が我はロシア人もと云ふ認識を先天的に棄て凡て神の心を以て世界人に對す可き心情をもたぬ限り、又世界の人と同じコンデションを以て生存權のファーストステップを切りそれが悉く同じ歩調、同じラストに到着せぬ限り第三インターも又一つの夢だ。夢を追ひ夢に迷ひ、しかも或る赤色帝國主義者の言を妄信して

我が大多数民族の幸福を白人社會に賣り飛ばさんとする者は眼を今一度世界人の平等である可き管の生存權に注いでみる可きことだ。そして各人種、各民族の先天的各般の相異を見詰めることだ。日本の無産黨が結局はメンシビキの第二インターかポリシビキの第三インターかに結論されてゆく方向を辿り、既成政黨は國家人心を窒息せしめ國民の信頼を失ひたること前者と五十歩百歩、どうして明い政治と明い日本が生れて來よう。けれども私は日本現在の社會制度及經濟組織が完全であると云ふのではない。幾多改造さる可きしかも一日を争ふて緊要迫る可きものが多々蓄積して居る。頼むに足らぬ政治家、政黨、日本を誤らしむる無智強慾なる資本家、地主階級、又は國家の恩寵を楯にとりて反つて國礎を亂す無自覺なる特權階級、或は又權力反抗の遊戲に墮して居る錯覺の夢遊病的主義者産業の根本を破壊し國際經濟上に於ける日本の地位を忘却し且つ又國體に副はざる過激運動を弄ぶ者多々あらう、貧乏人も金持も同じく日本國民だ。今一度お互ひが日本を振返つてみる。そして其處に日本の現狀に照らし日本精神から出發する日本改造の方策を生ましめる力が湧いてもよさそうなもの。日本現在のジャズ的アメリカニズムの皮相的浮薄なる模倣、米國の缺點のみを學んで公然と社會に毒を流すこと、又他の一面に鬪争的ロシアニズムの盲目的心醉秘密の中に社會秩序を紊さんとするもの。これらは悉く五千年來の日本固有の傳統的精神と、國民性の本質を無視したる思想的腐敗

の結果であつて、この憂ふ可き亡國の兩尖端の觸れ合ふ極東君子國日本は、速かに日本精神から出發する大日本帝國の改造をはかり、國體の精華を益々發揮してしかも時代に適應す可き共に樂しみ共に苦しむ眞の國民的自覺に目醒めなければならぬ。

日本はアメリカとロシアの眞似をする必要はない。又彼等の精神的屬國になる必要はない。大日本獨自の誇りと美はしき傳統を提けて、左右中間各種の國家を賣り物にする輩から、眞に世界の中に日本の地位と現在の形勝を發見して次の大日本帝國臣民の全體の幸福のために、今日から樹立して行かねばならぬ國家政策が、まさに新日本の國民的正義に據つて創造文化として生れ出でねばならぬ。

内鮮はこれ一丸、共に大日本帝國臣民だ。祖先からの戀人同志だ。將來の内鮮民族の利福のためにジャズもいけない。共産も所詮机上の空理だ。大陸に連なる半島と日本列島内地に住居するこのすべての大日本國民等は、相團結して自らの生存權を世界に向つて平等に獲得する權利を有す。それはロシアに對しても又アメリカに對しても同様に、そして我等の愛する子孫をして世界の乞食として、そして體格の貧弱な又國産の少ない土地に育つたが故にして世界の路頭に迷はしてはいけない。平和なる手段により、今日に於て世界に要求す可き日本國民の生きてゆく方法として、少くともアメリカ人も、ロシア人も、そして又日本國民も平等にして公平なる神の待遇を享受す可きことを主張して

眞の人類文化の増進に寄與しようぢやないか。先づ半島と内地が一つにかたまる事、充分に抱擁し、一體同心となつてこそ、この主張は始めて世界の人人に聞かれることにならう。内鮮の志士出でて、内鮮の國士出でて如何に現在の日本の精神的改造を企てて民衆を救ひ、民衆の悉くをして恐れ多いこと乍ら民衆をして王者の師たらしむる心もちに導き、眞に内鮮兩民族の幸福のために内鮮融和の理想を着々實現し、兩者の圓滿なる方に據りて磐石の帝國をして更に泰山の安きに置かしむる者は誰も誰人であらうか。それは即ち内鮮の心ある青年同志の協力であり、それは即ち内鮮の若き男女が熱と力と理解ある正しき日本の認識からだ。これが兩民族の精神的永遠の生命力だ。内鮮無窮の生命力は民族文化に理想を樹立することだ。

無窮觀(理想と生命)

知見界は理念、作爲界は現實、知見は現實の經驗に由りて作爲を向上し、作爲は理念の傾倒に由りて知見を展開する。

大自然力は唯現實と無窮とを示す。之を人格化すれば現實は作爲、無窮は生命だ。大自然力に對する現實觀と無窮觀とを我が理念に收め、其の知見を作爲の上に展開しつつ無限に向ふ。これぞ人の生命である。分毫の偶然な大宇宙の作爲を仰ぎつつある人の知見は、亦理想を以て其生命を一貫するの

外なきことを悟り得る。個人を以て言へば理想は即ち志である。試みに一佛教家の志(誓願)を擧ぐれば、衆生無邊誓願度、煩惱無盡誓願斷、法門無量誓願學、佛道無上誓願成。(無邊の生類を救済し、無盡の煩悶を絶滅し、無量の理法を學修し、無上の佛道を體得せんことを誓ふ)と言ふのである。天地の在らぬ限り我が向上的努力は止めぬ。理想的人生、即ち永遠の生命は此處に在らねばならぬ。私は今雪齋翁の宇宙觀を靜に誦じて見たのだ。

世界の小供を抱く

それは昭和三年晩秋の出來事。場所は支那上海共同租界西部境界線から西約二哩の梵王渡にある極司非而ガーデン。ここは共同租界、北四川路から江灣路に廻つてゆく突當りの新公園と共に上海を訪れる旅人の誰しも思ひ出となる場所である。前者はセントジョンズ大學や動物園も隣りにあつて廣い芝生が起伏し、又は老樹が鬱然と深山の如く幽邃なる別天地、花壇の美はしさ後者は極東オリンピック大會の會場にあてられるグラウンド本位の公園、野球、ゴルフ、蹴球、等々の好適地。又花卉本位のフランス公園もある。

私はその極司非而ガーデンを、土地つ子のAさんとKさんの二人に連れられて散歩に出かけた。奇

麗な絨緞を敷きつめたような芝生の上に、五六歳から七八歳の男女児が十五六人、犬ころのように跳ね廻り、遊び飛んで居るぢやないか。

A『何をそんなに感心していらつしやるの。』

△『まあ世界人種の小供展覧會ぢやありませんか。』

K『そらあそうですね。上海は七十三の人種の寄り合ひ世帯なんですもの。私共は毎日外人といつしよに生活して居りますので、外國人に對する好奇心は魔靡しちやつてちつとも珍らしく感じなくなりました。だがね、あのジブシーのようなポルトギーだけはどうしても嫌ですわ。』

A『そうですね、ポルトギーは顔つきが日本人によく似て居りますので、外人と喧嘩したり、悪い事ばかりし乍らすぐ俺は日本人だと名前を騙るんですよ。だつて私など外國人に對して格別差別的な感じなんてもちませんよ。』

K『そらあそうですね。Aさんはバブリックスクールのお育ち、それに今又フランス學校へ行つていらつしやるんでせう。上海で十年も暮らして居られるんですもの、それで一層コスモポリタンの空氣におひたり遊ばすんですわ。』

△『私はああ云ふ小供等のように、世界の各人種が大人も仲善く喧嘩せず、遊べたらどんなに人類全

體が平和を樂しむことだらうかと思つて居る所です。』

このガーデンはどちらかと申せば租界の住宅地に住む外國人の紳士、紳商向きのお上品な場所、日本、英吉利、亞米利加、和蘭、獨逸、印度、露西亞、支那等々の上流家庭のお子さん等が、支那人の乳母とも云ふ可き阿媽につれられて母日芝生の上に遊びに来るのだ。勿論子供等は幼稚園の年頃、各本國の言葉さへ片言混り、勿論いつしよに戯むれ合つて居る日、英、佛、獨の各國語を知つて居る理由がない。それでもキャツ、キャツとはしやいでお手々をつないで居るから不思議ぢやないか。彼等の皮膚の色は親父そつくり、白、黒、茶褐、黄、まだらの色とりどり、髪のもその眼玉も骨相もそれぞれの人種の特長を示して居る。しかしこの子供等にはまだ悪智慧がつかない、環境や傳統又は習慣上からくる人種の差別觀が湧いて來ぬ。彼奴は支那人だ。彼奴は黒ンボぢやと云ふぎこちない人種的偏見より起る淺間しさが身に泌みこんで居らない。世間からけがされて居らぬ。この天真爛漫の心こそ白紙の平和の女神の赤き心臓の鼓動だ。この純情が世界の無垢なる小供の心に、誰がきたなく醜い利己的な墨を黒々と塗りつけてしまふのだらうか。いつの間にかやら全人類の天から受けた清き童心は年長するに従つて、物心がつき、やがて一人前の人間となるに及んでは全く思ひがけない程の人種的、排他的ひがみ心が偏見を生んでしまふ。

われは日本人也、われは英國人也又は支那人也と云ふ意識を自覺しつつ四方を見廻はす時、現在の人類社會が各人種、各文化の程度、握れる文明の特質等々に基いて、その上それらの人種のみがもつ傳統や歴史や又は各々の慣性や國狀から、不均衝、不自然なる人種的反感がわめくのは又神の惡戯として止むを得ない點の一つかも知れない。

△『Aさんこのミルクチョコレートね、みんな分配してやりませうか』

A『だつて先程アスターハウスのBさんが下すつたばかりやしちやありませんか、最近のロンドン土産、ココアバターやココアマツスの含有や溶解の手際など東洋の粗製品の味しか知らない方々からせひその高貴にして珍らしい風味を試食して欲しいつて仰しやつてましたね。』

△『何、私は大いにチョコレートの人類愛を發揮します。』

A『あなたも、随分氣前がいいわね。』

私はバリバリとその美しく化粧函を破り、折角英人のBさんから戴いて來たロンドンから直輸入の珍菓の一函を、其處に遊び耽つて居る世界の子供等に分配してやつた。所がその子供等は正直なものの、急に私を信用した。私になつて來た。そして頻りと私の手を引つぱつていつしよに遊べと云ふ。私とAさんとKさんの三人は遂にチョコレートが橋渡しとなつて白、黒、黄、褐、各色、各人種の若

き幼児と無言の友人となつた。言葉は通じないけれども異身傳心と身振り手真似だけで日、英、米、獨等々の幼年外交官とは直ちに國際的握手ができ心と心の解け合ふ一切の邪念を含まぬ懐しみが生じて來た。けれども聽てこの子供等が大きくなるに従つて運命づけられたる民族意識によつて互に反目し敵視せねばならぬ國際競争、人種的闘争、生存權角逐等によつてこの美はしい無差別の愛の至情たる人間社會の良心が、少年、青年、壯年となるに従つてその美しく小供の心が助長されずに消えてゆかねばならぬ定まつた環界に置かれてある事は情けなくなる話ぢやないか。こゝも人間社會は闘争するための世の中か。私共はこの公園を辭去してフランススタウンのマダカム式舗道をば街路樹に沿ふて散歩した。

△『やつぱりさつきチョコレートは、Bさんの好意だつたからいや食へ度くなりましたねい。』

A『そうらごらんさい。人類相愛も貴方の味覺を救済はしませんからねホ……』

K『Aさんもその癖チョコが欲しかつたんでせうが、まだ赤ちやんなんだから、△さんも阿姆なんかに迄同情して總花式に一箱をつくり振る舞ふんですもの、小供の分は兎に角、あの支那人のするい婆あさんなんかによつたつて、舶來の高價な西洋菓子味なんか知りませんのに惜しかつたわね。』

△『やあこれは上海のレデーは大いに人類の争鬭的本能を發揮しますなあ、いや私自身も甘黨の本領

をむき出しまして阿姆の分だけは確に未練が涌きましたね、取り返して來ませうか、ワハ……」
 愈々こうなつちやチヨコの一箱は人間が如何に醜い餓食道のエゴイストであつたか、何故思ひ切つて世界の子供や支那人の乳母連中にわけてやつたことにのみ満足ができなかつたのかと再考を要したのである。世界の子供等は今日あのガーデンでろくに言葉もわからぬのに、歩みもよちよちなのに、よく邪念とこだはりがないたため、かくも無言の中に和氣充溢、國際愛を如實に示して芝生に遊びころけて居つたぢやないか。我等は人類愛の理想を願ふ時、既に利己的自我的のロシア人、獨逸人になりきつた人ではだめだ。又日本人、支那人と唾み合ふことを目的とするために生れて來たような現狀的環境にばかり左右される大男の心ぢや仲善しはむづかしい。子供は純眞だ。色氣を出さぬ年頃迄の子供は殊に素直だ。我等は人種的差別觀のないこのすべてに於て偏見のないしかも清淨無垢な眞人間の天性をもつ世界の小供等を強くしつかりと抱きたい。そしてその天使の如き小供等の明るくしかも晴れやかな純情、そして一切無差別の心に學びつつ、眞の世界人の理想を現出す可き人類共存共榮の心底に我等自らの心を導かねばなるまい。大人ぶる世界の成人達、老人達は世界の小供の聲に聞け、その純眞の小供心には決して大人の持つ人種のけじめはないのである。敢て上海極司非而ガーデン芝生に於ける國際少年等が無邪氣のあそびとは限らぬ。内鮮民族の間、日支、日露民族の間又大いに然り

だ。この童心の明るさをもたざる相互の差別的觀察に罵りせめぐ間は到底東洋の平和をも又穩かな世界も生み出さぬであらう。
 △「昨日もね、〇〇大學の王女士が私の宿へお見えなすつたんですが、丁度中日經濟絶交的利害問題がお話の中心點となりまして、結論は『使所希望的、兩國親善切實發現、促成兩國經濟的進歩、永遠維持東亞的和平、幸甚、幸甚。』と話はまとまりましたがしかし人類共存共榮の理想は民族のけじめ、人種の差別を先づ撤去せしめることがその實現の第一歩だと王さんも申して居りましたよ。」

内鮮同治の理想を如何にす可きか

◎ 諺文紙の逆宣傳

言論政策の不賢明——或一線迄は自由にそれ以上は斷乎たれ——言論機關の人口に對する比例

◎ 朝鮮は植民地にあらず

民衆の希望の先手をうて——拓務省と植民行政——植民の文字を廢止せよ——併合の宏謀に差別なし——朝鮮常識を心得て置け——

◎ 總督の人物と官公吏の態度

朝鮮研究は官公吏の常識だ——朝鮮人の役人は日本を知つてゐるのか——政黨政商の毒素を排除せよ

◎ 民意暢達の適法

民衆の聲を山河に聞く——寺内、長谷川兩總督時代——憲兵行政も苦勞だつた——善意の改革と民情の程度——鮮人の偏見的先入意識をとれ——役人は親切であれ——

◎ 地方自治制度の將來

自治制の沿革——諮問機關の設置——中央集權から地方分權へ——公共團體の發達——參政權問題——地方制度改正の要望——議決機關

内鮮同治の理想を如何にす可きか

諺文紙の逆宣傳

此處は朝鮮科亭明月館のお座敷、神仙爐を圍む内地人だけの或る座談會席上。

Y 『そうですね。朝鮮も變つたもんです。大正八年の制度改正迄は、鮮人經營の新聞は許されなかつたんですが、あまり御機嫌をとり過ぎつちももうて始末に終へなくなつたんです。』

W 『諺文紙（朝鮮文字新聞）の發賣禁止を受けるのは、あれは彼等の手管ですね。一年に六七十回も禁止を受けた事がありました。が、こゝ慢性になつて來ますと、編輯長の方で當局の手心は萬承知ですが、故意にその日の印刷部數は減らして豫定通りの發賣禁止を食ふんですね。そうすると翌日朝鮮人仲間が争ふて買つて讀むそうです。そして發賣禁止を受けるから反つてあの新聞の人氣があるんだと朝鮮人が申して居りましたぜ。』

K 『同一新聞紙を一週に何回も發賣禁止を命ずるようぢや全く法の威信にも關係します。諺文紙には總督府當局が神經質ですから猶更面白がつてこれを嘲弄して居る氣味です。』

△ 『内地でもわざと問題の映畫と云ふように、極端な箇所を檢閲係りからカットして貰つたり、雜誌の發賣禁止を覺悟して誇大に廣告し營業政策に使ふと云ふ宣傳上手もありますからね。』

諺文紙〇〇報の不穩文字と云ふのが、當局の政策について事毎に反對して居ると云ふのも、Wさんの言はれるように或は本當にこの手なのかも知れませぬなあ。』

W 『治安維持上もつと嚴罰主義でゆかねばなりません。』

△ 『朝鮮人は内地人と比べて政治問題には興味をもつて居りますか。』

K 『それは大層議論好きです。殊に内地の學校歸りの連中は、まるで排日の修行に行つて來るようなもんです。そして政治を論ずる事、日本の施設に反對する事が自分の尊大心を満足させるように考へて居る者が多いと思ひます。』

Y 『私だつて何も朝鮮人の言論機關を殊更に壓迫し度いといふのではありませんが、それでも排日新聞に嘲弄されるなんて、癢に觸りますね。』

△ 『併しね新聞紙が人心を悪化するのか、人心が其處まで來て居るのか、だから營利新聞がニウスの時代性、興味性、區域性、道德性等を一切逆用してその地域的人心に迎合せねばならぬのでせうか、大いに研究の餘地がありますなあ、言論の自由は尊重せねばなりません。併し總督府當局者に

度胸が無いからでせうが、それは或るレベル迄言ひ度い放題にさせるんですよ。そしてそれが愈々統治権に反対する傾向が露骨にでもあらはれたならば断乎としてWさんの言はれるようにどしどし発行禁止です。昭和三年度も朝鮮人の不穩紙が二つ発行禁止を食つたようですね。少々位の奇矯な言動は、親分膚の抱擁力をでかくしてレベルまで我慢する必要がありません。或新聞に對してあの頃一年に何十回も發賣禁止を命じたなどは、第一法の威信に關するのみならず、相手の思ふ壺にはまりこむ逆宣傳と營業政策に使はれますぜワハ：』左傾派の演説會みたいに、辯士注意ッ辯士中止ッをまつてるんですね。』

K 『Yさん、あなたも新聞社の方でしたね、一體諺文紙の發行部数はどれ位あります。』

Y 『さあ確實の所はわかりませんが、何でも日刊の諺文が九つ位ありませうか、その中一つだけが内地人經營になつて居ります。昭和元年末の調査ですと内地人發行に係る新聞三〇、通信八、雜誌一、鮮人は新聞の他雜誌四、他に外人の英字紙が一つあります。とに角新聞紙法によるこれ等新聞雜誌の購讀者は、新聞紙二十八萬六千餘人、雜誌十六萬八千人弱、略四十五萬人ですから人口に比例しまして、新聞が約六千八百人に對して一枚、雜誌は約一萬一千六百人に對して一冊と云ふ勘定になりますかなあ。それで四千三百人に對して一つの直接文字を通して文化機關紙が舞ひこんで居

るわけになるようですよ。』

△ 『内地に於ける人口と言論機關との比率とは大分けたが違ひますね、文化の程度にもよるようですよ。それで朝鮮の思想問題つてのは随分惡化して居るらしいですね。』

K 『そうですね。微温的ぢやありません。朝鮮の民族主義運動は、最近社會主義運動と合流しまして、共に政治的鬭争によつて民族の解放を策しようとして居ります。それが諺文新聞を宣傳の主力とし、内地へゆく青年學生等が夏季鮮内で催す文化講演會、雄辯會等のあらゆる集會の機會を擲んで排日的民族主義思想の喚起につとめて居るようですよ。』

R 『日本の當局も餘程自重しませんと今に一部不逞の朝鮮人に手を噛まれる所か喉笛に食ひつかれませぬ。そして日本では朝鮮問題を眞摯に研究して居る實際政治家がまるで無いぢやありませんか。帝國議會に於ける朝鮮問題の質疑應答など随分常識の缺けた愚問愚答が加減にはあきれてしまひます。』

W 『しかし朝鮮問題ぢや植民政策ぢやと云ふ理論家はくそにもなりません。今のうちに中央政黨の弊害が朝鮮に及ぶようぢや統治の理想は大なしで、結局内地の食ひものにされるから朝鮮人が反對するんです。』

△『朝鮮統治の將來はどうか、あなたはどれが一番よい方法とお考へになられますか。』

K『さあそれはむづかしい問題ですね、それは私共内地人より朝鮮人の方が非常に切實に煩悶して居ります。』

△『それはそうです。先日も或る朝鮮の立派な紳士が私に聞かれました。朝鮮人は一體どうすればよいんでせうかと。私は困りましたなあ。私は即座に次のように應へました。』

『それはお互ひに胸襟を披いて協力一致し朝鮮の文化を向上せしめ、一日も速かに文明的政治の基礎を確立し、以て一視同仁の化と四海同胞の誼を常に軫念あらせ給ふ大御心に謹んで應へ奉るのみですとね。』

朝鮮は植民地にあらす

朝鮮統治の將來は實に我日本國家重大の運命にすら關係する問題だ。どうすれば半島民衆の心を眞に誘掖し得るのか。ただに總督府設置以來滿二十年百般の事物がその面目を改め、産業經濟が異常の發達を遂げた事ばかりで安心は出来ぬ。又人文の進歩と民福の増進が舊時代に比べて急激に向上の道

を辿つた事のみを以て朝鮮政治の實蹟が擧つたと誇るには餘りに時機が尙早ではないか。

拓務省がいくつ設置されたとして、朝鮮統治の熱心さを示すものでもあるまい。朝鮮統治の究極はすべての點に於て政治上、社會上内鮮同治の旨により朝鮮人を内地人と同一地位にたたしめ更に朝鮮文化の長所を發揮せしめて共に東洋の發展に資するにあらう。それは常に爲政者たるものが大衆の幸福のために賢明にその方法を考へ、その最小限度を示してゆくことにある。我日本帝國臣民の範圍内に於て、朝鮮民衆の希望の赴く所を、常にその先手をうちつつリードして行く進歩的政策が肝要ではあるまいか。曾て日本内地の普通選舉法は、固陋なる政治家によつて甚だしく危険視されたに不拘、しかもその議案の通過にあつてはその當時審議の衝にあつた朝野兩政黨員の大多數は心中に於ては反對しつつ世間的に賛成を餘儀なくせしめられたあの形は誠に醜いものであつた。つまり時代に引きづられて、でつち上げられたのだ。この危険視された普選法は、如何に日本國家の大局からみて國運の進展に明るい光りを示したが、文字通りの隔時代的國民の政治參與である。今私は朝鮮統治の前途を稽ふる時帝國の國礎を益々強固にし、それがためには内鮮兩民族の結合による文化と民力との向上は、即ち東洋平和の楔となることを思ひ、しからば、朝鮮の進歩向上に順應して如何なる民意暢達の形式をすすましむるか、それに對しては昭和三年から我が内閣に於て拓務省が新設せられた事はたし

かに朝鮮統治上最も重視すべき事柄の一つであつた。從來我國に於ては、植民統治の中央機關が其存在頗る不明瞭、中央政府當局官吏の氣儘に、或は事務局となり拓殖局と變り、人事行政から曾ては三十數年前に一度つきり拓殖務大臣が置かれた經驗もあつた。其所管も、或は内閣に直屬してみたり、外務省と内務省とに分割されたり、行政整理の槍玉に屢々見舞はれる程微弱であつた。過般迄の内閣直屬の拓殖局の如きは、總理大臣の事務取次であつて、其權限と所管事項が事實の上に植民行政の中央機關としてはあつてなきが如きものでもあつた。けれども今日のように腐敗墮落した黨人と俗吏が、偶々拓務省を新設して政黨の毒素を公然と横暴にふり撒くことがなければよいと謂ふ憂を一つ加へた。拓務省の新設もとより其主義精神に於て宜しい。日本の國狀からして社會省又は勞働省の方が魁す可きであると主張する學者もあるが、私は拓務省管轄内に總計二千五百萬人の同胞がふくまれ、それらの土地と人々の、經濟問題が責任ある大臣によつて閣議に論及されることだけでも確に拓務行政上の一進展とみなしてよろしからう。そして又忘れられ勝ちの朝鮮、臺灣の事情が内地の官民に積極的に紹介されることにより帝國政治家を鞭撻してこれらの地方の利福が問題とされる機會の多くなり得ることは喜ぶ可きことだ。しかし植民行政の權威ある獨立の一省を設置して、特に公明なる政治を要望し、混濁せる惡弊の除去を願ふ事に躊躇せざるものであるといふ黨人等の言動が、從來の

既成政黨の言動に徴して果してどの邊まで我等國民は信用してよいのか判斷がつかない。彼等が名實共に國民の選良として眞に國家萬年大局の上から、どうして拓務省設置の理想を一步々と實現してゆく度胸を備へて居るのか、その専任大臣が新附同胞利益の上に、政治的運用をどの程度に力説してくれるのか、どの邊まで朝鮮の實情を理解して居るのか、政黨が公然と朝鮮統治の上にも、繁瑣なる干渉及び制肘を示して醜惡なる政黨人及び政商輩を通じて如何なる方面に迄利權を食ひこみに來るか。今日のように黨爭著しく、黨弊夥しく、左右兩傾人氣とりのいがみ合ひ甚しいとき、政黨員やその取巻き連の政治的策謀によつて朝鮮統治の根幹を更により著しくぶちこはされはせぬかと、心あるものは眉をひそめてその成りゆきを忠良なる國民として監視するの責任があらう。

内地人はよく半島を目して我が植民地といふ。これは大なる誤稱であつてそれならば何故九州や四國は本州の植民地と稱さぬのか。いづれも今日は大日本帝國の領土であり、そこに住む同胞は同じく陛下の赤子である。朝鮮は内地との間に政治的從屬關係にたつ土地柄ではない。北海道や九州と同じ立場だ。且又本土に住む人、本土に生れた者が或る優越感を持ち度いななど考へたら、もつての他の沙汰だ。私は今ここに學問的に謂ふ植民地及植民地の意義をここに詮義だてしようとするのではないが、とにかく一般人をして從來の用語使用上の關係と字義そのものから誤り易い植民地、植民地人と云ふ

よくな征服者と被征服者との關係 又は本土の利益のために植民地を犠牲にするつもりだなんて全く思ひがけぬ誤解を屢々朝鮮人から我等は聞くような、その植民なる語を一切廢止して欲しいと思ふ。植民地扱ひだ、植民地気分だなんて言葉が弄ばれぬように爲政當局は翻譯的語句の末端がどんなに彼等の感情を害して居るか、こんな點にすらも深く留意して欲しいのだ。朝鮮は内地人のための植民地ではない。だから少くとも朝鮮に關する限り、植民政策と云ふ學問的意義の解釋から思ひがけぬ侮辱を聯想し易い言葉は、如何なる場合に於ても内鮮間に於ける文書には、公文や公示に使ひたくはないと思ふ。ここまでデリケートになつて居る鮮人の心理をよく究めてかからねばならぬのだ。植民地豫算などと政府の豫算案にも遠慮なく植民の語を亂用するから内地人は、あらぬ濡れ衣も着せらるるのだ。法制上研究も要しようが朝鮮豫算でよいぢやないか。はつきりせぬが拓務豫算でもよからう。その實際上の語句は政府豫算案の發表のときは事務的に考究してみればよい。何の氣なしに内地人の見て居る植民地豫算としてその項目中に朝鮮、臺灣等と記入したる活字に眼を怒らす新附同胞の心もちを察してみる思ひやりが、何故官僚には涌かぬのだらう。要すれば朝鮮の實際に常識が少ないからである。愚にもつかぬ文字上のことが、意外に深刻に朝鮮人の自尊心を傷つけて居ると事ふ事を知らぬのか。内鮮もとより我等と同じい日本臣民だ。何の差別的立場はない。

畏くも明治四十三年八月廿九日 明治天皇の給はりたる日韓併合の詔書を拜すれば、よくその併合の宏謨と民衆綏撫と文物開發の聖旨とを宣明にし給ひ、又前韓國皇帝は、同日勅諭を發し、韓國統治權の讓與は、東洋平和の保全と、有衆救活の至意に出づ、大小臣民國勢と時宜とを深察し、文明の新政に服従し、幸福を共受せよと宣諭せられたではないか。又大正八年八月十九日大正天皇の下し給へる朝鮮總督府官制改革の詔書に宣まへる聖慮の程を拜すれば實に

『直接朕カ綏撫ノ下ニ立チテ其ノ康福ヲ増進スヘク』『民衆ヲ愛撫スルコト一視同仁朕カ臣民トシテ秋毫ノ差異アルコトナク』との有難き思召しなのである。故に我等はこの大詔を謹んで拜し乍ら、内鮮融和の實現を求め自らが兩民族結合の楔となるの覺悟は内地人の等しく考慮す可き事柄ではあるまいかと思ふ。朝鮮は植民地でない。九州だ、四國だ、朝鮮だ、みんな同じ意味だ。差別觀などあるものか、誤れる植民の語の亂用とそのいとも違まじき聯想は捨ててしまへ。しかし私は過日次のようなにがにがしき場面にぶつかった。東京山手環狀線の省線電車に乗りこんだ折ラツシユアワーだ。座席がない吊革すらも不自由な程混雑して居つた。背廣口鬚の一内地人紳士、それと隣り合ひの白衣の鮮人勞働者、鮮勞の前に同じく吊革の極彩色委の内地美人。くだんの背廣がしきりと白衣の膝をつつく。私は變な男だと思ひ乍らじつとその行動を見つめて居つた。その白衣は近頃内地に來たら

う。知らぬ風に窓外の景色を眼めて居る。

『ヨボツお前はたて、女の方に席をゆすつてあける。』とにかくこの言葉は斷片的乍らはつきり私の鼓膜に響いてきた。そして背廣は猶も白衣の膝をつつき乍ら口説いて居る。たまりかねた私はその背廣に、人に注意をする位なら何故貴方が席を譲りませんか、言葉もろくに知らない朝鮮の方に失禮なお言葉ぢやありませんか。日本紳士の對面です。あなたは半分朝鮮語がお出来になるらしいですが朝鮮の何處にお住まいでしたか。』背廣も極彩色も下車した。私は白衣の隣に座つて鮮勞の覺束ない國語で『ありがとうございます。』と涙ぐむ言葉を聞いて私こそ人目を憚らず止度なく涙がにじんだのである。

『内地人も大勢の中ですからわからぬ人がありますからね。』

この心もち程ではなくとも一般内地人の朝鮮を植民地とみなし、朝鮮人を植民地の人と一段下手に見下ける心は何時になつたら改めるのかしら。内地と稱し又は朝鮮並に北海道を言ふは敢て其處に差別的野蠻人扱ひにしたつもりではない。机上の學問的定義よりして朝鮮が内地とは特別法域にあるの故を以てするならば、北海道や樺太又必ずしも本州と同一ならず。今日北海道居住者が本州を目して内地と稱するが故に、北海道への移住者住居民を目して土人扱ひをなし、該地を植民地と公稱してよい。

か。決して植民地だとみなして本州に住む者が威張れる義理は毛頭あるまい。内地と朝鮮との關係位置又これと同じなのだ。ただ北海道と朝鮮との間に若干の法域的差異があるならば、それは朝鮮半島には内地と異なつて居つた特別の文化があつたから、これを急激なる一切の内地氣分を以て、直ちに施設することは朝鮮人の幸福増進のためからみて、反つてその良序淳風迄も玉石混看されて、折角平和を愛し半島の文化的美點を誇る朝鮮人に對し、その社會及生活を迷亂に導くものであるから不取敢内地と特別法域にあるのだ。あの韓國時代數百年の批政が民心を傷け民度及國土を疲憊せしめた缺陷を補正し乍ら、逐次に半島の第二、第三の子孫のためには、相互により住み心地よき幸福なる日本國民としての、そして又内地人と全く平等な日本國民としての重大なる義務を負擔し、その國民的責任をわかちつつ、共に國民としての權利も受く可き時機を待つ間の暫定的措地に過ぎぬのではないか。私共は速かに内鮮同治の趣旨が徹底的に實施せらるる日の來るを待つ心根は朝鮮同胞以上の熱烈な希望に充ちて居るのだ。それは即ち大日本帝國の基礎を愈々磐石の重きにせしむる進歩的一階段であるからだ。

内地人が朝鮮に行くのは國內移住、國內轉住であつて植民地に出稼ぎするのではない。北海道もその通りだ。

拓務省が設置される頃、朝鮮同民會、國民協會、甲子俱樂部等の内鮮融和を目的とする朝鮮人團體が異句同音にも、拓務省は日韓併合の趣旨に反して朝鮮を南洋土人を同一の植民地扱ひするとしてやましかつたが、その事柄は所謂拓務なる字義の末節にこだはつた見解からではなかつた。勿論政府としては植民地統治の上に又海外植民及海外拓殖上に一生面を開き且つ我國の經濟問題の上にも重大な關係をもつ以上の如き諸項が獨立の一省によつて取扱はるることは國家として、必要であり民衆としても幸福であると云ふことにあつたのだ。しかし朝鮮人の考へ方は朝鮮總督府の上に又屋上屋を重ねるものとして、又は朝鮮統治は日本としては緊要重大なる問題とし、總督に絶大の權限を與へて派遣して居る。それにも不拘總督の地位が輕視されて臺灣や南洋と同一視されると云ふことは愈々もつて朝鮮を植民地扱ひする腹なんだらうと云ふのだ。

又從來は總督に對して誰でも直ちに意見を具申して宜しかつたのが、今度は更にその上に拓務省が設けられて鮮人が一日も速かに内地人と同様なる待遇を受けると云ふ内鮮融和論者の多年の主張がくつがへされたと云ふのだ。そして永久に土人扱ひするつもりなんだらう、それでなければ總理大臣と同格に等しい位の權限をもつて居る總督の地位を縮少する理由がないぢやないかと云ふ言ひ分なのだ。朝鮮人をして官制の煩瑣的壓迫の豫感を與へしめ、拓務大臣が上級官廳として總督の權限に干渉し惹

大なる朝鮮を拓殖事務の中に小さく軽く、南洋や海外移民などと同じく取扱ふのだと云ふが如き誤解を招かしたことは、爲政當局者が、朝鮮民衆の動きを知らなかつたに起因しよう。そして總督が總理大臣を経て天皇に上奏し又その裁可を仰ぎ或は法律と同様の効力を有する制令を公布するの權能且つ朝鮮全土の凡ての行政事務を取扱ふ等々の權限を縮小し、それを拓務大臣其他をしてこれに代らしめようと考へるが如きは、如何に朝鮮の統治が今や重大なる時機に遭遇してあり、總督の如きかかる地位と權限のある者が統治の實際にあたつて居らなければ、困難なる事情を孕み、且つ又由々しい弊害を生ずると云ふことに思ひ及ばなかつたのではないか。

幸にして拓務省設置は總督の權限縮小には及ばなかつた。そして朝鮮は何等關係ないとは非公式にプロバカンダされたようだつたが、拓務省の管轄に入れてしまへばそれこそ内地延長主義の日本の政策を自ら裏切つてしもうのであつた。朝鮮人にしてみれば早く内地と同格の凡ての待遇をうけ度いのは山々、そう云ふ人達は頗る穩健な思想のもちぬしなんだ。その親日的鮮人思想團體から日本の政府がお前は内鮮同治にするから暫くまてと云ふ看板を偽るのではないかと皮肉られては面目も何もあつたものぢやない。日本と離れて獨立しようと思ふ連中になしに、早く日本内地と同一の待遇をうけて朝鮮民族の幸福をはかり度いと云ふ我等の心を充分に理解する朝鮮人をして、一瞬であつても政府當局者

自らが拓殖又は植民と云ふ些小の字義から招く當然の差別観は、朝鮮を拓務大臣の権限内に入れてしもうこと、總督の権限を縮小してしもうことなど考へ出したまぬけさは何處から涌いたのか。その意味からして朝鮮總督府特別會計歳入歳出豫算等を臺灣、樺太、南洋等と共に植民地豫算の見出しに分類することなどは財政的に國庫補助を受けることに變りがないとしても、字義上からかくも朝鮮人が不快に感ずる文字を強ひて使用せなくてもよさそうなものぢやないか。或る朝鮮の老志士「私などは同志と共に常に自分の同族である朝鮮人から親日派としてうらまれて身邊すら危険のことが多かつたのです。しかし私共は大局の上から我が民族の生きてゆく道は、日本と結合するより他に方法はないと信じて居るのです。そのために日韓併合も親露派、事大黨などの政敵と死を争つて決行しましたし、爾來朝鮮人の参政權運動即ち内地と同一な日本國民としての希望を訴へて居るのです。しかるに朝鮮を永久に拓務省の管轄に移して植民地扱ひを始めようとしたね、ですから若い者が私共に食つてかかりましたよ。内地延長主義だ、一視同仁だなんて貴方は叫んで内鮮融和をとかれしたが、ざまあごらんさい。日本人は半島人を決して内地人と同じレベルに引き上げて内地人と同等なる權利義務をもつ日本國民として取扱ふつもりではなく、やはりマーシャル群島、カロリン群島、樺太のギリヤークや臺灣の生蕃人なみに半島人を植民地人扱ひする腹ですぜと申しました。幸ひ總督の権限や資格は拓務大臣と關係ないことにきまりましたが、その頃は私も若い者に會ふ顔がなくなりました、自分の死を決して民族のために多年叫んだ内鮮融和運動は反つて反對者ではなく日本政府の官僚によつて水泡に歸せしめらるるのではないかと泣きましたよ。」

その頃私はこの朝鮮老志士の言を聞いて冷汗三斗の思をした。日本内地朝野人士が今少し朝鮮問題の重大性を認識し且つ朝鮮事情に關する尋常第一學年の常識を具備して欲しいと思つた。

總督の人物と官公吏の態度

若しここに理想的の名總督があつても、一般下級官吏が總督の意を解せずしては佛つくつて魂入れざるの類である。内地人にして朝鮮官吏に採用す可き高等官以上の人物は、少くも朝鮮に關する民族心理學的研究を有し且つ朝鮮文化、部分的には例へば地理的、土俗學的に特種なる研究をなし或は諸般の技術官にしても充分朝鮮の常識とその文化に對する理解力を有するものにその資格を限定す可きである。内地人の總督府官吏が朝鮮古有の慣習及び文化を尊重し研究的態度をもつ可き熱心さは、これを舊慣及制度調査の小數委員會のみに任せてはいけななのだ。その在任中何年間にして朝鮮語の常識的修得の如きは一定の年月三年間位にしてその語學の能力なき者は遠慮なく交替せしめてよろしい程

の眞摯さが必要だ。如何に日本の國語が普及されてゆくにしても今日朝鮮語學を知悉して直接國語を知らざる鮮人と言葉を交へてこそ眞の行政事務はとれようと云ふもの。又小數の國語理解者と、時は朝鮮趣味を談じて個人的に交際するにしても朝鮮語は必要だ。即ち大多數の朝鮮人が日常朝鮮語を用ゆる限り自分も朝鮮語を理解し乍ら國語を相互に使ふだけの雅量と申さうか、常識と云ふか、朝鮮の山水と人に對する親しみと云ふかが必要だ。總督府にも朝鮮語學の獎勵法はあるが何年つとめても皆目わからぬ者が大部分、上級者程十年、十五年在鮮の官吏が片言まぢりにすら朝鮮語の挨拶や社交上の言葉でできないと云ふ情なき加減、諺文紙を讀んで朝鮮人の言論界をのぞくことすら不能だ。これは斷然任官してから三年以内に一定の試験を受く可き規定位必要ぢやないか。内鮮融和を語るにも朝鮮語は第一に必要ではないか。一々通譯の世話になるのぢや眞に朝鮮人を愛し朝鮮に親しみをもち官吏としてのつとめができるかと心得て居るのか。それと共に朝鮮人である官吏をして内地の事情を了知せしめる方法についても猶今日以上の熱烈さが肝要と思ふ。面吏員、學校職員其他の公職者が内地視察團として時々やつて來るが日本及日本人研究の基礎概念を與へずしてはその効果甚だ少ない。朝鮮に於ける内地人官吏をして朝鮮文化の常識的修養を得せしむることが必要である以上に、朝鮮人に對してもつと率直にしかも興味本位に充分日本の文物等に關する素養が根本的に與へられ

ねばならぬ。相知つて、始めて敬しそして愛する念が滯くので半可通的朝鮮通、又は内地通の多い所むしろ害のみ夥しいわけだ。又朝晩朝鮮人と接觸する總督府當局又は地方官吏たる内地人にして、誤りたる朝鮮人に對する優越感を藏する者が多いことは以ての沙汰だ。威容を示して高びしやに出たがるのは、官尊民卑の封建思想的所産であつて、その没常識の程度が内地の郵便局や村役場の窓口に起る程度の如く小さい範圍であつても、内鮮兩民族の間にまだしつくり合つて居らぬ相互のひがみ心が多々あるため、意外な反感を招く事が屢々あるではないか。内地人の官吏があんなに威張りやがつた。朝鮮人の巡查が俺をどなりやがつたと云ふ類の一些事も要すれば長い歴史的に違つた民族性が僅かの同居生活によつてそのかどが、まるくとれるものぢやないのだ。だから注意しなくつちやなんめいと云ふ理由だ。田舎の朝鮮百姓達が名もない一介の青年である旅人の私にさへ訴へを聞くことによつて見るも、如何に内地人官吏が鮮人に對して傲慢なる態度と口舌が統治上に無形の禍を醸して居るかが知察できたのである。殊に總督府官吏こそは最も模範的な内鮮融和の實行者でなければならぬ。それは一面からみれば怒らなくともよろしい點まで朝鮮人のひがみからぶつぶつやぐ事もあらうが、何も總督府の地方官吏や警官が、鳥なき里の蝙蝠だと悪罵される必要もなからうて。内地でも田舎の高等學校生徒が亂

暴を働いて自分等の高等教育を受けて居ることを鼻にかけて肩をそらして歩くが、東京などちや角帽が蛆のように無數に這つて居るので、高等學校の白筋帽ちやなどと威張り散らす阿呆者もはびこれない。

總督府の官公吏は民衆の最も信頼する相談相手であり又公僕である。總督が直接村々の戸籍簿を整理することもできないから諸君が代つて事務をとるわけ、自重して欲しいものだ。影響する所は總督の一舉手、一投足と何等異なる所はないのだ。又内地人と朝鮮人との總督府官吏任命及待遇の問題も、當然茲に解決される可き性質を有するものであつて、事實上の差別を來すが如き事は、今日の情熱にあつては生活的慣習其他に相當の理由は存するけれども、私は速かに現在以上に總督府の重要な官吏の地位に眞摯なる朝鮮人出身者の一人も多からんことを切望して止まないものであつて、敢て學務局長、道知事、郡守にとどまらないのである。

朝鮮總督は委任立法權を有するものだから、其適否の如きは直ちに日本の前途に禍福を招くのである。總督の人物が人格上如何はしい者であつたときその統治上に及ぼす悪影響ほど恐る可きはない。總督をした人ともあらう者が道徳的にだけでも世人嘲笑の中心となり、身は前陸軍大臣陸軍大將の榮職にあつて法廷に立つと云ふ事などは昭代の不祥事、疑念を抱かるるだけでも上。陛下に對して申し

わけがない。又下萬民にその不徳を耻う可く且つ朝鮮統治に及ぼしたる重大な悪影響と日本國軍全體の志氣に關與した問題ではなかつたのか。一前總督、一大將のやせ腹いくつあつても濟まされぬ國家的の重大なる精神的損失をどうするのか。今日の日本に於て直接その政治的衝にあたる人物、社會風教の指導者たる可き人々、上流貴族、富豪者等の行動が國民を欺き、民心の信頼をかち得ざる者、國家社會の中樞地位と實力ある環境を握るものあるとき、最も憂ふ可き人心の悪化を招來するものではないか。殊に朝鮮總督たる人の道徳的人格生活は玲瓏玉の如き一世の高徳者に限らなければならぬことを。内地人が朝鮮人に肩身のせまくならぬような立派な人物を奏請して貰ひたいとは最近の事件により一人その感を深うしたのである。總督の人物如何は半島在住者の休戚に關する重大問題、内地の府縣知事の更迭とは其影響する所二千萬人の朝鮮人に及ぼす心のひびきには甚だしい差異あるは勿論である。情實本位による任命の新任總督が若しもあり得るならば、其就任施政方針の長講一席も一夜造りとして民人は笛に合はせて躍るまいと思ふ。政黨政派の傀儡を總督府の重要椅子に座らせてはいけな

い。彼等をして名義の如何に關せず、特種銀行、會社、利權的亡者輩のために國運を阻止するようない結果を生ましめてはならぬ。新朝鮮に於ける綱紀の肅清は一入秋霜烈日の威嚴を存して欲しいと思ふ。政黨政派ありて一國あるを知らず、私利私腹の肥す事を知りて國利民福の共にはかる可きを知ら

ざるもの如きは、我等全國民の公敵として最も嚴重にこれを監視する必要があるのだ。殊にこの際である。巷間流布する所によれば、高級官吏が利権問題に關聯して其の功績の多少が任期に波及し、甲派、乙派の代辯人が重要な官職の地位を獲得した事はなかつたらうか。或は又總督府高官が就任勿々内閣の更迭と共に日淺くして朝鮮を去ると云ふが如きも、熱心誠意を披瀝して總督又は政務總監等々の本分を完うし能はざるのみならず、内地政變の度毎に重要官吏が餘震の浮き腰、地位の安固と處世術的諒解に狂奔し、又は面目も物かは戀々として椅子にしがみつきたがるのも見苦しい話。そして近來の如く政争の渦中に忠勤を勵み自己の榮達につとむるが如き事が必要なるものならば、即ち日本帝國の朝鮮にあらずして政黨人の朝鮮たるの奇觀を呈するものとみる可く國家のために甚だ寒心に耐へざる事ではあるまいか。總督、總監等の地位は、政黨政派を超越したる人物をして少くとも五年乃至七年又は適當の人格者ならば更に長く十年二十年と留任せしむるも妨げなき事にし度いと思ふ。而して政黨臭味と遍顔なる官僚閣を背景とせざる人格徳望識見が一世に秀いする國土に望みたいのである。朝鮮、臺灣、關東州等の總督又は長官級の人事行政は何とか政黨政治だから黨人の任命又止むを得ないと申せばそれ迄だが、黨人も少しは國家的立場から超黨の義人を常に推薦するだけの良心がないものか。少くとも各總督の地位を保證する制度をたて従來往々政黨の出店の如き高位高官者

を取り巻く蒼蠅の不徳、漢どもの出入と干渉を絶對的に改革せなければならぬ。總督又は總監が其異動と共に地方官の變更も免かれず。かくして貴重なる時日を空にせしむると共に理想ある大方策のもとに統治する事が出来なければ、居住民は年毎に不安焦燥に驅られ人心を倦ましむる事又甚しいからである。朝鮮半島は内地の政權亡者共の不純なる圈内から遠く高く超然たらしめねばならぬのであつて、政黨政治の腐敗墮落が好ましからざる事今日の如く甚しき折柄、黨臭札つきの男として明白に國民から看取される如何はしい者が總督府の首腦者として來往する事は獨り萬般の施政が朝令暮改の繁にたへざるは勿論である。而して朝鮮統治に對して何等の學識と經驗と才幹なきものが、ただ某政黨の背景を有するが故に又某政黨の利權漁りに好都合の案山子であるが故にと云ふのみを以て再び三度、幾度か新附同胞に對して黨略の惡弊をまざまざ見せつけてはならぬ。如何にその惡む可き不道德の行爲が内鮮融和の將來に害毒の多いか。それは又甚しきに及べば新附同胞の離反向背にも關係を生むことを憂ひなければならぬ問題となつて來よう。政黨政治の淨化運動は何の邊まで本當なのか。無産黨だ、社會運動だと云ふ連中がどの點まで日本國民としての行動なのか。私共は永遠に渝ることなき半島統治の根本政策に對して、朝鮮に關し何の造詣なき職業的政治家の出先どもが、所謂政黨第一萬能主義に據り統治政策の混亂を招來するの止むなきに致らしめ、半島文化開

發の前途を塗毒せしめざるためには、先づ二千萬の大衆にその信用を失墜せしめつつある黨弊の拒否と公明なる道義國家としての日本全體としても。大多數の忠良なる帝國臣民は、その國民的正義の力正義の輿論と理解ある力にまつてここに如何にして良法を求む可きか。政治問題と申せば日本國民は某内閣の倒壊すること、某内閣の生れること、政黨の泥試合、小黨派の分裂と結合と何の理窟もないことにはばかり面白がつて居るのでは誠に頼りにならぬ國民ではないか。國民の政治は國民の明快なる判斷によつて政黨者流の死命を制することが出来るのではないか。私黨の爪牙に半島を傷つけさせてはならぬ。陋劣無智なる非國民的、政客と政商、その取り巻きの美名の怪しき集團、國家主義を賣り物にして世を渡る者共、みなこれらは君國の大理想たる内鮮融和を紊亂せしむる一つ一つの原因を半島にまき散らすのではないか。徳高き總督、親しむ可き官吏を求め、そして政黨の跋扈と弊害を半島から取り除くことこれらの點に日本國民は正義の後楯と公明なる輿論的力量を示して欲しいのである。

民意暢達の適法

齋藤老總督が昭和四年九月三日再度の天命を拜して非常な決心をもつて懐かしい朝鮮の土地に一步を印したとき、釜山に於て示せるステートメントは時運の進展に應じ大いに民意の暢達をはかる旨

を述べた。又民衆生活の情況に應じ民衆の向上に伴ひ、權益の伸張に一段の工夫を要するものあるかと思ふと告げた。事實朝鮮は併合以來二十年歴代の總督は聖旨を奉戴して弊政の改革と人民の安寧幸福の増進に寄與して産業交通の發達普及はもとより其他の文化的向上は殆ど隔世の感ある事は、公平な立場をもつ歐米人の視察者が驚嘆すると共に、朝鮮人自らも舊韓國時代に比して萬般の向上人民の利福を勝ち得たる事は勿論であると叫ぶのである。しかし乍ら政治は動く人間を對照とし時代の實情に適切ならしむる要が肝腎である。そしてよく民力を充實せしめ、文化を向上せしめ、その政治的實績をあぐるためには、官民の意志の疏通をはかり、相互の理解が常に欠くることのないようにせねばならぬ。殊に朝鮮の統治に於ては民衆の聲に聞き荒涼たる山河の心に聞く。民意が果して何處にありやと念慮することが、忘れてならぬ事柄ではあるまいか。

併合の當初に於ては殊に新制度を實施するにあたり、民衆の理解と信頼を得る正義公道の施設とし、直接統治の局にあたる者は幾多困難を感じたことであらうか。世間では大正八年官制改革前を以て武斷主義の施政と稱し、爾後を文化政治と云ふがその區別は頗る皮相的觀察であり、前者は行政機關の他に特に憲兵隊長たる軍人が警察制度を管掌して居つたから無暴主義であつてそれ以後は全く一變して文治主義になつたと評する事も又當時に於ける民情の機微を知らぬ者の言である。あの混沌として

居つた舊韓國の政情と救済し難い亂脈極まる諸般制度の改廢斷行の轉換過程に於ては、所謂後人門外漢の譏る決意斷行の處置が確に必要でもあつた。そして所謂文治政治の前に併合直後のざわめきたつた朝鮮社會の舊制度を踏襲しつつ、しかも半島の開發と民衆の福利をはかるためには、財政及弊制の整理、税制の確立、地方制度の改善、教育の振長、産業の奨勵と交通の整備、又最も憂ひられたる治安の維持等に對し、文治政治時代の官吏よりも施政當初の官吏がどれ程その局にあたつて骨折り損の疲勞儲けをしたことであらう。地方の一般警察官が生命を的の軍人であつたから、そして充分の犠牲的誠心があつたればこそ、どしどし總督當局の所信を忠實に實行できたのもあつた。それだから漸次時代の推移を機會として文治主義とやら申すことも實行できるよになつたのである。それは即ち寺内、長谷川總督時代のみを壓迫の逆政時代と稱し、齋藤總督以後を文化政治時代と劃するが如き民衆に迎合する曲學阿世的屬吏根性とひがみ心は、眞に時代とその環境の止むを得ざりしを知らざる者であつて帝國歴代の總督は等しく 陛下の思召を奉じて一視同仁の大義を示すに變りない。しかもその時節と所により施政の實際に關し差異あるのみだ。

けれども寺内さん長谷川さん等が軍人氣質の物事に忠實過ぎたその責任觀から、思ひがけぬ相手に不十分なる諒解の儘、諸事を遂行し過ぎたことがあつたかも知れぬ。そしてその事はたとひ民衆の幸福

のためにしたことにしろ、當時未だ自覺なき愚蒙から意外の反感を買つたこともあらう。しかしそれだからと申して如何なる優秀の爲政者がその局に當つても寺内、長谷川の受けた總督政治の酷評を同じく甘受しなければやつてゆけぬ時期であつたとは、當時の半島の實情と急激なる社會的變化の過渡期にあつては誰しも是認してかからねばならぬことだ。私は茲に寺内、長谷川のみが無智妄迷なる總督であつたと云ふが如き説をなすもの多きをみ、坐りに往年の半島の社會環境に想到して内鮮人が兩總督及其時代の爲政當局者の眞面目さ加減を、今日の總督府官場と比較して果してどれだけの差異があるかよくみて欲しいと思ふ。施政の末端もとより萬善を期し難い。物情騒然たる事件ありしもこれ遼遠なる半島統治の前途に於ける一つの小波に過ぎない。しかも當時總督の所謂武斷政治の一とされた初等教育機關の改善と奨勵など今日の結果からみれば、當時民衆の戴いた反感が單なる遍見に起因して居つたことを發見する時誰人も今昔の感に耐へぬことで、これが單に教育に限らず衛生、交通、其他一般の新制度に對しても又同様であつた。

教育機關が明治三十九年の韓國政府學制改革當時今日の普通學校程度と認定されたものが公私立合して百校に過ぎなかつたが、明治四十三年の併合後漸く教育制度が確立されて二百校に及び大正八年度末には五百五十六校となり更に三面一校の計畫主義をたてたが今日では既に之が完成をみ昭和三年

五月末には其校数が一千四百十九校となり、これ又二面一校主義すら突破し、最近にありては一面一校計畫に努力して居る程普通教育は旺盛になつた。

しかるに朝鮮の教育は由來經學を主とし、儒教萬能か、さなくば讀書、習字、算盤の寺小屋式教育で一般民人は全く教育を受ける自覺心すらなかつた。それが實に併合前後の半島の實狀であり今日はそれに比してわれもわれもと進んで學校教育を要求し、一村一校なければ駄目ぢやと自らいきり出す元氣だ。この裏面には曾て地方警察官吏が悉く憲兵制度であつた場合を聯想するの雅量が肝要となつてくる。郡守始め憲兵や警官諸君がおだてたり、すかしたりして附近の學校に連れ出し新教育を受けさせるので大變な苦心が涌いた。何十年の惰眠からほつと眼が醒めたばかりの民度の低い鮮人をして、漸次内地人と同様な高い文化に引き上げようと努力することは當時の爲政者、下級行政官吏も並大抵の勞苦ではなかつたであらう。

例令一つの戸口調査問題にしろ從來専ら課税を目的とした韓國時代の民籍事務に於て、明治三十九年十一月統監府のとき各道の日本人警務顧問をして一定の期日に戸口調査を命じたのがそもその人口統計の最初であつて、五百萬人と公稱せられて居つた半島人口が一躍九百七十八萬一千六百七十一人と云ふ比較的精確なる實數をあけることができた。弊政の改革が爾來急激に人口の増加を來たした、

とは勿論である。その保護政治時代から併合の當初と申せは僅かに廿年、廿五年前のことではないか。

明治四十三年頃の半島地方民の狀況は、その戸籍や役場の事務に對する人民の態度など全く敬遠主義一天張り、人民は家族が生れても死んでも、一切無届の沈黙だ。それで大抵は誤魔化しができたものなのだ。役人の言ひがかりの範圍を最小限度にすることが彼等の念願。正直に生れた、又は死んだなんて届ければ何かと課税や誅求の對照とされるからだ。昔から半島の行政官に隠戸と云ふ惡風があつて、面から郡、郡から道と上級官廳へ戸口を報告する時その實數よりは段々少く減つてゆく。それは税金の割當額や賦役等にあたり情實をつくつて私益を求め手段なのだ。即ち各上級官廳へ報告する戸數と實際の戸數は若干多いのが常であつて、税賦の取り立てだけは一樣に申しつけるが其中の幾分か各下級役人が私腹を肥せる段どりで、賦役の如きも各郡守又は小役人が收賂をとつてその責任を免ぜしむるが如き、何十戸、何百戸かの公式帳簿登錄の戸數からの種々の税賦は大威張りで人民どもから直接葉ッば役人に献上された理由となるのだ。又人民自身もなる可く家族の人員などは役人に對して明白に知悉されぬ方が萬事幸福であつた。安心であつた。物質上の過重なる負擔はもとよ

り、無遠慮に夫役にひつぱり出され且つは無謀なる人權蹂躪を蒙る度數を最小限度に消極的防禦方

法を講ずるためには、娘など殊更内密にせねばならなかつた。こんな舊韓國時代の環境に置かれたそのまゝを受け継いだ人里遠い山奥の朝鮮部落に、新制度の安心できる行政事務を公平に撫育してゆかうと謂ふのだから平凡な事ではない。幾多の危険も伴ふたであらう。多大の苦痛も忍ばねばならなかつたであらう。一軒毎に世帯主が誰やら、子供が何人で其性別かどうなのやら調べあけるだけでも容易な事ではない。ともあれ僅か一つの戸口調査の項目だけでも、朝鮮民籍が新らしい戸籍簿に改められて大正四年迄に各面長に引きつぎを了したわけだ。それから道路の構築。税金のとりたて、執達吏役場から警部の職責迄、場所によつては税關事務迄憲兵の下士官達が實際の折衝に當つたので、生命的の軍人精神、その嚴格なる統帥系統を以て施政初期の最も困難を感じた時代に奮闘した陸軍憲兵諸君の功蹟をば、單に鮮人の言に迎合して斷壓政治の張本人の如く指すは自ら往時の環境を知らざるの愚を示すに過ぎない。腰の抜けたような内地の役場書記式の連中がどうしてこの人情も風俗も異なり、不安と焦燥も伴ふたこの施政初期に於てどしどしよいことを實際行ふて終る確信性があるものか、第一苦痛に耐へなかつただらうしその頃の憲兵等の決意は邊域の地に單獨派遣されて國政の下級事務を擔任せしめられた際は戰場に赴くと同様の堅い責任觀を固く握つて居つたのであるが、そんな度胸が役場の吏員や雇書記にできるものか。私は憲兵警察時代の努力は國家的にも決して其後の地方

官公吏の熱誠とは優れりとも劣れるものでないことを茲に明言する所以のものは、ただに事に處したる人々が現役軍人であるが故にそれは朝鮮人を壓迫したる武斷政治であつたと唱ふる者が内地人の奇を好む朝鮮通に多いから事新らしく再言する必要が涌いたのである。けれども施政匆忙の間、それらの人々が、直接最初の内地人官人として民衆に接したとき、土地の人情風俗に無智であつた點が多からう。不用意の間に誤解を生ぜしめ、鮮人の反感を招いた事はあつただらう。朝鮮特有の社會制度、傳統などを知らなかつたので、すべて自己の内地人としての經驗からのみ。又軍人氣質にてきばきと無遠慮にその任務の達成に精進した事が豫想もせぬ内地人官吏の横暴だと反響したこともありそうな事柄だ。新政に期待が大きかつただけ急激にその民衆の個々の生活環境が豊かになる理由もなし、又すほらであつた舊韓國の批政を根本的に改良する最初の企畫に、直接その民衆に日々接する役目を引き受けた内地人官吏たる彼等が、その態度やその素振りが朝鮮在來の型にはめこまれた人々からみれば頗る生意氣にも眼に映じた事であらう。今日の朝鮮地方行政事務を視察せんとする者は、須くその併合初期の所謂評判の悪かつた武斷政治とやらの昔が如何なる點に於て特にその注意を後人が拂つてみねばならぬかを聯想もしてみたい。

例へば戸口調査のため鮮人民家に出かける時、古來半島の長衣に纏はれた相當家庭の婦人は、生涯

他人の男子に顔を見せぬと謂ふ習慣を知らなかつた内地官吏が、内房の奥屋敷までつかつかと押し入つて隠しだてのある箇所をしらべる事もある。それは朝鮮社會の慣例からみれば大變なる非道德的事件であつて、内地人こそ平氣ぢやが、今日ですら朝鮮人の補助憲兵や朝鮮人官吏は昔の兩班や豪家の威光が身に泌みて、長年の階級的傳統から自分より上位の者として容易に其處の屋敷に取調べ事項があつても入りきれぬ遠慮ふりを示す程だ。内地官吏が權門でも平民でも平等にしかも無遠慮にその職務を遂行するものだから、朝鮮の人情及風俗に逆ふ事態を往々醸すのは又止むを得なかつただらう。

内房の奥まで入るはまだしものこと、敬老思想の極端に旺盛な半島に於ては、確かにこれも美風の一つに相異なるが甚しく形式本位に流れて若者に反對を受けるが、親の前では煙草は吸つていけない。眼鏡をかけてはならぬ。膝を崩しては許さぬ。等々その隔壁が夥しいので、違ひ自分より身分の卑しい者でもそれが年長者であれば一切無條件で敬意を表する次第、若い者は絶對服從の義務があつた。しかるに年若い内地人官憲が年老いた朝鮮百姓を叱り飛ばしたり、若い者と同様に取扱つたりするものだから古老連は青筋たてて怒る機會が多かつた。言語の通ぜぬ、又は半可通のために相互にどれ程誤解を生んだ事でもあらう。この鬱積が施政初期時代の民衆から受けた反感的原因の重大なるものである。

つたことは否み難い。其頃の半島では田舎の農民は自己の姓名が全く無い者が多かつた。それで戸別訪問調査の憲兵達が一符號代りに名づけ親となつて、お前の名はこれこれぢやと申し渡してゆく。太郎、次郎、お花はまだしもお染、久松や大鹽平八郎、國定忠次なんて名前をつけて貰つた連中もあつた。文字通り自己の名前も知らぬ又必要も感ぜぬ暢氣者が多かつたのである。

『お前の家には確實が何人か、長孫は都合何人になるのだ』と尋ねてみても誰も本當の返事をする者がない。嘘言ばかりだ。それは若しもうつかりして役人に告白したら税賦の不當苛酷の割當が増すばかり、無理難題の種をこちらから白上する必要があるまいと謂ふ舊韓國時代の惡政に身震ひするわけ、調査する方ぢや大概この家の家族は何人と見當がついて居るのだから

『若しお前が今私に言つたより他に人がみつかつたら、お前の家の者でないから連れて歸るぞ。』と脅かしても頑暎固陋と云ふよりは、併合前の逆政を恐れる農民は猶も小供や娘を祕してしもう。何時迄たつても戸口の調査が出来ないと云ふのであるから遂には『よしあく迄も嘘言をつくなら、若し私が今お前の家を探して子供がみつければその子供を殺して

もよろしいか。」と怒鳴られて漸く私の家族は何人、何人ですと正直に報告する騒ぎだ。
 こんな事迄やつて漸く正確な戸口を調べあげ、適齢に達すれば種痘だ、それ就學だと思ひ嫌ふ鮮人を衛生上、教育上其他各般の文化向上のために手をひつぱり足腰を押しあけて明るい政治の大御代を知悉せしめたのであつた。

しかしこの善意の行政が、鮮人にとつてはその當時は不安と焦燥に驅られ、總督政治の非を鳴らす種に使つたでもあらうけれども、今日は反對にまだ小學校が不足だ。衛生上の設備を充實して呉れと自ら請願と運動をやる程積極的に文化向上を求めて來たのである。朝鮮總督は、徒らに美辭麗句をならべたて自己の功蹟を誇張し勝ちなる屬吏の提出する報告書のみ満足せず、大多數下層民の實生活を自ら熟知し、つとめて、路傍の一鮮農とも懇談する機会をつくり、世局の進運に順應して、その民心の實情を直接に聞く事が肝要だ。果して今日の朝鮮民衆はその文化の向上と充實を要求する心根が眞にどこから湧いて來たのか、何を求めつつ邁進して來て居るのか。名もなかつた鮮農は今や文化人として時代の尖端を歩み續けて居る時節だ。

私は或る日京城光化門外の朝鮮住家密集する巷に兩班李氏を訪れた。彼は内鮮蝸和の鮮人志士として何十年。所謂身邊の危険と戦ひ、不退の徒輩からは罵られ、しかも其間にあつて毅然として大局

から朝鮮民族の前途のためには、完全に日本と結合し速かに日本内地人と同等の凡ての權義を獲得する事が鮮人の苦衷を救済して東亞の和平を求め得る唯一の方法と確信して居つた。ために彼はその全財産を投げすてて彼の指導する内鮮融和の鮮人團體のために身を棄てて居る老儒學者の一人だ。私は朝鮮を旅する毎にいつも彼の東洋の志士的風格に接して半島の風雲急なりし往年の昔語りを聞くのが常であつた。今回も談話々々時局問題から民意暢達の事に及び彼の如き親日論者でも次のような不平が事毎に多いことを知り。總督府の爲政當局者は十二分に彼等のよつて招き易い心情の程を一入度外視せざらん事を痛切に感得したのであつた。

『私が平安北道の未開墾地開墾願を出した事がありました。普通の朝鮮人では中々感情上當局は許可しませんが、願出人が私でしたから早速中央當局からのお聲がかりがありましたものか、割合にたやすく問題が取り運ばれたんです。それで低利資金を融通してやれと謂ふ大官からは形式的に鶴の一聲が〇〇銀行の重役にあつたのですが、それが内地人の相當名士なら人物を信用してどしどし融通はつける前例なんです。私には擔保物件を示せと嚴重に申し渡しがあつたんです。』

『それで私は命ぜらるる儘に擔保物權を提出しましたんです。しかし最初願ひ出てから遂に半年も融通金を渡して呉れませんでした。併し私は最初は凡てを善意に解釋して普通の銀行貸出でも重役迄

書類が廻るのは、そして又下級の者に達する迄は往復二週間はかからう。又その上手数もかかると思つて居りましたから擔保の調査も相當の日子まあ一ヶ月位はたつかも知れまいと考へました。所が從來同一地方に於ける開墾願はその手續完了後實際に融資をして戴くのは、三週間か一ヶ月が最長限度でしたね、内地人に對してはですが……。それが私共朝鮮人に關する限り不動産の確實なる擔保があり、又連帶保證人が歴きとした鮮人資産家であるに不拘六ヶ月も延びてしまつたんです。』

△「そうするとあなたは結局融資をしてもらひましたか。』

『はあ半年後には低利補助金二萬九千圓を貸下けて呉れましたがやつぱり朝鮮人の悲しさ折角の好機を逸して貧弱なる私は大損害を重ねました。從來の該地方に於ける内地人開墾者の慣例だけを調べて萬端手續を済ましたただけでは駄目でした。遂に直接の融資が間に合はなかつたために、毎日何百圓と云ふ金が餘分に出費となりました。その間に解氷期が來ましてね、それが從來の慣習上せめて二ヶ月の日子で融資して呉れたらよかつたんですが、御存じの通り結氷前の一日の勞働能率は結氷後の三日以上に比例しますのでね。』

この事などは内地でも縣廳等に對して或種の認可を申請する時、表立關から役所の窓口にかかり出ても中々むづかしいが、政黨關係や因縁情實を通して申し出れば、殊に上級官廳の政黨關係から

でも諒解を以てすれば二つ返事で圓滿に事が運ぶことが多い。朝鮮に於ては凡て内地人の名義、内地人有力者の裏書きひつければ文句無し、朝鮮人なら尋常一様ぢやねつけれしまうと云ふこの老鮮人紳士の言が何處まで合理的な言ひ分であるかは不明であるが、偶然にもその開墾低資の關係が如何なる事情により調査が遅れたかは不明である。併し融つてこれを又〇〇銀行の當事者の立場から見れば、たとひ老紳士に如何に同情して居つても確實の程度に擔保物權の調査を必要とするのは當然のことだが、何故お百度を踏んだこの老紳士にのみ強ひて延引して困らしてやらうと考へる理由も存ぜぬ。内地人であるから特別に信用する。朝鮮人であるからその内容が内地人と全く同一の條件であつても嚴重の審査と云ふよりは、同時に二個の案件が裁斷を要する場合先づ分地人願出人に優先權を與へてやると謂ふ事が實際あるものかどうか。私はこの場合寧ろ東洋拓殖や朝鮮殖産等の銀行は一般的に朝鮮人は内地人より技術は拙劣であり、融通も利かず近代的管理の諸方面や法律上其他手續の不馴れも多からうから、優先權は喜んで凡ての産業開發の場合同一の條件を具備して居る時は、先づ朝鮮人を助ける方策がよろしい。所謂我が明治維新直後の士族の商法の如く、近年迄甚だ幼稚であつた朝鮮の經濟組織から急に變革した近代的金融機關や企業體系については不熟練の失策を招くことも多いのであるから、この點に留意して内地人以上に親切と同情を捧げてやつて欲しいのだ。

朝鮮人をして言はしむれば、朝鮮人には内地人よりも特別によい條件で保護して貰ひ度ひと謂ふのだ。それも最も千萬の話だ。魚心あれば水心ありで、官吏が内地人である場合は殊更に内地人の便宜を取計ると云ふ考へは無いにしろ、とかくにひがみ心を過分にもつ朝鮮人を勞はつて貰ひ度いと思ふ。

内地大資本の朝鮮に流入するために、経済的實力の乏しい鮮人が経済市場に於て壓迫を受けるのは現代の経済制度では止むを得ぬ結果であらう。

けれども常に原住人たる朝鮮人の経済的生活の安定を測るためには、適當なる政策を以て半島人を擁護して眞に内鮮人共存共榮の経済生活を營み得るようにしてやり度い。

『それで又ね、朝鮮人は商賣が下手でせう。それだから内地人同様に低資を融通して貰つても、その期限迄には収益を擧げることが出来ないのです。中々困難です。それで若し定められた期限が來ますと東拓や殖銀は容謝なく擔保を沒收するんでせう。内地人は鮮人よりも凡て物事が上手で経済眼もありますから高利貸につかまれたようなことは少ないですよ。』

朝鮮に於ける官有財産拂下げに於ては、鑛山採掘權、未開墾地の經營、工業及び水産に關する競賣又は請負等々にしても許可はどしどしするが、殆んど全部は内地人であつて、鮮人に對しては甚だしく

ないのです。實際朝鮮に於ける特殊會社など申しますが、其資本金に對する貸付割合又は願出に對する許可など果してどれだけ鮮人に與へたものでせうか。

種々、鮮人の聲を聞くとき一應その事の當否は別問題としても充分にその民意を汲んでやらねばならぬと思ふけれども、又朝鮮人は凡て内地人の一事が萬事のなすこと凡てに對して色眼を持つて眺め勝ちだ。最初から唾み合ひの態度がある。感情化してものの靜態的觀察を失つてはならぬ。内地人の官民が特別に朝鮮人を忌避してしまつては半島の統治は全く滯つてもふだらう。又そんな事があらう筈がない。それこそ、一視同仁の大義にもとる非國家的不祥事だ。どこ迄も疑つて居つたらきりがない。腐つた女の根性でもあるまいに、いい加減の所で男性的に疑を去つてしまふことだ。何はともあれそれは内鮮人相互の理解が不足のためだ。

曾て京城某紙の鮮人記者私に訴へて謂ふ。内地朝鮮間の貿易狀況に付いて、移出入税を設けるのは内地延長主義に反し、朝鮮半島を内地と経済的に差別待遇するものだと言ふが、それが大正十二年四月關稅の障壁が該鮮人記者の希望通り大部分撤廢せられ、唯朝鮮の産業發達保護のために、若干の品目のみ制限を附したのであつたが、前記同一人の筆と舌によつて次回に私が京城を訪れたとき、日本は朝鮮半島と内地との貿易に於て移入税を撤廢したのは、朝鮮人の經濟を根本から壓迫する

ものであると再び私に食つてかかつた。各々そこに經濟上の理論はあらうが、私はその餘りにも掌を返すあつさりした所論の變更ぶりに驚いた。

凡ての場合に於てこう云ふ自分ばかりの立場を考へる朝鮮人識者も可成り多いと謂ふことも忘れてならぬ事柄だ。この種の議論も進んで胸襟を開いて聞くと云ふ事が即ち民意暢達の一つなのだ。

私は茲に猶一言附して置かねばならぬことは總督府の官憲等が、内地人式に一片の官報や府報、公報等の告知ばかりで、法律常識や自治觀念には、遙かに内地人よりは疏い朝鮮人をそれと同様に遇すると云ふは決して親切なる方法ではあるまいと思ふ。内地とは文化の程度やその習慣及傳統が甚だ異なる土地柄であるから、所謂官僚式、お役所風よりも、もつとびつたりと朝鮮田園の民度や還境に應じて更に適切なる示達の方便もあらうと云ふもの、下級官吏が四角定規一天張りて提出した一件書類を突つ返す方はまだ上の部、こちらはとくに受理されたと思つて安心して居れば、何時の間にか書類の不完全を名として放置したまま正式の届がまだ出ぬからと罰則が適用されて居る、こう云ふようなことは今日に於ても朝鮮人から屢々聞く事である。その民度に應じ、煩雜なる文書の取扱を簡便迅速ならしむることも必要ぢやが、不親切な取扱ひぶり、殊に舊韓政時代の官吏の威光を眞似たがる朝鮮人出身の多數屬吏始め、ともすれば誤つた優越感を抱かうとする内地人吏僚輩の儔ぶりを素板

り等も手傳つて、日本の統治は無慈悲だ。勝手がわからぬと云ふので痛くその純眞なる感情を求め、害せしむることもあるわけだ。曾て併合の直後には民情視察事務官があつたが大正八年の官制改革からは監察官と改められたが、直接に民情の機微を洞察して總督に委細復命する役柄もその治化の普及をはかる趣旨に出でたものに相異なるまいが、朝鮮統治の任に當る爲政者は上下擧つて自ら民情視察官の心を以て鮮人の心に聞き、その不平の存する所を寛容の態度を以て靜に調査し、且つ勞はり助けたり見たり弟たるの眞情を日夕の生活にも示して貰ひたいのだ。敢て爲政者官吏に屬するものと限らぬ。官民一致、内鮮有識者悉くお互ひの心もちを開放してしもふふことにある。

そして 聖旨を謹んで敷衍し、銳意王道政治の徹底を策し、朝鮮半島をして出來得る限り速かに内地延長の實を擧げしむることに努力して貰ひ度いと思ふ。これはお互の責任でもあるのだ。民意暢達を怠れば善意の施政も思はぬ誤解を受ける。内鮮人の親しみからすべての相互にまつるはる偏見的先入意識を取り去つて眞の心もちを常に承知して置く事だ。

地方自治制度の將來

朝鮮統治の大方針は明治四十三年日韓併合の際下し給へる 明治天皇の詔書に明白であつて、即ち

一視同仁の大義に遵ひ民衆の福利を増進し以て東洋の平和を確保するにある。百般の行政施設は素より此の聖旨の實現を企圖したものである。しかも施政以來滿二十年を閲したる今日、時勢の進運と朝鮮の實情とに一入適合せしめ、その文化的制度の革新に據り朝鮮人を誘導提擲する具體的統治方法を更に深く考究するの必要に迫られて居るのではないかと思ふ。要すれば朝鮮人のためにその幸福増進を計り速かに政治上社會上の待遇に於ても内地人と同一の取扱ひをなす可き究極の目的を達するため、朝鮮文化の發達と民力涵養の上に、地上とも爲政者が誠心誠意獻身的努力をなすことである。それは即ち聖旨の普及をはかり朝鮮人が一體となりて同胞愛と共同輯睦の實を擧げしむる理想實現の一端ではないか。この意味から朝鮮の地方制度をみるとき舊韓國時代には、全く地方行政としては官治のみで自治行政などあらう筈がない。日韓併合の前年(隆熙三年)に各道に地方費制度を設け面協議費に若干の慣例が行はれて居つただけで、自治行政らしいのは開港地に於ける各國の居留民團が、治外法權による居留民行政を施行して居つたがこれも併合以後沙汰止みとなり大正三年始めて市街地行政の府制が行はれ、地方制度としては道地方費制度の他に普通學校費用令、各面には大正六年から形式的から事實上の面制度も生れ市街地には官治の下に任命による協議會員を諮問として設け内地人の學校組合の自治制を認められた程度を歩いてるに過ぎなかつた。地方制度の上には大正八年は重大なる一

轉機であつて、官制改革の結果併合の當初から主として舊韓政を踏襲して居るやに見えた地方制度は道長官を道知事と改め、憲兵による警察制度に代ふるに普通警察官を以てし、地方警察の權限を全く道知事の管轄に移し、一般行政に就いても亦道知事の權限を擴張して地方分任主義の實現に努め、更に地方團體の制度に一大變革が加へられて、地方自治制度を實施するの準備として各團體に民意に基づく諮問機關をつくらねばならぬと云ふに至つたのである。要すれば中央集權的施設を改廢して地方分權の實現に務め將來の地方自治制度確立の方針が定まつたのであつた。その法令が出たのは大正九年七月廿九日である。即ち内地の府縣費に當る各道の地方費に關しては、道評議會なる諮問機關があり、其の會員は十八人乃至三十七人を定員とし、其の三分の一は學識名望あるものから官選し、三分の二は府面の協議會員を選擧人とする間接選舉式の方法に依つて道知事から任命せられ、内地の市にあたる府及町村に當る面にも、協議會があつて、各府面人口の多寡により八人乃至三十人を定員とし、府及朝鮮總督の指定する面では之を民選とし、其他の面では官より任命するのである。この諮問制度も最近に及んでは大いに改善の必要に迫られて居るのではないか。猶朝鮮に於ては、内地と異なり、内地人と朝鮮人と普通教育について國語等の關係から其制度を同一にすることが出来ぬため、學校經費については、

一般行政費と離して別々に團體を設けてある。即ち朝鮮人の側では、各府郡島に學校費と稱するものがあつて、主として、普通教育に關する事務を掌り、府尹、郡守、島司が之を管理して居る。之にも學校評議會と申す諮問機關を置き、各府の學校評議會員は、府内の朝鮮人口數に依り六人乃至二十人の郡島の學校評議員は、郡、島内の面の數と同數を以て定員とし、前者は民選、後者は面協議會員を選擧人とした間接選舉の方法に依り任命されることになつて居り、内地人側では學校組合があつて申請に依り設立を許し、これのみは純然たる自治制度を認められ、此等各團體の經費も近年非常に増加して來たのである。

以上の如き地方諸團體の發達過程をみれば、道地方費の歲計は明治四十三年度に於て各道を通じて百三十餘萬圓に過ぎなかつたものが、昭和四年度には三千三百二十六萬餘圓となつて約二十五倍強を示してきた。

府の歲計はその制度施行の初年たる大正三年度に於て二百十萬圓であつたものが、大正十年度には四百二十萬圓、昭和三年度は一千百六十萬圓、面はその制度施行翌年たる大正七年度に於て僅に四百五十萬圓であつたものが、昭和三年には二千七百七十萬圓となり、學校費の歲計は大正元年制度施行當時九十萬圓に過ぎぬのが、大正十年度に至つて一千萬圓、昭和三年度には一千四百萬圓、學校組合

は大正三年制度改正當時が百萬圓、大正十年四百萬圓、昭和三年度六百萬圓に増加し、地方團體の施設が著しく向上發展したるは官民の協力一致の賜とみてよからう。此他特種公共組合として水利組合があり、當局が山野荒廢の半島に對して、年々旱害と水害に悩む民衆のため、行政上の大眼目として治水事業の完成を期するためこの自治的水利組合も地方制度の緊要なる事項となつて居ることを忘れてはならぬ。

將來朝鮮に地方自治制度を施すと謂ふ前提のもとに、大正八年官制改革の折地方分任主義に一步の實現を諮つてから既に十年、併合以來滿二十年を閲したる今日、確に半島の面目は文化的に向上して一新したのである。私は爾後總督府當局が地方公共團體の成立を認め以て地方自治の基礎を確立し、則ち其結果として幾分地方分權主義から文治的施設となり、官制改革前に比して何程かその處務が簡捷されたか知れないとは思ふのである。或は又公共團體そのものに於ても、法定の人格となり、隣保共同の主體となり、公共事業の自營となり克く官民分治の畛域を明確にし、その公益を益々伸暢し、教化を宣敷し、社會の安寧と民人の福祉を増進するの途を開いたことは偉大であつた。朝鮮治政轉近の十年は、即ち漸次立憲政治の民たるを認識し、新制度の實施から近き將來地方自治制度の完全にして圓滿なる發達を招く可き試金石のつもりではあつたことと思ふ。朝鮮の民衆は、既に地方自治制

行期には、數歩を踏み込んで居るのであつて、自治助長の民意尊重時代から逐次民意採用時代に入る可き道途にあるものではないか。

しかし乍ら過般起つた慶尙南道の評議會事件の如きは、折角地方自治機關の設置を醸成す可き時機にあつて、甚だ不詳なる傾向であつた。しかも半島人の狭量は總督府當局の施政に關し、事ごとくに人心を惑亂し、公安を阻害する小數若干の大局に自覺せざるの輩が、その自己の有する誤解と偏見を除去し、その言動を慎しまざる限り一般良民は容易に完全なる内地人と同様の地方自治制度の實施に對して、欣躍す可き時機を迎へることが出來兼ねると思ふ。

齋藤總督が昭和五年の初春に朝鮮より携へ來たつてその主務省に占さんとする朝鮮地方自治制度擴張案の内容は今詳細に聞知はせぬが、朝鮮民衆生活の情況に應じ一層これが安定を期し民度の向上に伴ひ權益の伸張に一段の工夫を加へるものであることは勿論だ。

その地方制度中果して如何なる程度に改造が行はれるものであらうか。府尹、面長などの諮問機關が或範圍の議決機關となるのであらうか。その議員選任方法の制限がどの程度迄開放されてくるのか。朝鮮人本位の統治がどの點迄容認され眞に内鮮融和、内地延長主義から速かに朝鮮人が内地人と同一の地位を獲得して朝鮮人の心の奥底に潛む所の、民衆生活の底を流れる或る種の民族意識

を和けるのだらうか、その地方自治制に關する民人の希望を果して實際問題としてどの程度迄容認する可きものか。私は輝けるひとみをもつて鮮人と等しくその成行を注視しつつ、朝鮮統治の理想のためを決して植民地にはあらざる我が半島のために、そして過去に於て立派な文化と長い歴史を有した同文同種の兄弟民族のために、進歩的なる自治行政を與へられんことを切望するのであつた。朝鮮は進歩した。それは舊韓國の半島ではない。大日本帝國の半島だ。大日本帝國臣民の半島人だ。半島人は忠良にして立派なる日本國民であると云ふ前提のもとに凡ての改革なり施政なりの方策が内鮮融和のために實行されなければならぬのだ。昨今朝鮮の地方自治制度改善の聲喧しいとき一入この思ひやりを以て私は更に一考せなければならなかつた。

道に於ける諮問機關たる道評議會が、歳入出豫算、地方税、使用税、手数料又は夫役現品の賦課、徴收、其他重要事項に關し、道知事の諮問に應ずるのであるが、其定員の十八人乃至三十七人の三分の二は、府及面協議會員の選舉したる候補者について之を任命し、他の三分の一は道知事が之を任命するのであるから、今一步その諮問機關としての實質を向上せしむるために、全會員を府及面協議會員の選舉によりしものから任命したいと思ふ。

先づこの漸進的歩調から續いてこの間接任命議員をして直接の選舉議員のみに定め更に諮問機關の

内容が逐次或範圍の議決に進めることが肝要であらう。又府及面に於ける協議會が、國の官吏たる府尹又は面長の諮問機關として、府の條例又は面の財政等の重要事項を協議する機關であつて、各々其任期が三ヶ年の名譽職であるが、府協議會員は帝國臣民にして獨立の生計を營む年齢廿五年以上の男子一年以上府住民となり、總督の指定したる府稅年額五圓以上を收むる者をして選舉母體となして居るが、納稅資格の撤廢と獨立の生計を營む者に限定する字句とは、早晩改善する可き點ではあるまいか。面協議會員は人口に應じて八人乃至十四人とし現在の所總督の指定する四十三の場所だけ法定の選舉人をして選舉せしめて居るが、其他の面に於ては、官吏たる郡守又は島司が法定資格者の中から民意を參酌して衆望の歸する者を舉げる趣旨である。

面長の諮問機關である面協議會の會員の選任方法に就いては、その民度とその社會風潮に照らして府協議會員と共に民選議員たるの性質を充分に含めしめて欲しいと思はれる。

府はもとより相當範圍の指定面だけでも速にその諮問機關に過ぎなかつた協議會を議決機關に改め漸次その協議會の權限の擴充をはかり且つ大多數の面が悉く指定面の待遇を受ける事にし度いとも思ふ。選舉權の範圍も朝鮮民衆が公民としての本分と義務を全うす可き選境が奈邊に動きつつあるかを爲政者は速に洞察する事が肝要ではあるまいか。

朝鮮人に地方自治制度の公民權を與ふ可きは豫定の事實であり、その府及面協議會員の選任方法と權限の諮問から議決に擴充する可きは、寧ろ今日に於ては時機遲しの感なきを得ない。しかし最近爲政當局者がこの地方自治制の一步を踏み出すことについて、從來懸念して居つた憂を自らとり除いて地方自治機關の充實向上を實際的に改善する決心を定めた事を見究める時、私は純粹に朝鮮人本位の公民權が生れ出づることを喜悅し甚だ大なる期待を以てその發表の日を待望するのであつた。この改善する可き地方自治制が多少ともその進展をみ、内鮮同治主義にもたらす可きその一助が單に半島統治二十年の物質的治績を誇るにとどまらず、眞に半島人の生活苦をも救助す可き實際運動として先づこの府及面の自治制の内容を備へることに焦心すると云ふ時代の傾向を嬉しく思ふのだ。中央總督の諮問機關たる中樞院の顧問、參議又は副參議等の現制度が、以て朝鮮固有の文化習慣を斟酌し、その名譽學識ある朝鮮人が直接に總督の諮問に應ずる事は、又民意暢達の便法であつて、統治の中央行政機關に對する朝鮮人唯一の立場である。この諮問機關をして官選から民選に、その權限の擴大、少くとも諮問事項の明示範圍の要求をなす者もあるが、私はそれらを要求する前に先づ下級の面、府から公民權の訓練を經、地方自治機關から逐次その改善の階段を踏んでゆくのが至當と思ふ。參政權の運動については、今茲に詳述批判する餘裕をもたないが一言は明記せねばなるまい。それが帝國臣民の

範圍内に於て立憲法治國民としての妥當にして穩健なる内容である限り地方自治制と共に充分考究す可き問題であつて、獨立運動と異なりこの種の參政權運動は國民の正しい要求として聖代の臣民としての新同胞の美はしい内鮮融和運動の一として大いに助長して欲しいもの一つだ。それと共に總督の委任立法權の權限縮小にも波及してくる筈だ。

即ち朝鮮半島にも内地人と同様なる衆議院議員選舉法を執行す可しとなすものがあるが、これはその半島人口に比例して出馬せしむるときは、反つて内地帝國議會の混亂を招く禍因を醸成するは明かにして、内地人の政黨はこの百數十名の朝鮮議員によつて結局キヤスチングボートを握られ、この政黨政派の争ひ激甚なる時、朝鮮議員に一切の政治が左右されることは帝國全體として決して幸福を招くものでなく、又朝鮮の事情に暗い内地人議員が朝鮮の事に關して左程の興味をもつ理由もない。朝鮮に地方議會を設け朝鮮人議員をして或る委任されたる範圍の、しかも朝鮮の人情、風俗と還境に於て獨特の趣を生ずる事項のみを審議せしむる方策が、賢明であると思はれる。それが反つて内地とは特別の社會團體がもつ、その歴史的、傳統的特種事情と慣習を尊重し、朝鮮民人のみのもつ特能を遺憾なく發揚せしむることができると思ふ。内地と全く同一なる規則に拘泥し、それを過急にしかも文字通り實施せんと試みるが如きは、内地延長主義の文字を知つてその眞精神の實際的に考究す可き

點について迷妄を固執するに等しいのであつて、眞の内鮮融和は、彼等のもつ長所美點を中核として保護助長すると共に、曾て内地に於て多年經驗せる良きもののみを與へて、大日本帝國臣民としての權利義務を心から徹底せしむる氣分を鮮人に示すことであらうか。

先づ地方自治制度確立の一步を實現することが急務ではないか。内地に於ても明治十一年、郡區町村編制法が發布され、明治二十年舊市町村制が明治四十四年現行の市町村制となつた程遅々たる改革であつて、府縣制の改正の如きも最近の問題に屬し、府縣會が府縣條令を設けることが出来ること云ふその權限擴張には、所謂世の識者はその成行を大層心配したのであつた。丁度普通選舉法が内地に施行せられても、國運の明き進展をみたけれどもそのために普選反對論者の憂ひとしたる國家の前途に多大の危険を伴ふなりと叫んだことは反つて物笑ひとなつた程だ。それで又想像した通り普選法が施かれても、帝國議會の内容と品位には格別變化はもち來たさぬが、ただ氣もちの上にごく明るい晴れやかさを示してきただけだ。今朝鮮の地方自治制度に於て府及若干の指定面だけ協議會を諮問機關から議決機關に改革しその議員の選任方法についても擴充をはかると云ふことは、その具體的事實は少ないけれども民心に對して明るい一脈の希望を與へることだけでも結構なことだ。この心を以てこの調子を以て更に第二、第三の公民權の擴大と共に地方自治制が速に内地人と同等に迄向上

せしむる機會が來ることを國家のために願ひ度い迄である。

爾餘の所謂參政權の問題は地方自治の經驗を具備し、その所謂傾向と洗鍊をみて然る後に再考察を加へても遅くはないと思ふ。私共は半島二千萬の同胞と共に聖訓を奉戴し、國體の精華を發揚し、内鮮が共存共榮の實を擧げ皇國の隆昌を扶翼することに精勵し度いと誓ふのであつて、内地人が長い年月を経て昨今漸く完全に近い地方自治制を獲得し得た經驗よりも、朝鮮人はより速かに常に前途に明るいその希望を以て進み得る如く喝望して止まないものである。

この時にあたり愈々朝鮮の地方自治權確立に關する地方制度改正に關し、濱口内閣は松田拓相と齋藤總督とが協議したその要綱を閣議に於て承認したと云ふことを耳にした私は、やがて近く總督府の制令案として發布される日を待ち詫びて居る。

これは朝鮮統治の歴史上、あの大正九年の制度改正について、斷然朝鮮政治の上の新紀元を劃するものとして活目に價すると思ふ。その具體的の地方制度改正要綱には、

第一府制

- 一、府協議會を府會に府協議會員を府會議員に改め諮問機關を議決機關とす。
- 二、府會に議長及副議長を置き議長は府尹を以てこれに當て副議長は議員中よりこれを選舉す。

三、議員の任期を四ヶ年に改む

四、府制改正に伴ひ府に於ける學校組合及學校費を廢止し府會に第一教育部會及第二教育部會を設

第二面制

一、面制を邑面制に改む

二、現在の指定面(四十三あり)を邑に改めその以外を面とす

三、邑に邑會を置き議決機關とす

(現在の指定面協議會は諮問機關)

四、面に選舉制度を設く但し面協議會は諮問機關とす

五、議員及協議會員の任期を四年に改む

六、施行期日は昭和六年四月一日とす

第三道制

- 一、道評議會を道會に改め諮問機關を議決機關とす

二、道會に議長及副議長を置き議長は道知事を以てこれに當て副議長は道會に於いて議員中よりこれを選舉す

三、道會は定員の三分の二はこれを選舉し三分の一は道知事これを任命す選舉す可き議員は府會議員邑會議員及面協議會員をしてこれを選舉せしむ

四、議員の任期を四年に改む

五、施行期日は追つて改正府制及改正邑面制の施行後に於いて朝鮮總督之を定む

第四 議決機關に對する監督權

議決機關を設くる團體に對する監督權は之を相當範圍内となし違法又は不當の議決を取消し及び再議の命令を爲し得るは勿論原案の執行を爲し停會及解散を命じ得るものとす。

今これを舊制と比較してみると、その權限問題に關し、從來の道、府、面の評議會、協議會を改めて、道會、府會、面會とすると共に、その諮詢機關に過ぎなかつたのを議決機關に改めたのである。

又選舉方法が従來は四十三の指定面だけが選舉權を有し、その他の面は官選議員であり、府は指定面と共に納稅額五圓以上の内鮮人のみに選舉權を與へ、道は評議員三分の二を府面協議員の復選、他の三分の一は官選議員であつたが、今後は、その範圍が擴張されて指定面以外にも選舉權を與ふることに

になつたのである。

しかし猶二千五百の普通面は民度これに伴はずと云ふ理由を以て選舉權が與へられてないが、これは近き將來改革さる可きものだらう、殊に選舉資格が納稅五圓の制限選舉の域を脱せぬのは舊態依然たるもの、今數歩民意の赴く所を考察して斷乎その制限を撤廢したらどうであらうか、諮問機關が議決機關になつた事は、これは重大な改革である。事實上諮問では意義をなさない、暫定的な方法であつたにしても議決權がなければ、地方自治制ではないのだ。中央集權的から地方分權的に一段の飛躍をなしたものである。

そして議決機關の參與し得る地方豫算も從來の列舉主義から更に擴大されるであらうことを希望する。新地方自治制の施行は朝鮮同胞の自治的能力とその公民的訓練が獲得せる最初の一步である。私は必然的に第二第三の新制度が半島に施行され内鮮融合がすべての點に於て合致する日の近き事を祈るのであつた。そして今回の制度改革が恰も大正九年の改革から十年を閲したるその過程を顧みて一は啞然たり一は衷心の喜悅たるを感ずるのだ。